

飯舘村 住民意向調査 報告書

平成28年3月

復興庁
福島県
飯舘村

飯舘村 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	22
3-1-4 震災発生当時の住居形態	28
3-1-5 避難前の自宅へ戻る頻度	29
3-1-6 避難前の自宅へ定期的に戻る理由	30
3-1-7 避難で留守にしている間の自宅の状況	31
3-1-8 現在の住居形態	33
3-1-9 現在のペットの飼育状況	37
3-2 復興公営住宅の入居意向	38
3-2-1 復興公営住宅へ入居意向	38
3-2-2 復興公営住宅へ入居を希望する自治体と世帯構成	42
3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス	46
3-2-4 復興公営住宅へ入居を現時点で判断できない理由	48
3-2-5 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態	50

3-2-6	復興公営住宅への入居を希望しない場合に 居住したい自治体	52
3-3	将来の意向	54
3-3-1	飯舘村への帰還意向	54
3-3-2	飯舘村への帰還時期	59
3-3-3	飯舘村へ戻る場合の家族	61
3-3-4	飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数	63
3-3-5	飯舘村へ帰還する場合の住居形態	64
3-3-6	飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	67
3-3-7	村営住宅への入居意向	68
3-3-8	村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）への希望	70
3-3-9	飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	72
3-3-10	飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報	75
3-3-11	帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において 必要な支援	78
3-3-12	現時点で戻らないと決めている理由	80
3-3-13	帰還しない場合に居住したい自治体	83
3-3-14	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	85
3-3-15	飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において 必要な支援	86
3-2-16	飯舘村との“つながり”を保ちたいか	89
3-4	現在の生活について	91
3-4-1	避難後の家族の食生活・栄養状態	91
3-4-2	家族の生活や体調などの変化	93
3-4-3	自身及び家族の健康状態	95
3-4-4	飯舘村で実施している家庭訪問による健康・ 生活支援相談	97
3-4-5	友人・知人・地域コミュニティ面での困りごと	100
3-4-6	子どもたちの教育についての心配ごと	102
3-4-7	教育の充実を図るために必要なこと	103
3-4-8	放射線に関しての勉強会等の開催する際の 参加のしやすさ	104
3-4-9	除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理	105

3-4-10	除染終了後の農地の維持管理	106
3-5	意見・要望	107
IV	参考資料	119
4-1	使用調査票	121

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、飯舘村住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	飯舘村
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 2,970 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成27年12月7日（月）～平成27年12月21日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、飯舘村
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,341 世帯（有効回収率 45.2%）

1-5 報告書の見方

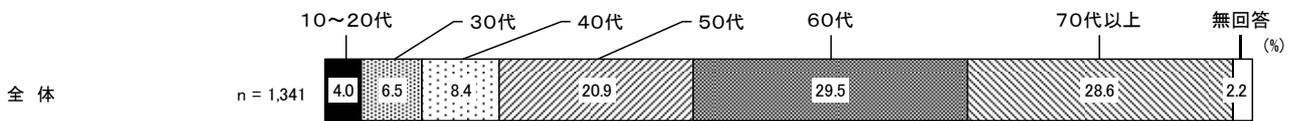
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

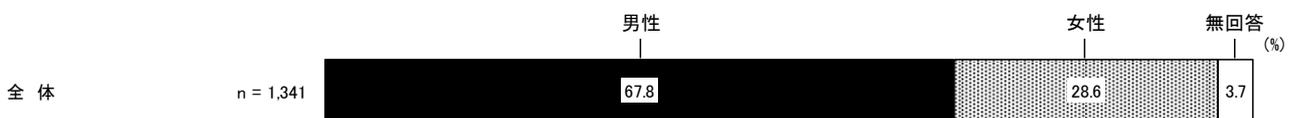
(1) 年齢

<図表2-1-1>



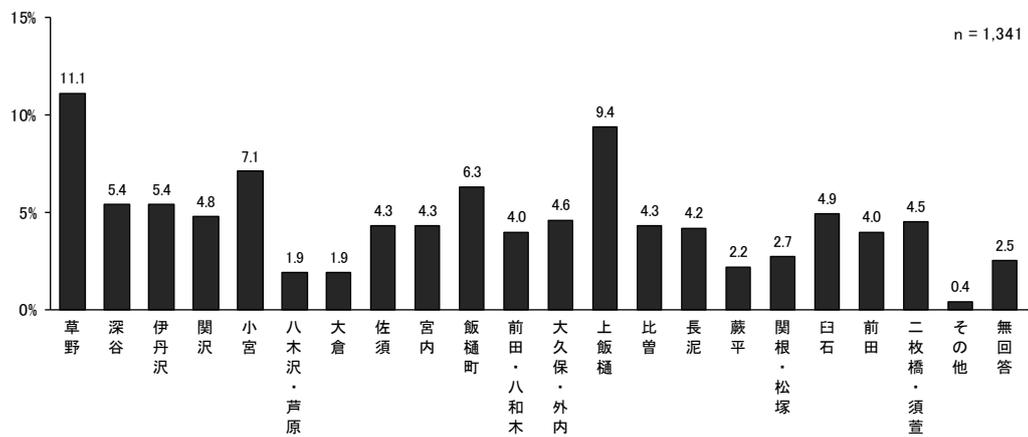
(2) 性別

<図表2-1-2>



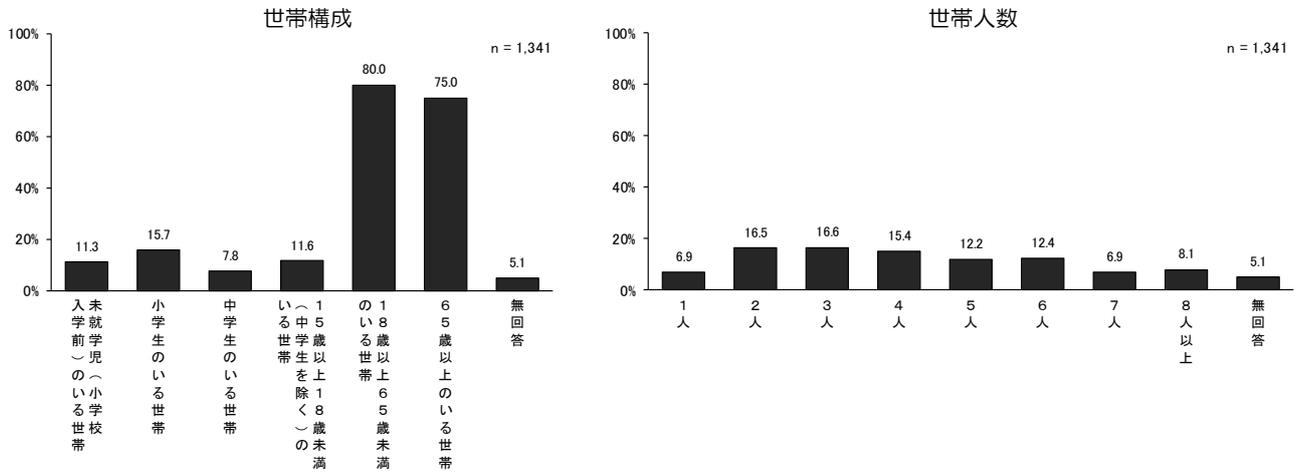
(2) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-3>



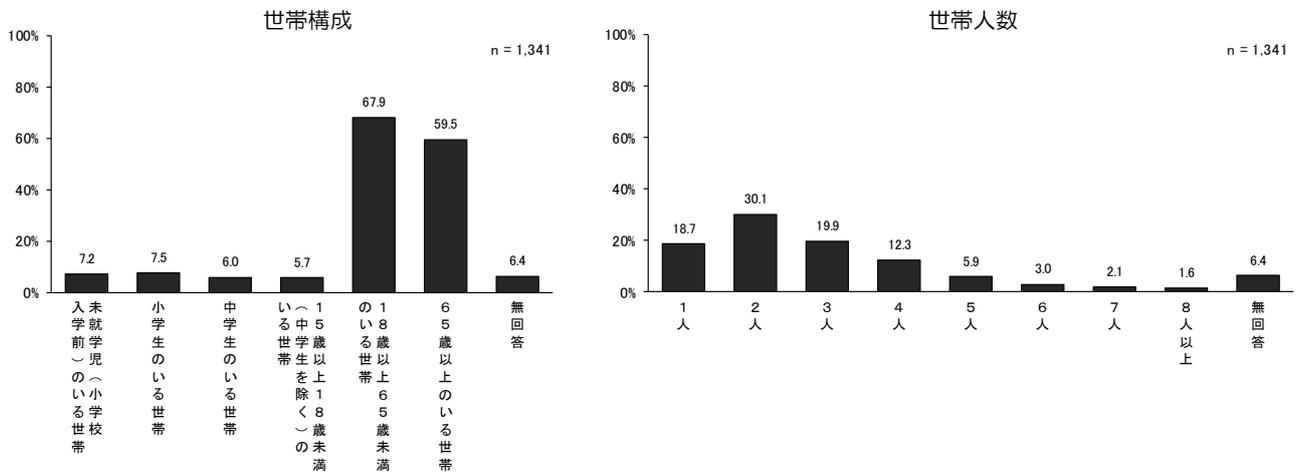
(4) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



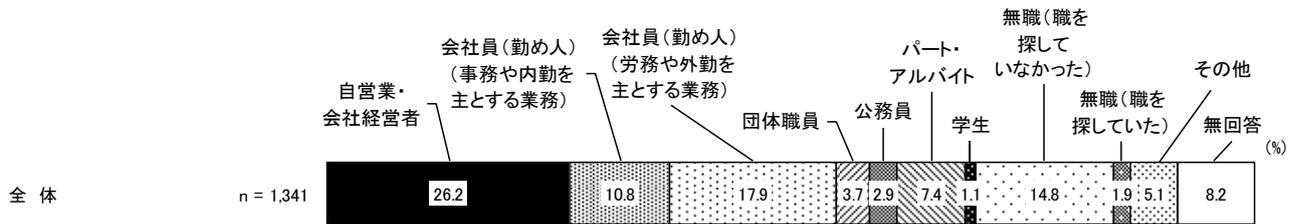
(5) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-5>



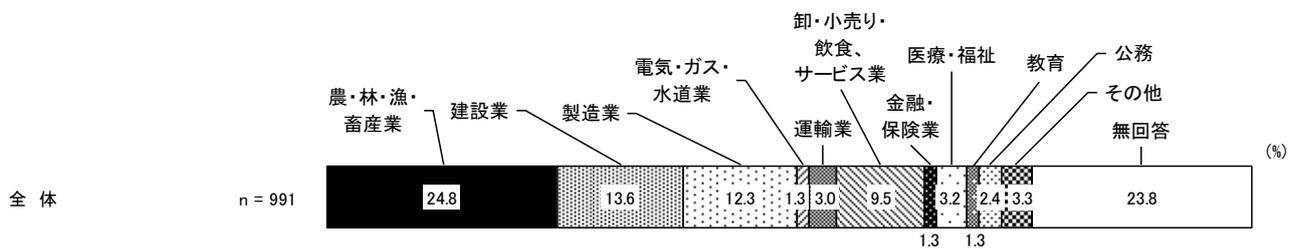
(6) 震災発生当時の職業（就業形態）

<図表2-1-6>



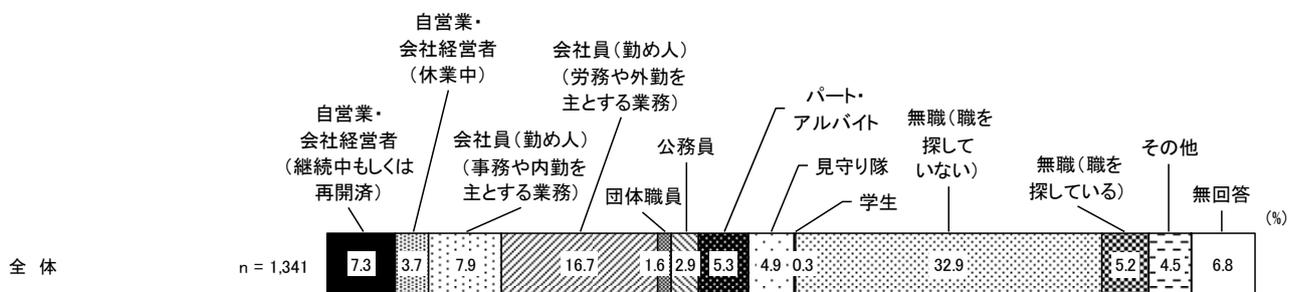
(7) 震災発生当時の職業（業種）

<図表2-1-7>



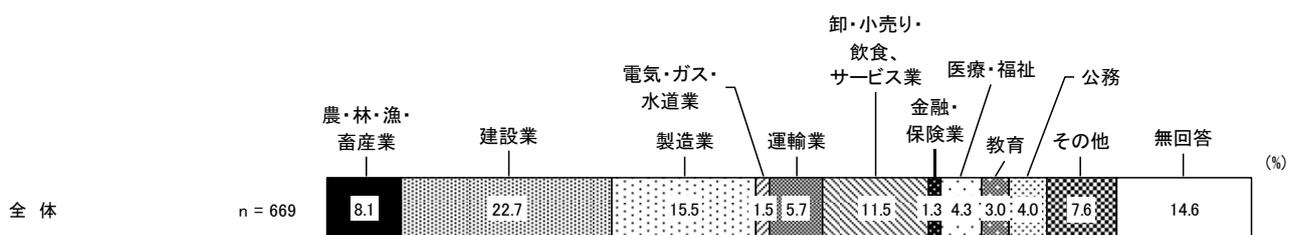
(8) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-8>



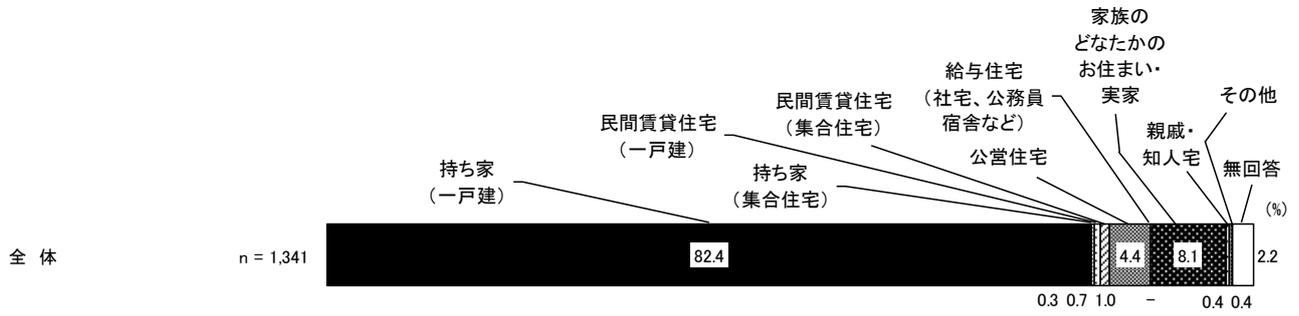
(9) 現在の職業（業種）

<図表2-1-9>



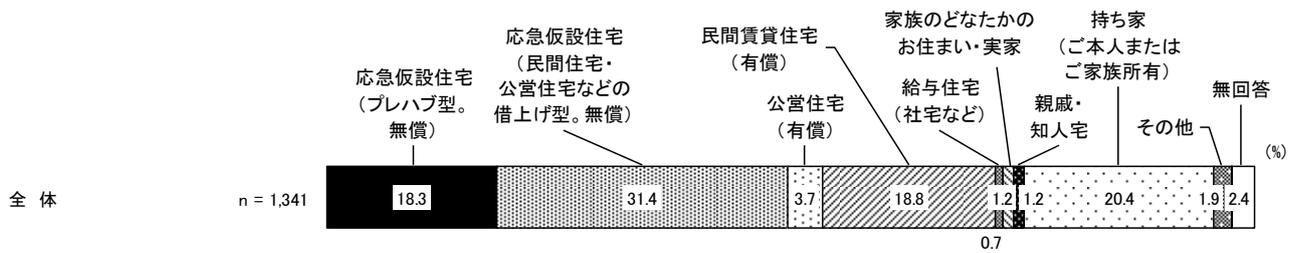
(10) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-10>



(11) 現在の住居形態

<図表2-1-11>



III 調査結果

3-1 現在の状況

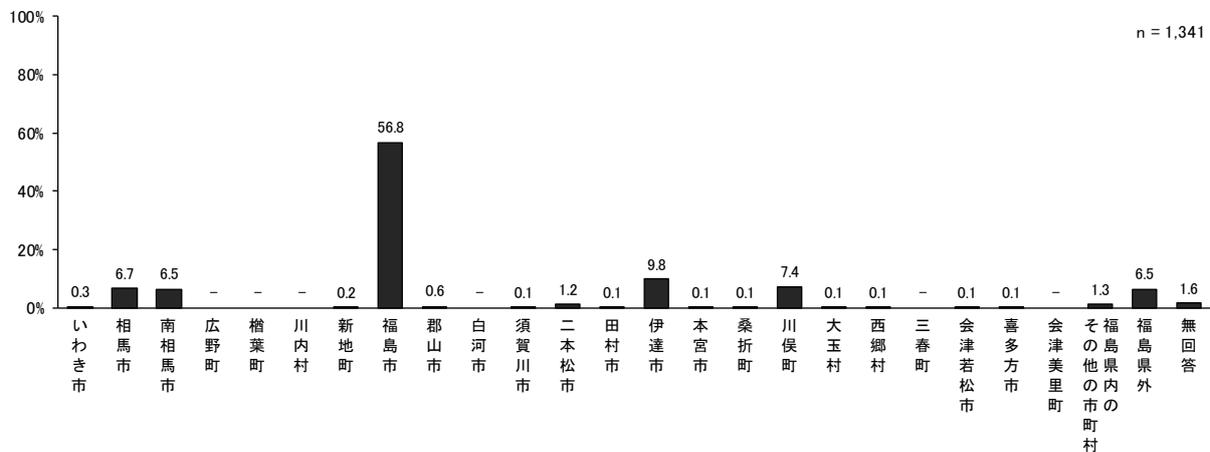
3-1-1 現在の避難先自治体

問9 あなたが現在避難されている市区町村を教えてください。(〇は1つ)

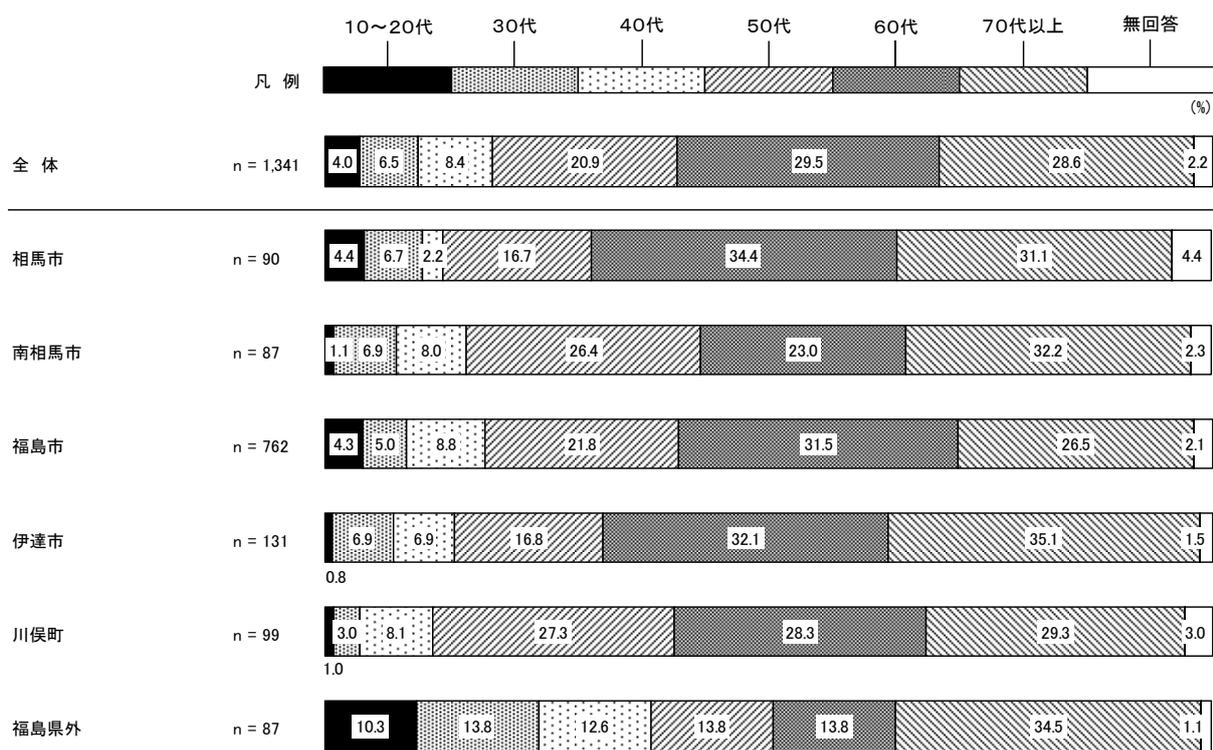
現在の避難先自治体については、「福島市」が56.8%と最も高く、次いで「伊達市」が9.8%、「川俣町」が7.4%となっている。

主な避難先自治体について、回答者の年齢別にみると、60代以上では「相馬市」(65.5%)、「南相馬市」(55.2%)、「福島市」(58.0%)、「伊達市」(67.2%)、「川俣町」(57.6%)が5割以上となっている。一方、「福島県外」では60代以上は48.3%と5割を下回る。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



III 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、深谷、伊丹沢、大久保・外内、上飯樋、長泥、関根・松塚、白石、二枚橋・須萱では「福島市」が6割以上、大倉では「相馬市」が6割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	(%)					
		相馬市	南相馬市	福島市	伊達市	川俣町	福島県外
全体	1,341	6.7	6.5	56.8	9.8	7.4	6.5
草野	149	5.4	9.4	57.0	8.7	2.7	9.4
深谷	72	6.9	1.4	63.9	8.3	5.6	2.8
伊丹沢	72	8.3	1.4	73.6	1.4	5.6	4.2
関沢	65	9.2	13.8	46.2	7.7	9.2	6.2
小宮	95	13.7	20.0	40.0	9.5	6.3	8.4
八木沢・芦原	26	11.5	26.9	46.2	7.7	3.8	-
大倉	25	68.0	4.0	12.0	-	4.0	12.0
佐須	57	5.3	1.8	43.9	33.3	8.8	5.3
宮内	57	3.5	12.3	57.9	3.5	8.8	7.0
飯樋町	85	3.5	4.7	55.3	8.2	9.4	9.4
前田・八和木	54	11.1	3.7	59.3	1.9	9.3	9.3
大久保・外内	62	3.2	9.7	64.5	9.7	6.5	3.2
上飯樋	126	2.4	1.6	65.1	7.9	9.5	7.9
比曾	57	-	-	56.1	8.8	22.8	8.8
長泥	56	8.9	5.4	64.3	3.6	5.4	5.4
蔵平	30	6.7	13.3	56.7	6.7	3.3	3.3
関根・松塚	36	5.6	5.6	69.4	11.1	-	-
白石	66	3.0	3.0	62.1	16.7	4.5	4.5
前田	53	-	-	32.1	37.7	13.2	15.1
二枚橋・須萱	60	-	-	76.7	6.7	6.7	1.7
その他	5	-	-	80.0	-	-	-

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問 10-1 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

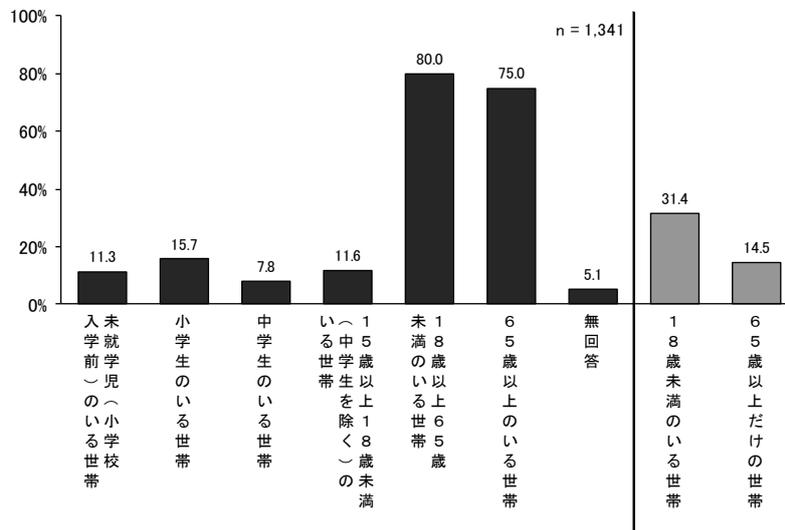
(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 震災発生当時の世帯構成

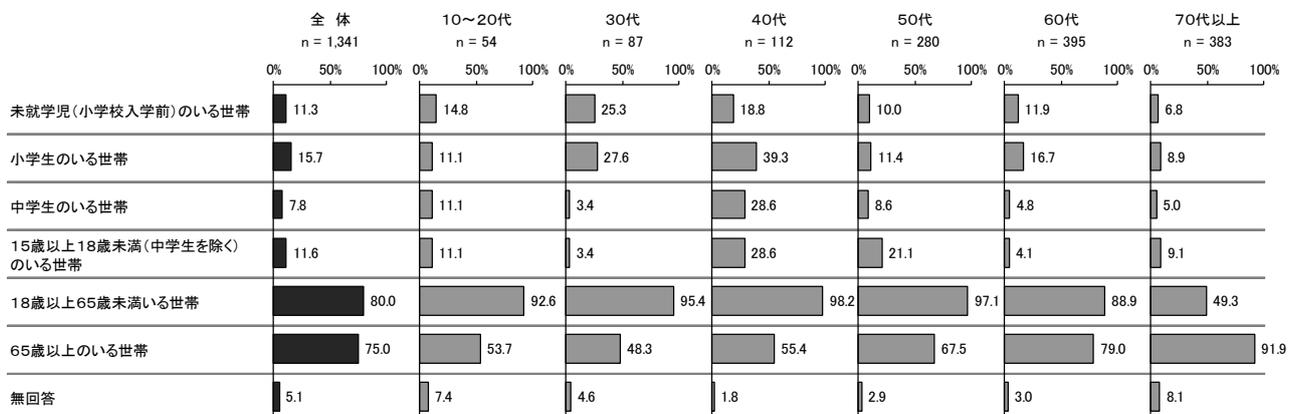
震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が80.0%、「65歳以上のいる世帯」が75.0%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(11.3%)、「小学生のいる世帯」(15.7%)、「中学生のいる世帯」(7.8%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(11.6%)はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

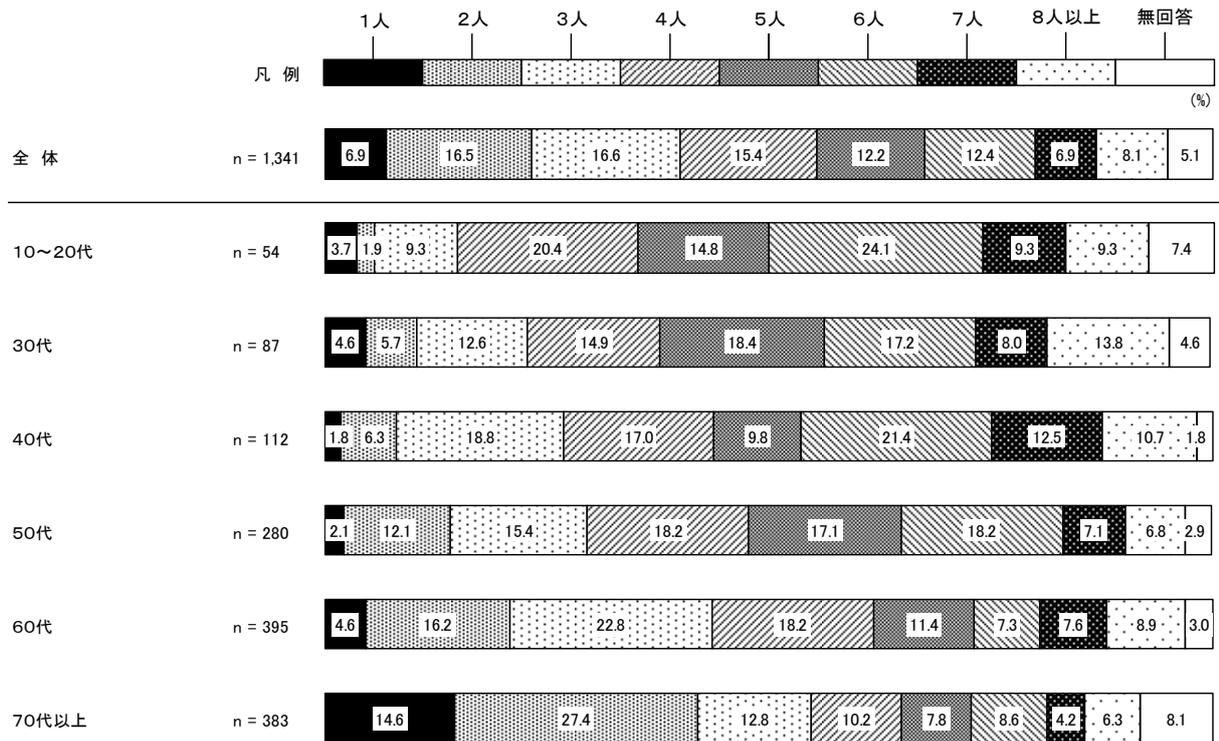


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「3人」が16.6%と最も高く、次いで「2人」が16.5%、「4人」が15.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「3人」は60代（22.8%）、「2人」は70代以上（27.4%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



(2) 現在の世帯構成・人数

問 10-1 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

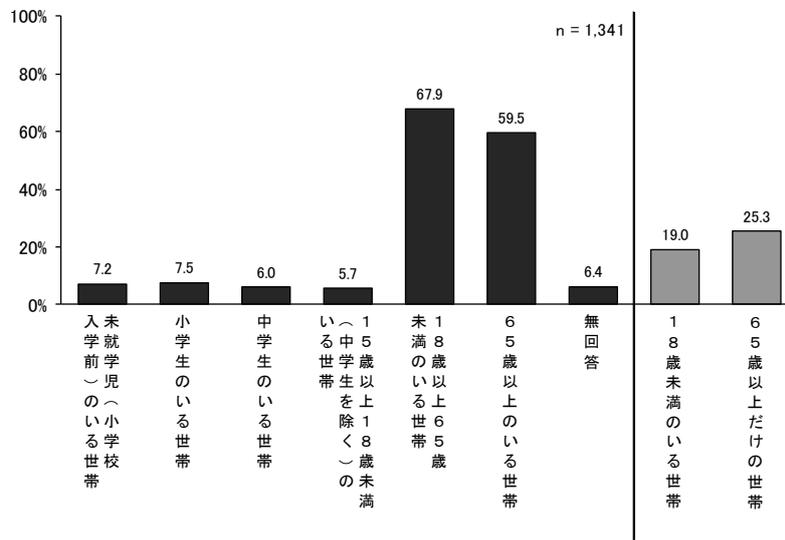
(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学年にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

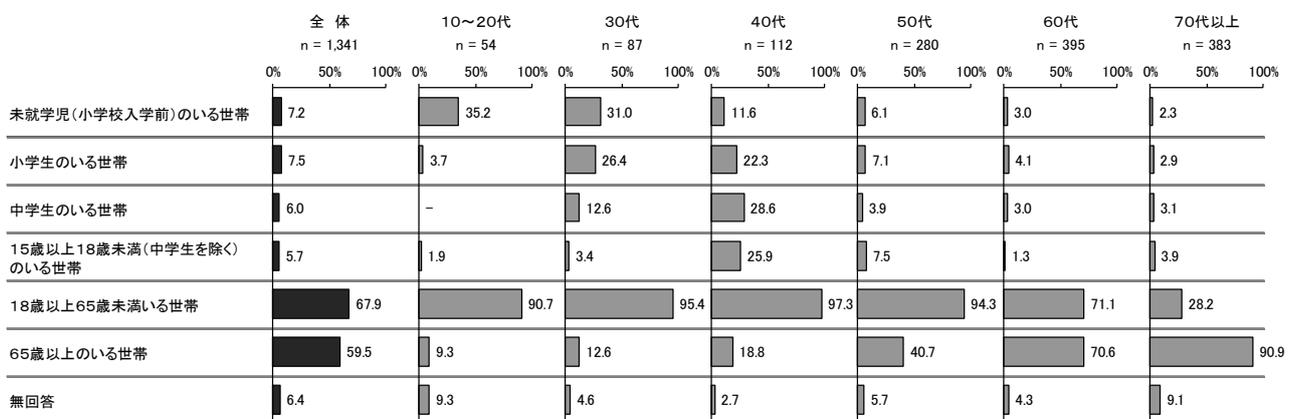
現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が67.9%、「65歳以上のいる世帯」が59.5%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(7.2%)、「小学生のいる世帯」(7.5%)、「中学生のいる世帯」(6.0%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(5.7%)はいずれも1割を下回る。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

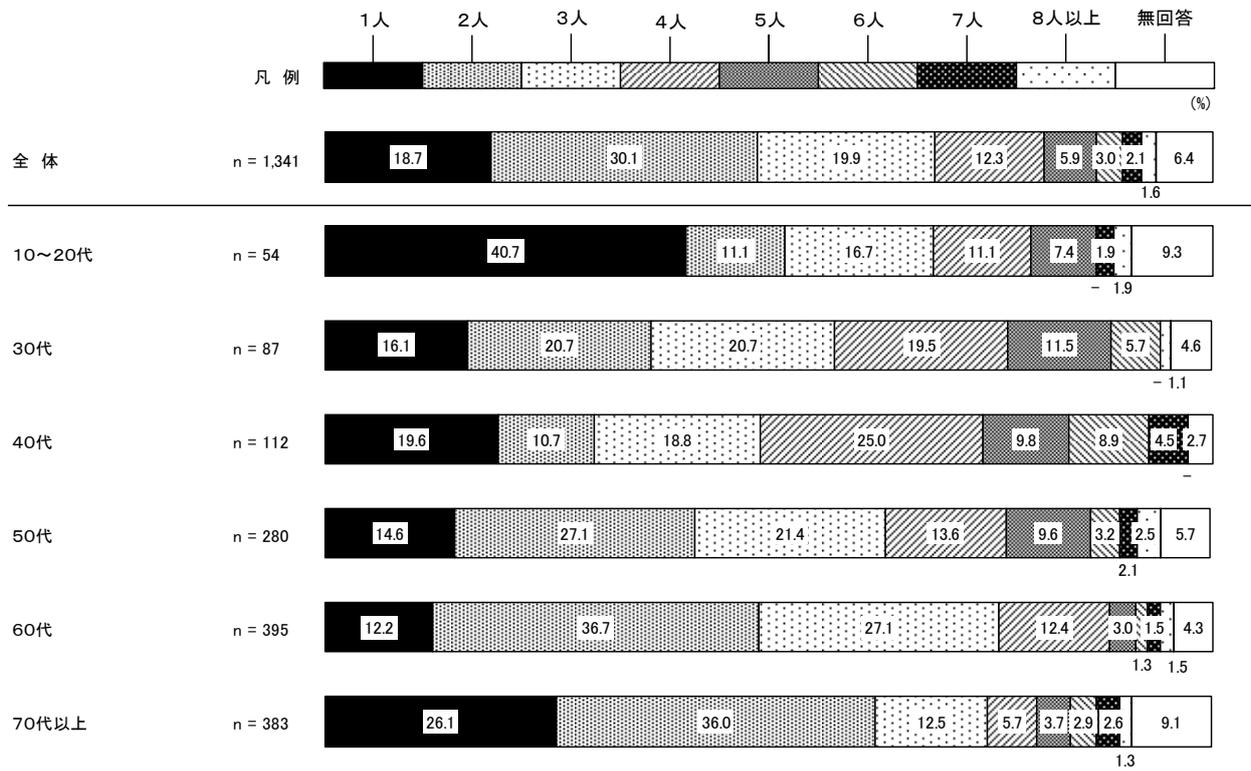


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が30.1%と最も高く、次いで「3人」が19.9%、「1人」が18.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は60代(36.7%)、70代以上(36.0%)、「3人」は60代(27.1%)、「1人」は10~20代(40.7%)、「4人」は40代(25.0%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



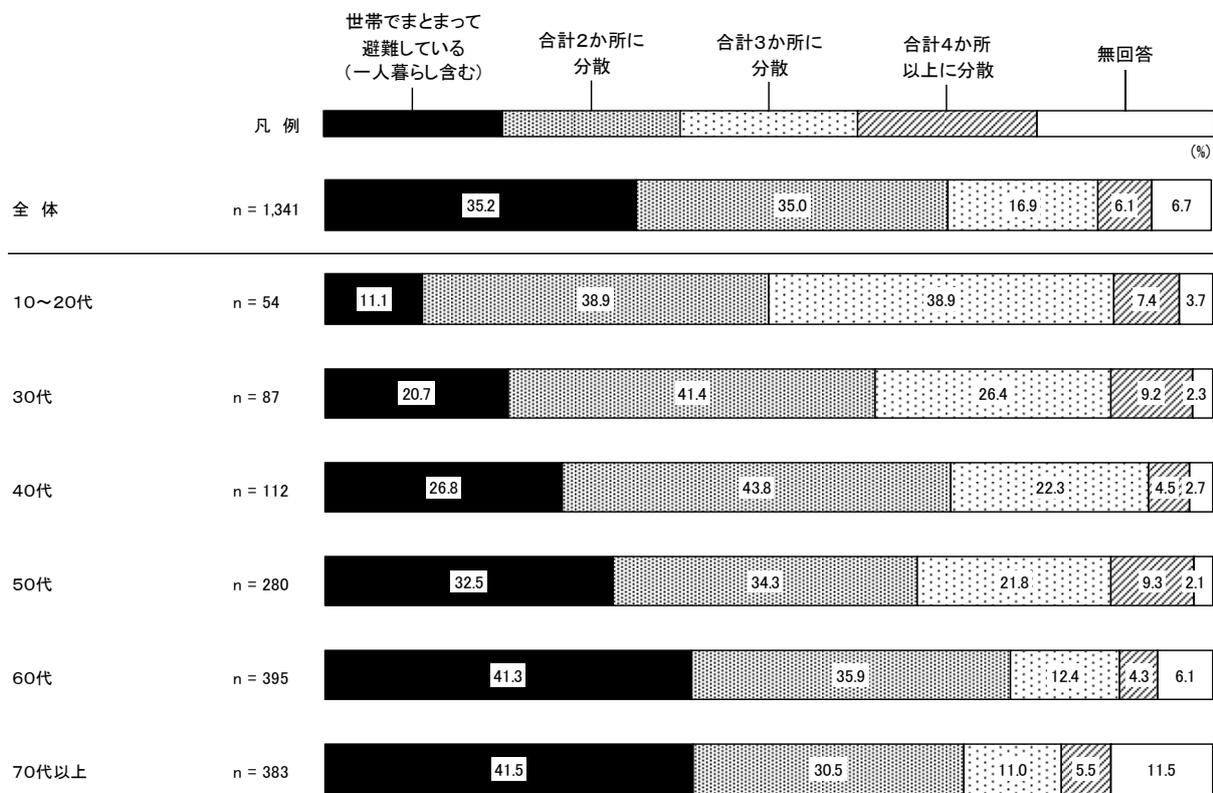
(3) 世帯の分散状況

問 10-2 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。
(〇は1つ)

世帯の分散状況については、「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」が 35.2%と最も高く、次いで「合計2か所に分散」が 35.0%、「合計3か所に分散」が 16.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」は 60代（41.3%）、70代以上（41.5%）、「合計2か所に分散」は 30代（41.4%）、40代（43.8%）、「合計3か所に分散」は 10～20代（38.9%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-7 世帯の分散状況（年齢別）>



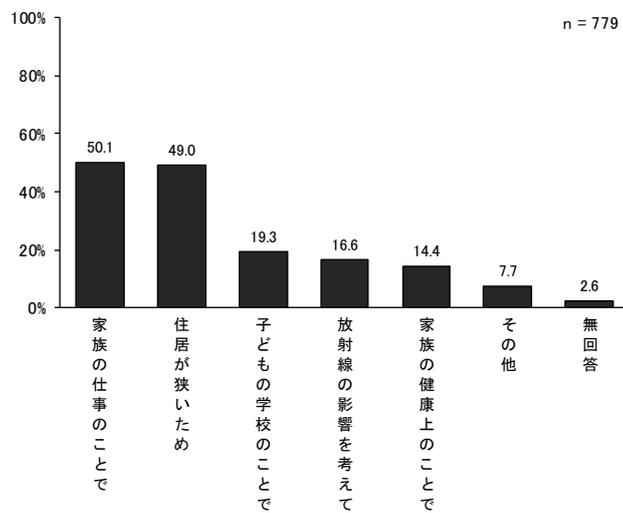
(4) 分散して住むことになった理由

【問 10-2で「2」「3」「4」と回答した方にうかがいます。】
 問 10-3 分散して住んでいる理由は何ですか。(〇はいくつでも)

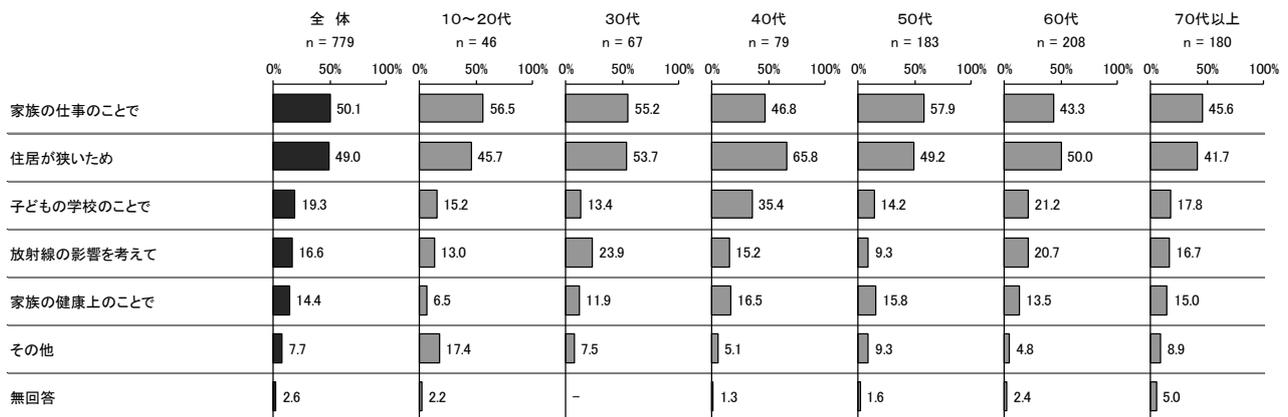
分散して住むことになった理由については、「家族の仕事のことで」が50.1%と最も高く、次いで「住居が狭いため」が49.0%、「子どもの学校のことで」が19.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「家族の仕事のことで」は10~20代(56.5%)、30代(55.2%)、50代(57.9%)、「住居が狭いため」は40代(65.8%)、「子どもの学校のことで」は40代(35.4%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-8 分散して住むことになった理由>

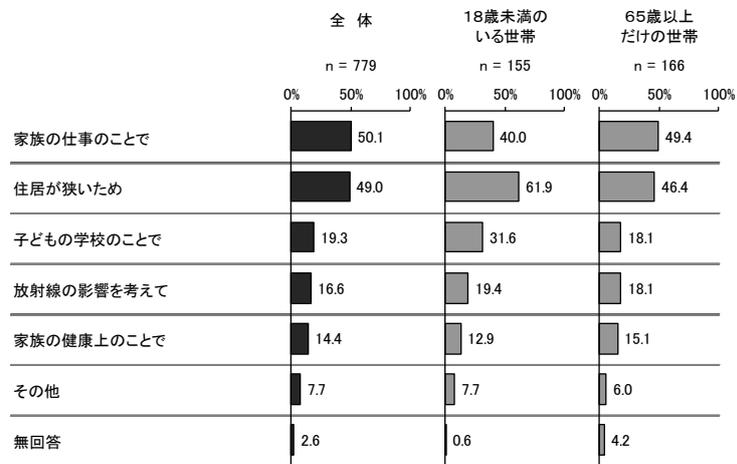


<図表3-1-2-9 分散して住むことになった理由(年齢別)>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「住居が狭いため」が61.9%、「子どもの学校のことで」が31.6%と、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-10 分散して住むことになった理由（世帯構成別）>



3-1-3 職業

(1) 震災発生当時の職業（就業形態）

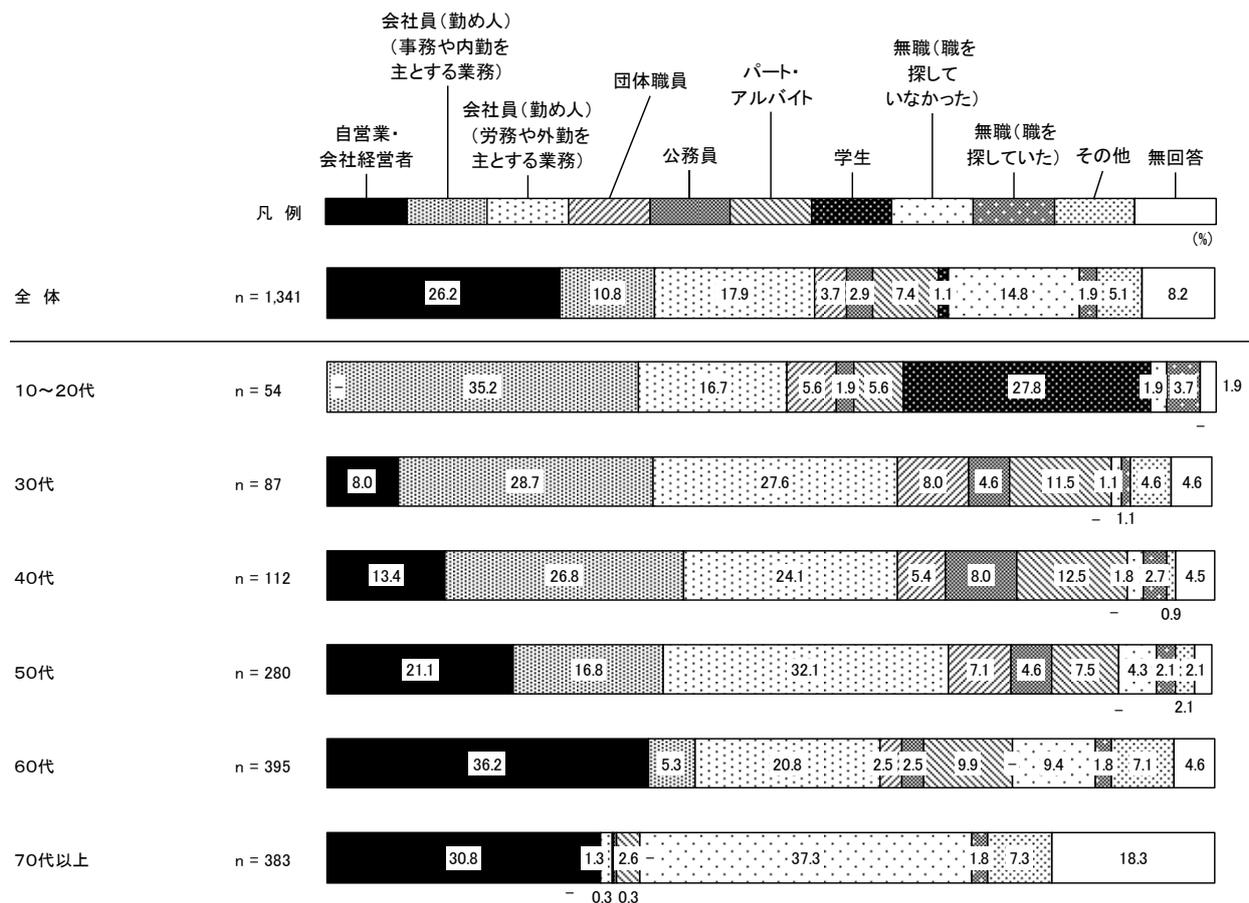
問8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

震災発生当時の職業（就業形態）については、「無職（職を探していなかった・職を探していた）」以外では、「自営業・会社経営者」が26.2%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が17.9%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が10.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「自営業・会社経営者」は60代（36.2%）、70代以上（30.8%）、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は50代（32.1%）、70代以上（37.3%）、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は10～20代（35.2%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-1 震災発生当時の職業（年齢別）>



(2) 震災発生当時の業種

問8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

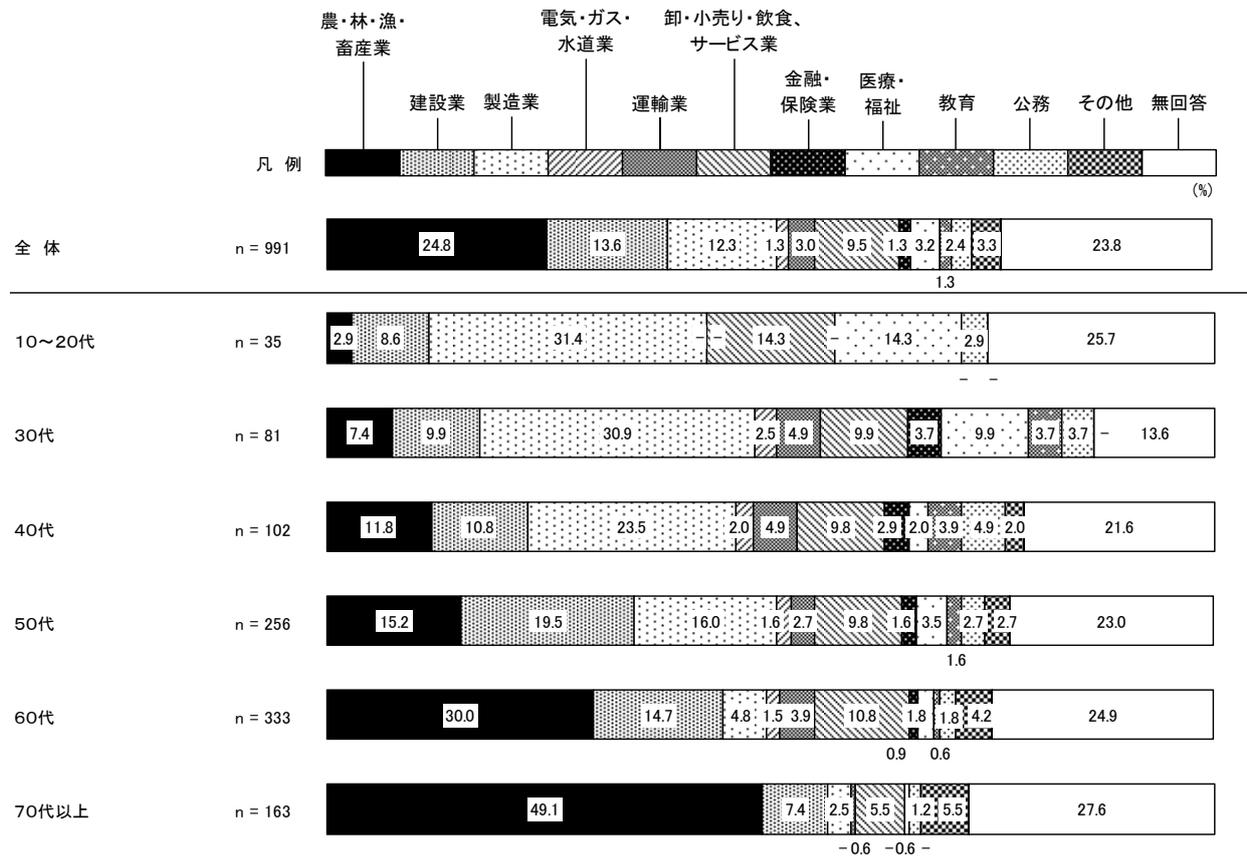
【仕事に就いていた方(問8(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

震災発生当時の業種については、「農・林・漁・畜産業」が24.8%と最も高く、次いで「建設業」が13.6%、「製造業」が12.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「農・林・漁・畜産業」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、70代以上は49.1%となっている。「建設業」は50代(19.5%)で、「製造業」は10~20代(31.4%)、30代(30.9%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-2 震災発生当時の業種(年齢別)>



(3) 震災発生当時の就業先

問8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

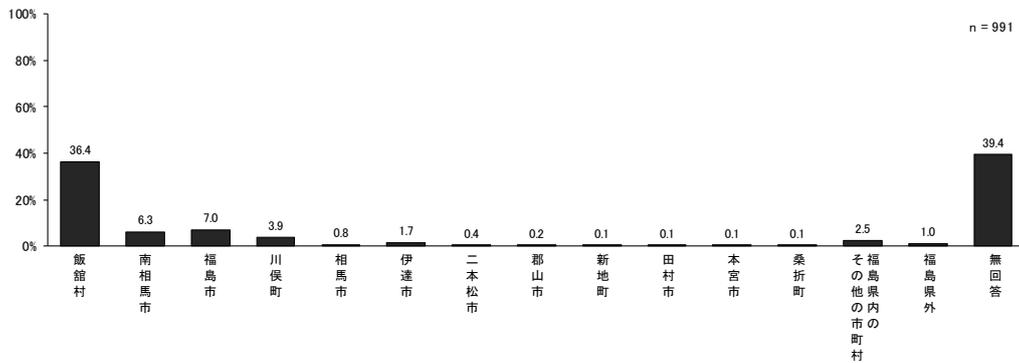
【仕事に就いていた方(問8(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在市区町村

震災発生当時の就業先については、「飯館村」が36.4%と最も高く、次いで「福島市」が7.0%、「南相馬市」が6.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「南相馬市」は40代(11.8%)、「福島市」は10~20代(20.0%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-3 震災発生当時の就業先>



<図表3-1-3-4 震災発生当時の就業先(年齢別)>

	n	飯館村	南相馬市	福島市	川俣町	相馬市	伊達市	二本松市	郡山市	新地町	田村市	本宮市	桑折町	福島県内の市町村	福島県外	無回答
全体	991	36.4	6.3	7.0	3.9	0.8	1.7	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	2.5	1.0	39.4
10~20代	35	34.3	5.7	20.0	5.7	-	-	2.9	-	-	-	-	-	-	-	31.4
30代	81	38.3	7.4	9.9	7.4	3.7	-	1.2	-	-	-	-	-	2.5	1.2	28.4
40代	102	37.3	11.8	6.9	6.9	-	1.0	2.0	1.0	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	29.4
50代	256	32.0	7.4	6.6	7.0	0.8	3.9	-	0.4	-	-	-	-	3.1	1.2	37.5
60代	333	38.7	5.4	8.1	1.5	0.9	1.8	-	-	-	0.3	-	-	2.4	0.6	40.2
70代以上	163	38.7	2.5	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	2.5	1.8	52.8

(4) 現在の職業（就業形態）

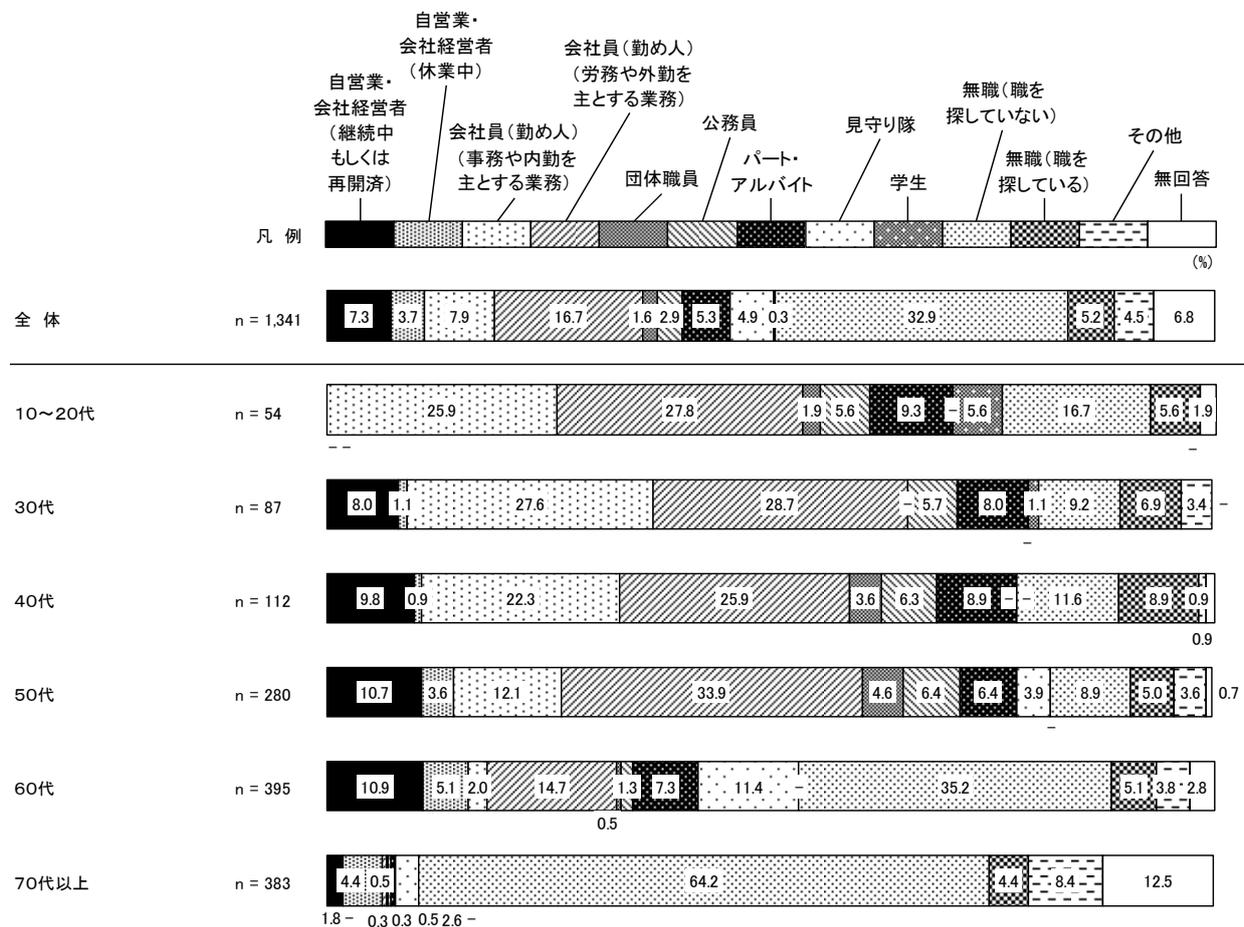
問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が16.7%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が7.9%、「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」が7.3%となっている。

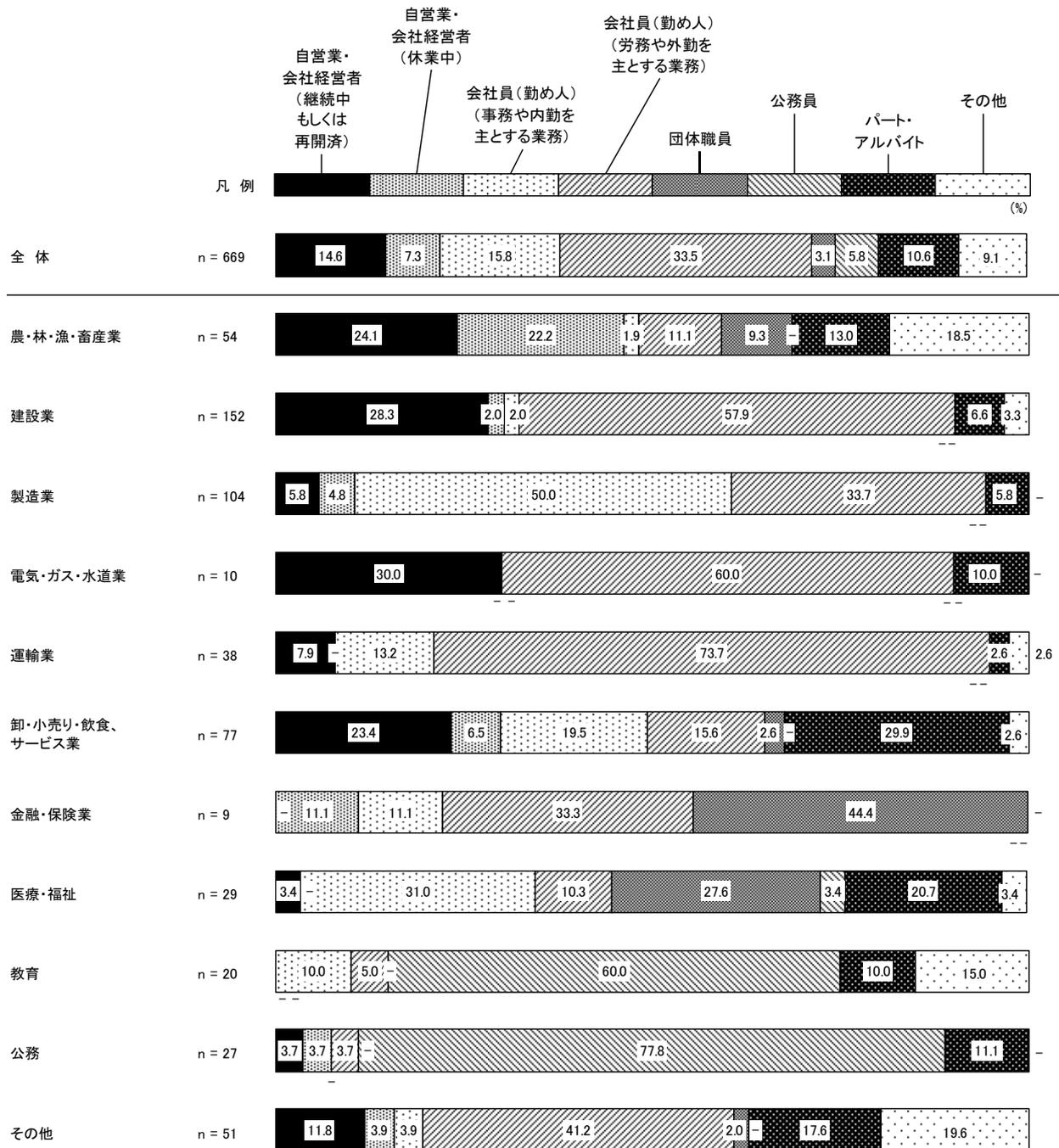
回答者の年齢別にみると、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は50代（33.9%）、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は10～20代（25.9%）、30代（27.6%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-5 現在の職業（年齢別）>



業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（57.9%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（50.0%）、卸・小売り・飲食、サービス業では「パート・アルバイト」（29.9%）が、他の業種と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-6 現在の職業（業種別）>



(5) 現在の業種

問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

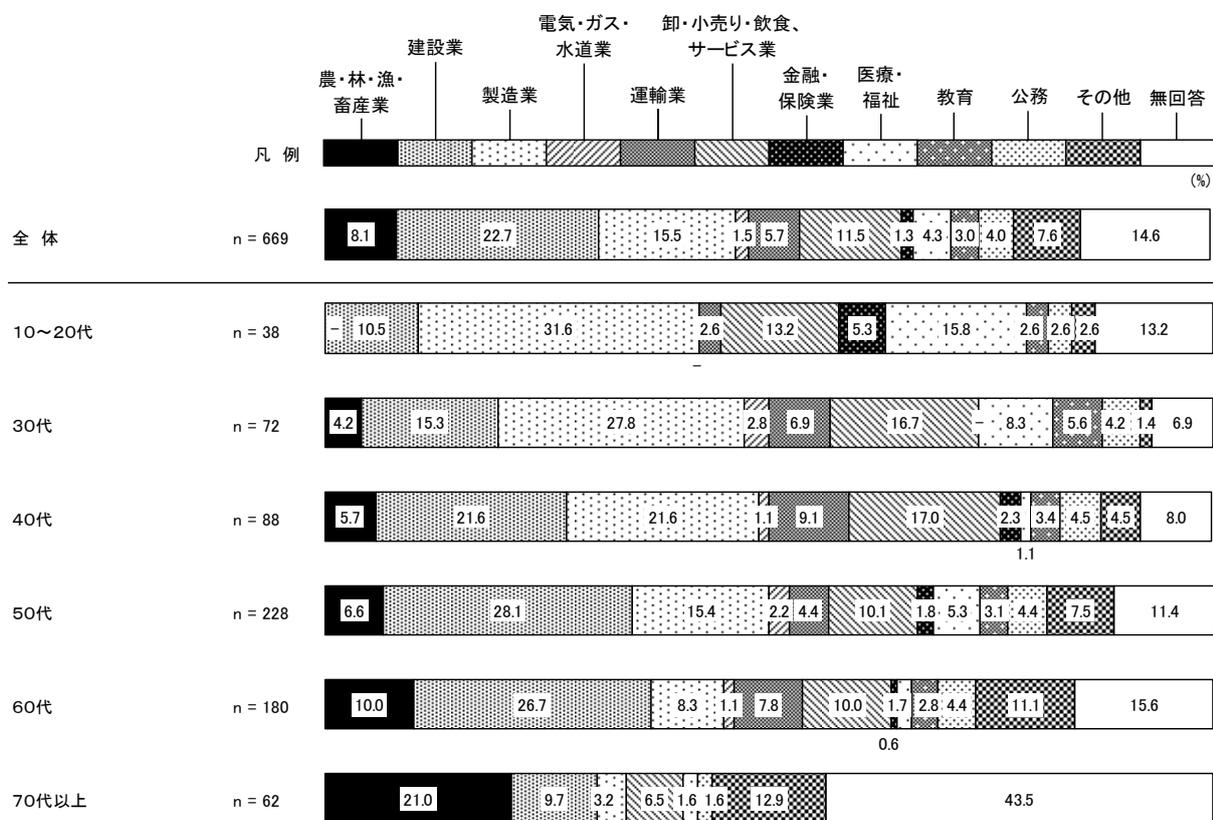
【仕事に就いている方(問3(1)で「1」から「7」、「12」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

現在の業種については、「建設業」が22.7%と最も高く、次いで「製造業」が15.5%、「卸・小売り・飲食、サービス業」が11.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は50代(28.1%)、60代(26.7%)、「製造業」は10~20代(31.6%)、30代(27.8%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-7 現在の業種(年齢別)>



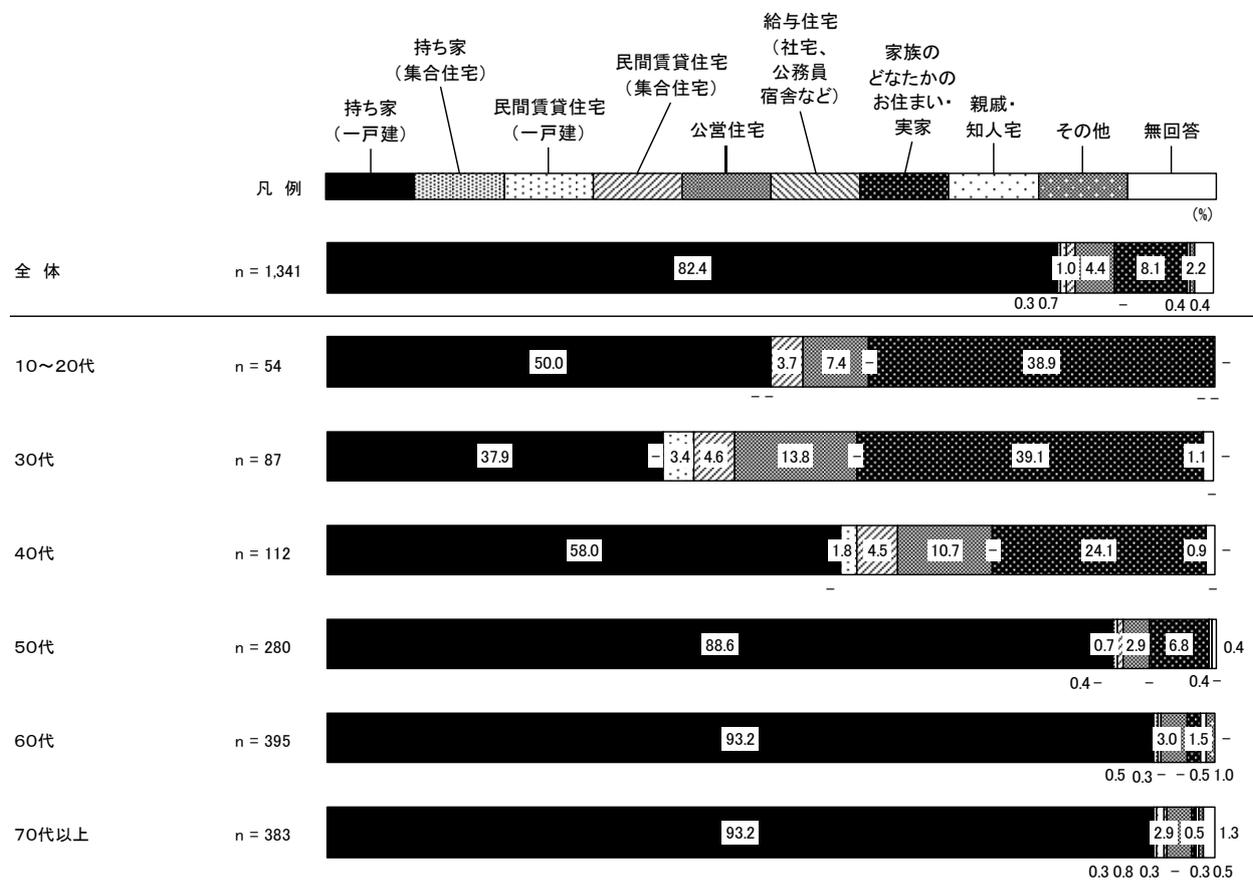
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が82.4%と最も高く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」が8.1%、「公営住宅」が4.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高いほど割合が高くなる傾向にあり、60代、70代以上では93.2%と9割以上を占めている。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代（38.9%）、30代（39.1%）、30代（13.8%）、40代（10.7%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



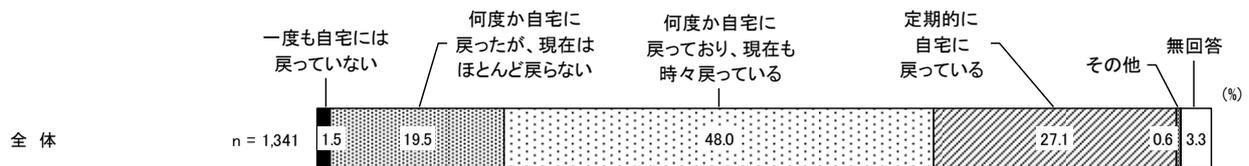
3-1-5 避難前の自宅へ戻る頻度

問6-1 あなた（もしくはあなたのご家族）は、避難後に、避難前のご自宅への程度戻られていますか（一時帰宅の形も含めます）。（〇は1つ）

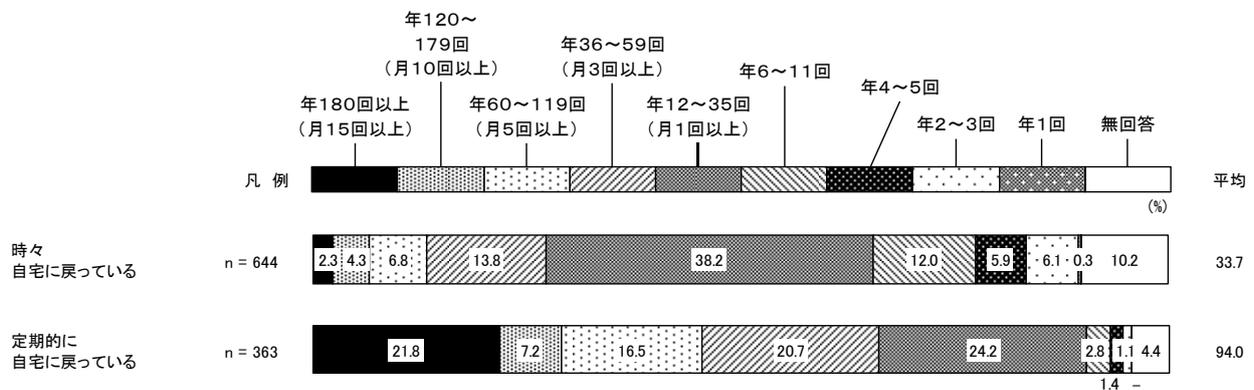
避難前の自宅へ戻る頻度については、「何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」が48.0%と最も高く、次いで「定期的に自宅に戻っている」が27.1%、「何度か自宅に戻ったが、現在はほとんど戻らない」が19.5%となっている。

現在も時々戻っている、定期的に戻っている方の、避難前の自宅へ戻る回数については、現在も時々自宅に戻っている、定期的に戻っている方ともに「年12~35回（月1回以上）」（38.2%、24.2%）が最も高くなっている。なお、避難前の自宅に戻る年間平均回数は「何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」が33.7回、「定期的に自宅に戻っている」が94.0回となっている。

<図表3-1-5-1 避難前の自宅へ戻る頻度>



<図表3-1-5-2 避難前の自宅へ戻る回数（年換算）>



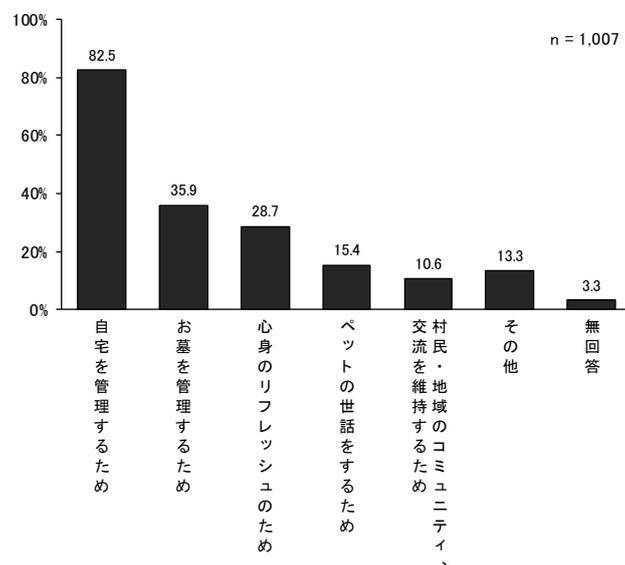
3-1-6 避難前の自宅へ定期的に戻る理由

【問6-1で「3. 何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」「4. 定期的に自宅に戻っている」と回答した方にうかがいます。】

問6-2 避難前のご自宅へ定期的に戻られる理由は何ですか。(〇はいくつでも)

避難前の自宅へ定期的に戻る理由については、「自宅を管理するため」が82.5%と最も高く、次いで「お墓を管理するため」が35.9%、「心身のリフレッシュのため」が28.7%となっている。

<図表3-1-6-1 避難前の自宅へ定期的に戻る理由>

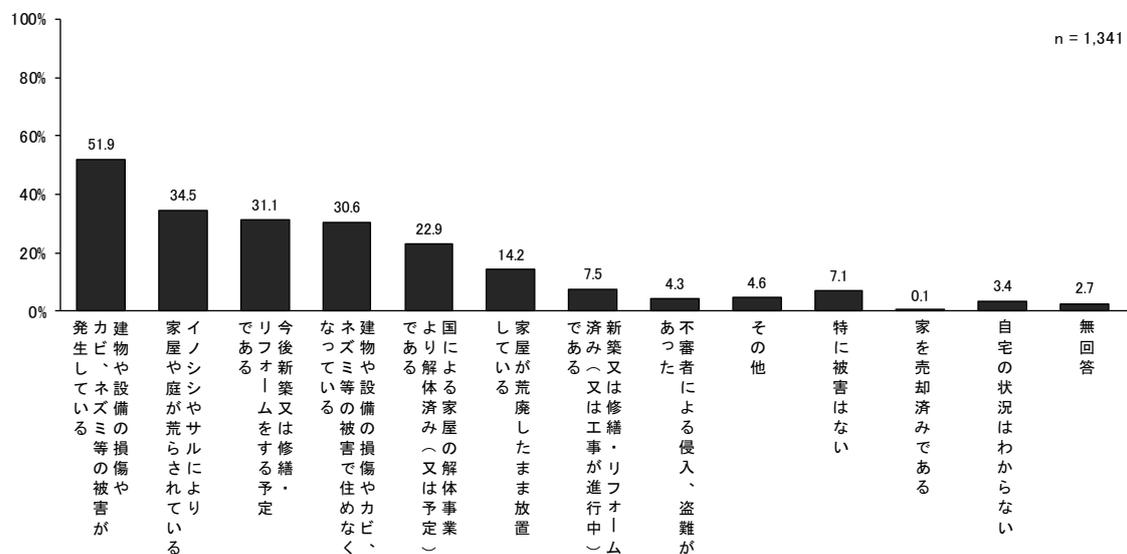


3-1-7 避難で留守にしている間の自宅の状況

問7 現在のご自宅の状況についてうかがいます。わかる範囲でお答えください。(〇はいくつでも)

避難で留守にしている間の自宅の状況については、「建物や設備の損傷やカビ、ネズミ等の被害が発生している」が51.9%と最も高く、次いで「イノシシやサルにより家屋や庭が荒らされている」が34.5%、「今後新築又は修繕・リフォームをする予定である」が31.1%となっている。

<図表3-1-7-1 避難で留守にしている間の自宅の状況>



III 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、八木沢・芦原、佐須、宮内、長泥では「建物や設備の損傷やカビ、ネズミ等の被害が発生している」が6割以上、大倉、長泥では「イノシシやサルにより家屋や庭が荒らされている」が6割以上となっている。

<図表3-1-7-2 避難で留守にしている間の自宅の状況（震災発生当時の住まいの行政区別）>

		(%)															
	n	がカビ、ネズミ等の被害が発生している	建物や設備の損傷やイノシシやサルにより庭が荒らされている	イノシシやサルにより庭が荒らされている	今後新築又は修繕・リフォームをする予定である	建物や設備の損傷やカビ、ネズミ等の被害で住めなくなっている	建物や設備の損傷やカビ、ネズミ等の被害（又は予定）である	国による家屋の解体（又は予定）である	家屋が荒廃したまま放置されている	新築又は修繕・リフォーム済み（又は工事進行中）である	盗難があった	不審者による侵入、	その他	特に被害はない	家を売却済みである	自宅の状況はわからない	無回答
全体	1,341	51.9	34.5	31.1	30.6	22.9	14.2	7.5	4.3	4.6	7.1	0.1	3.4	2.7			
草野	149	48.3	16.8	16.1	23.5	24.2	13.4	2.7	4.7	6.7	8.1	0.7	4.0	5.4			
深谷	72	50.0	34.7	36.1	23.6	13.9	11.1	5.6	6.9	5.6	18.1	-	2.8	1.4			
伊丹沢	72	55.6	33.3	36.1	27.8	26.4	23.6	12.5	-	1.4	6.9	-	-	2.8			
関沢	65	58.5	50.8	33.8	43.1	29.2	18.5	9.2	4.6	4.6	3.1	-	1.5	-			
小宮	95	49.5	43.2	26.3	40.0	20.0	11.6	3.2	6.3	2.1	9.5	-	1.1	2.1			
八木沢・芦原	26	61.5	26.9	42.3	34.6	11.5	7.7	7.7	-	3.8	15.4	-	3.8	3.8			
大倉	25	52.0	64.0	32.0	52.0	28.0	16.0	20.0	4.0	-	-	-	4.0	-			
佐須	57	63.2	45.6	29.8	33.3	29.8	26.3	14.0	7.0	8.8	3.5	-	-	1.8			
宮内	57	66.7	45.6	42.1	38.6	26.3	22.8	8.8	-	7.0	7.0	-	-	1.8			
飯樋町	85	55.3	17.6	30.6	40.0	21.2	9.4	2.4	1.2	7.1	4.7	-	4.7	2.4			
前田・八和木	54	55.6	18.5	37.0	16.7	31.5	13.0	11.1	9.3	1.9	3.7	-	3.7	1.9			
大久保・外内	62	40.3	41.9	33.9	27.4	17.7	12.9	4.8	6.5	1.6	14.5	-	1.6	3.2			
上飯樋	126	56.3	37.3	35.7	26.2	28.6	14.3	9.5	4.0	4.0	2.4	-	7.1	1.6			
比叢	57	49.1	36.8	31.6	35.1	19.3	15.8	1.8	-	5.3	8.8	-	3.5	5.3			
長泥	56	62.5	67.9	1.8	41.1	3.6	23.2	-	-	10.7	8.9	-	3.6	-			
蕨平	30	43.3	50.0	23.3	56.7	43.3	6.7	-	3.3	6.7	-	-	-	6.7			
関根・松塚	36	47.2	30.6	66.7	30.6	27.8	16.7	8.3	5.6	-	8.3	-	-	5.6			
臼石	66	47.0	21.2	28.8	13.6	12.1	7.6	13.6	4.5	3.0	9.1	-	7.6	1.5			
前田	53	39.6	28.3	37.7	26.4	26.4	7.5	7.5	18.9	3.8	9.4	-	13.2	-			
二枚橋・須萱	60	40.0	25.0	33.3	16.7	25.0	6.7	20.0	-	5.0	3.3	-	1.7	3.3			
その他	5	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-			

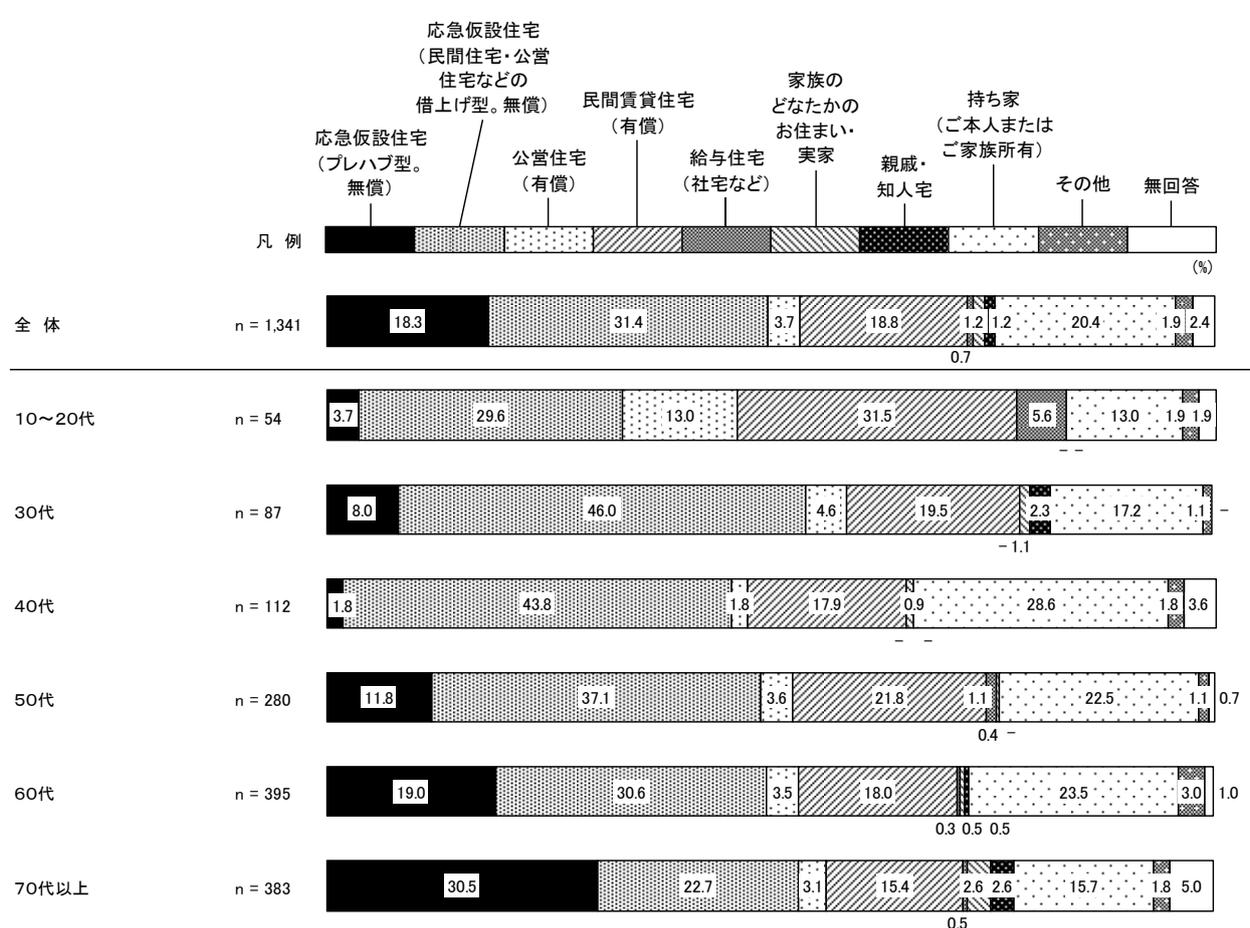
3-1-8 現在の住居形態

問 11 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）」が31.4%と最も高く、次いで「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が20.4%、「民間賃貸住宅（有償）」が18.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、30代、40代、50代、60代では「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）」が最も高い割合となっているが、10~20代では「民間賃貸住宅（有償）」（31.5%）、70代以上では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（30.5%）が最も高い割合となっている。

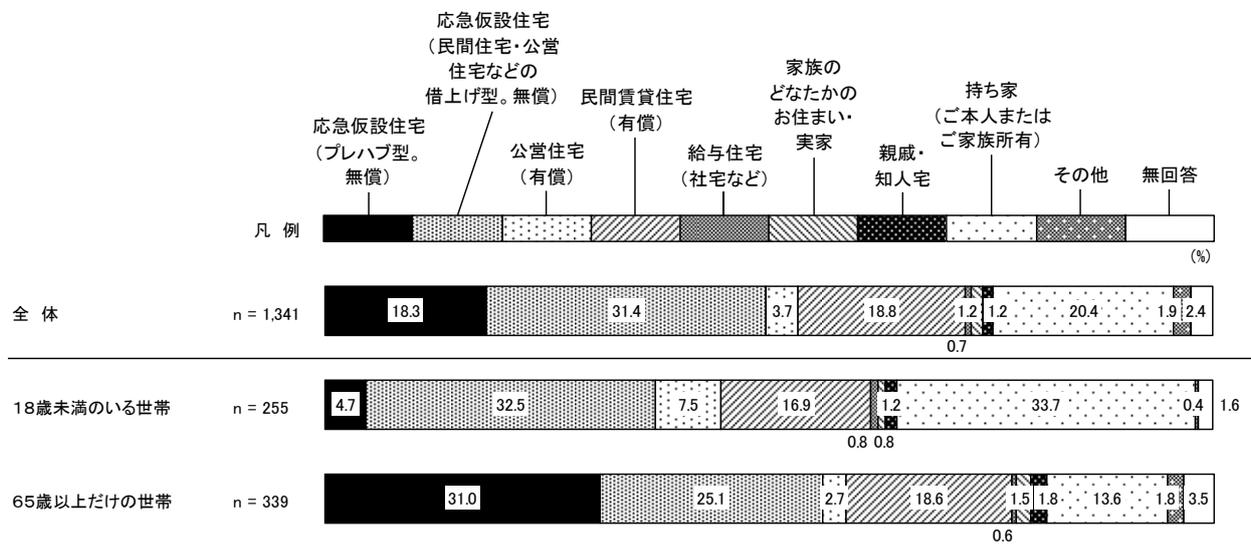
<図表3-1-8-1 現在の住居形態（年齢別）>



III 調査結果

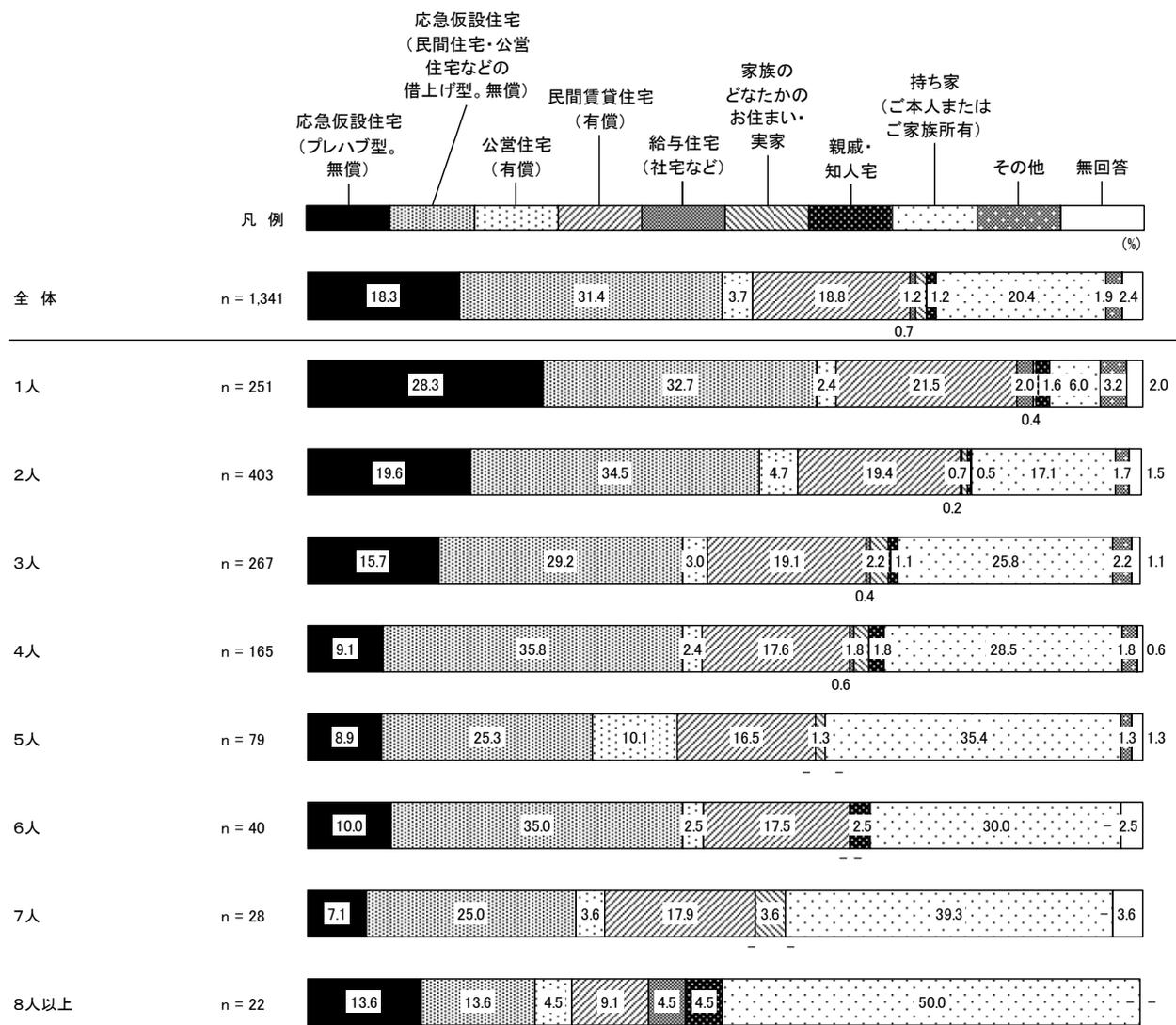
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」（33.7%）が最も高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（31.0%）が最も高くなっている。

<図表3-1-8-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は1人（28.3%）が高くなっている。一方、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向があり、5人では35.4%、6人では30.0%となっている。

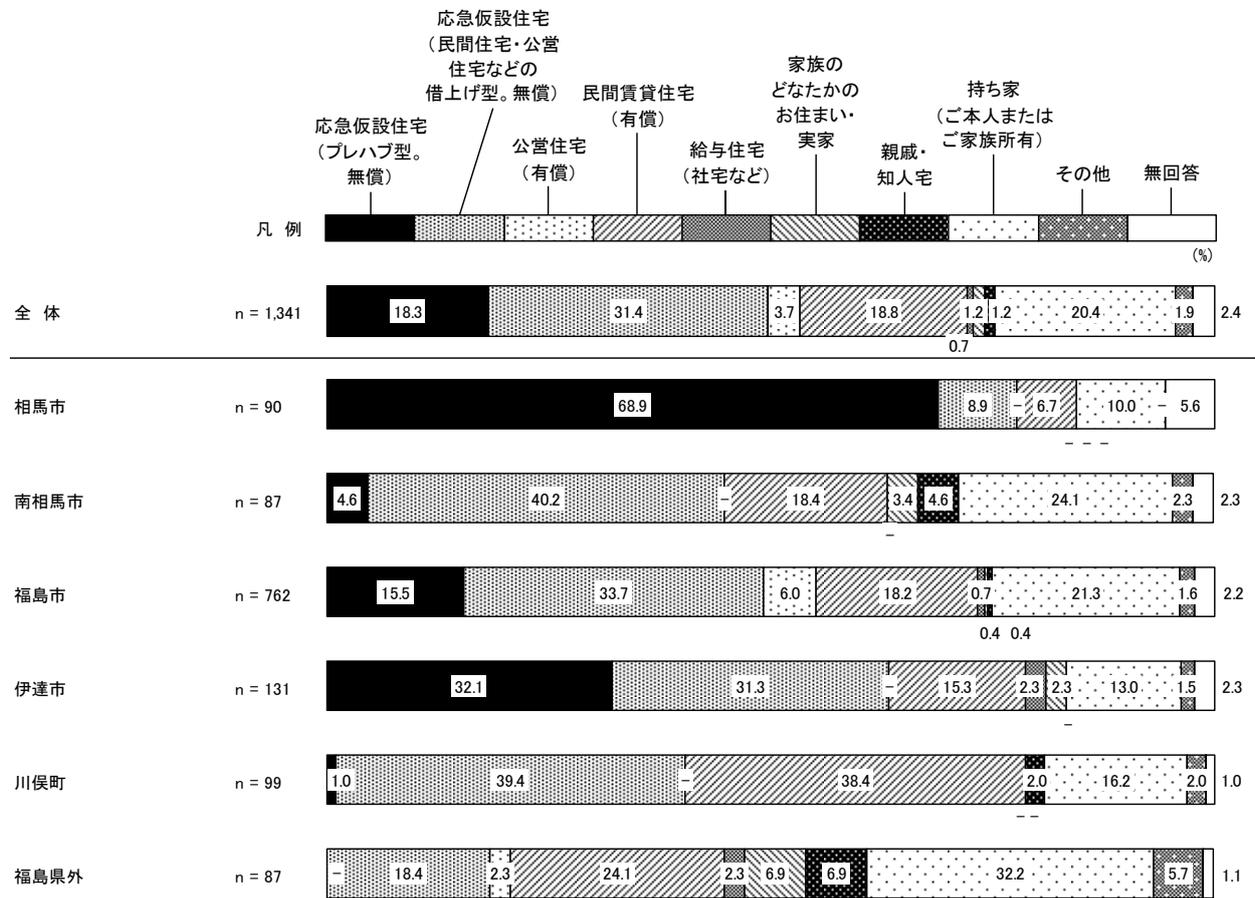
<図表3-1-8-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）」は南相馬市、川俣町で約4割を占めている。また、「民間賃貸住宅（有償）」は川俣町（38.4%）、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は相馬市（68.9%）で、他の自治体と比べて高くなっている。

＜図表3-1-8-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）＞



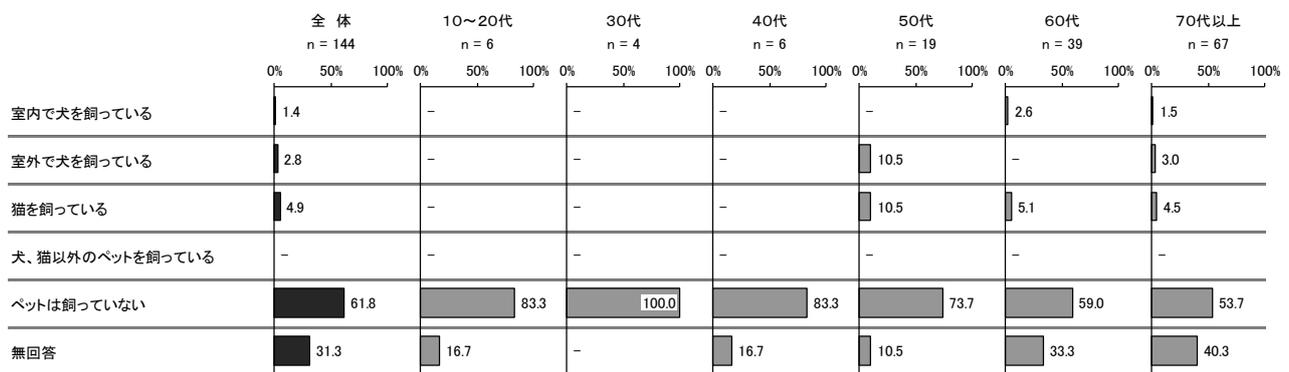
3-1-9 現在のペットの飼育状況

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している（入居している）方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問12で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

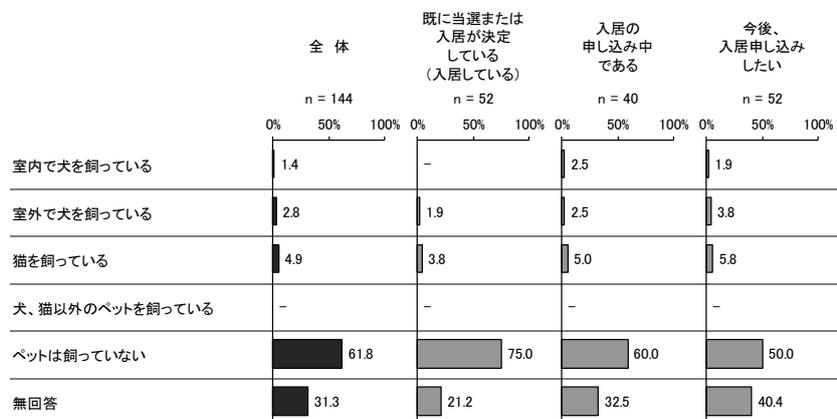
問12-3 現在、ペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

現在のペットの飼育状況については、「ペットは飼っていない」が61.8%と最も高く、次いで「猫を飼っている」が4.9%、「室外で犬を飼っている」が2.8%となっている。

<図表3-1-9-1 現在のペットの飼育状況（年齢別）>



<図表3-1-9-2 現在のペットの飼育状況（復興公営住宅への入居意向別）>



3-2 復興公営住宅の入居意向

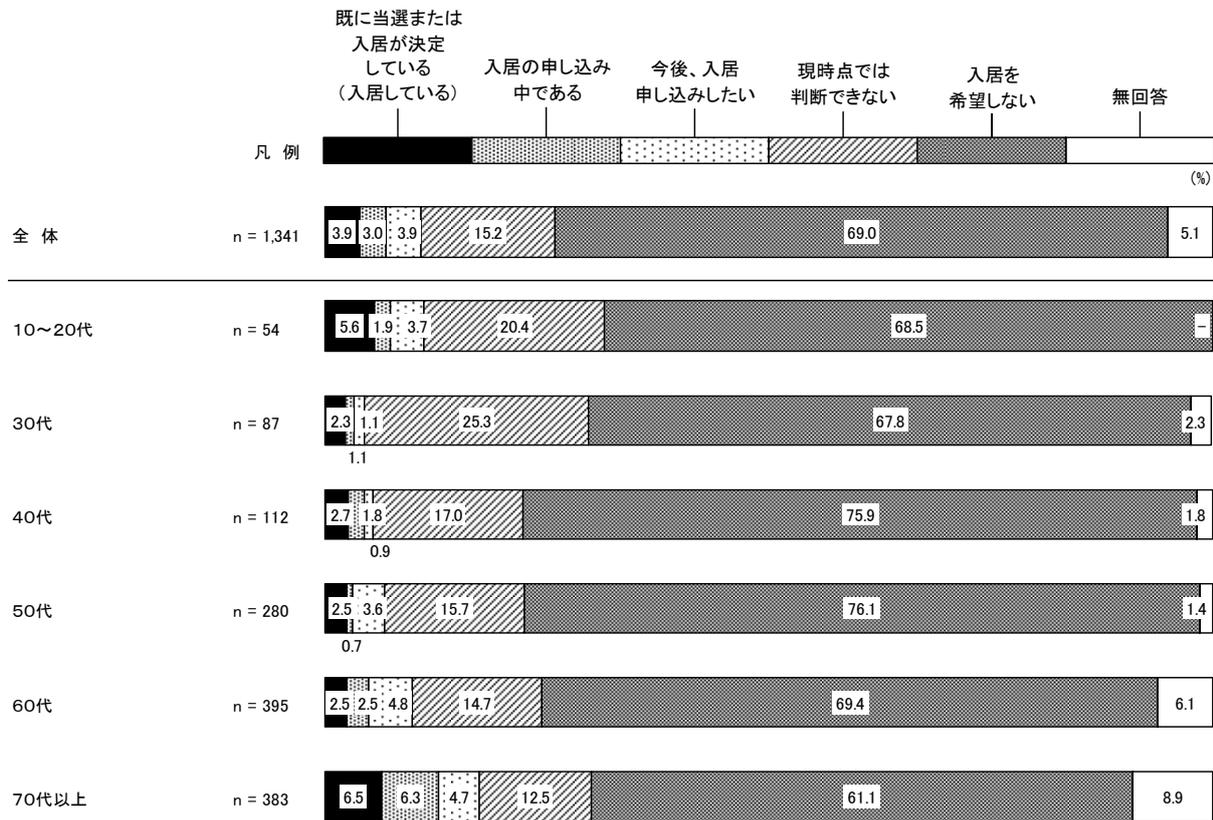
3-2-1 復興公営住宅への入居意向

問 12 現在、福島県は「別紙2 福島県における原発避難者向け復興公営住宅について」に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたの世帯は、復興公営住宅への入居を希望しますか。
(〇は1つ)

復興公営住宅への入居意向については、「入居を希望しない」が69.0%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が15.2%、「既に当選または入居が決定している（入居している）」、「今後、入居申し込みしたい」が3.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「入居を希望しない」はいずれの年齢でも最も高いが、「現時点では判断できない」は30代（25.3%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

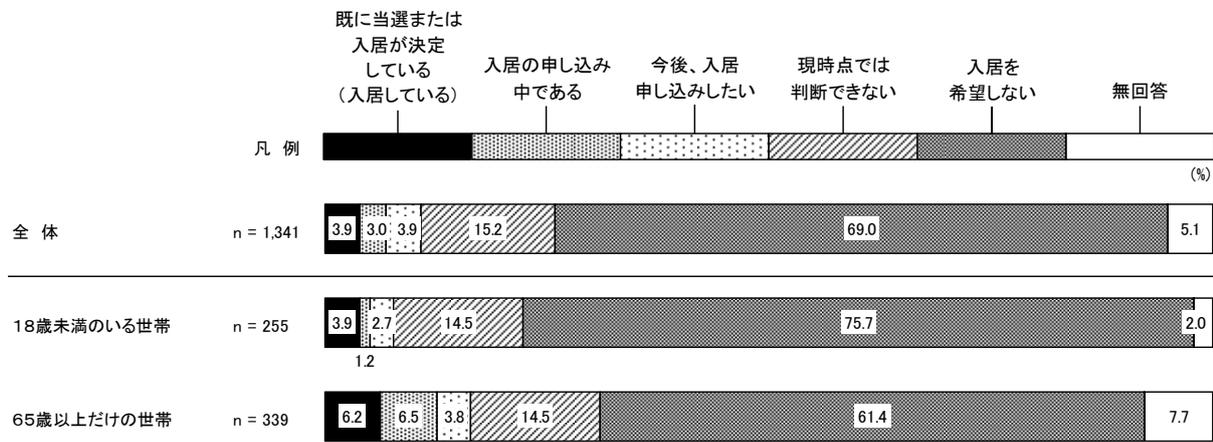
<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



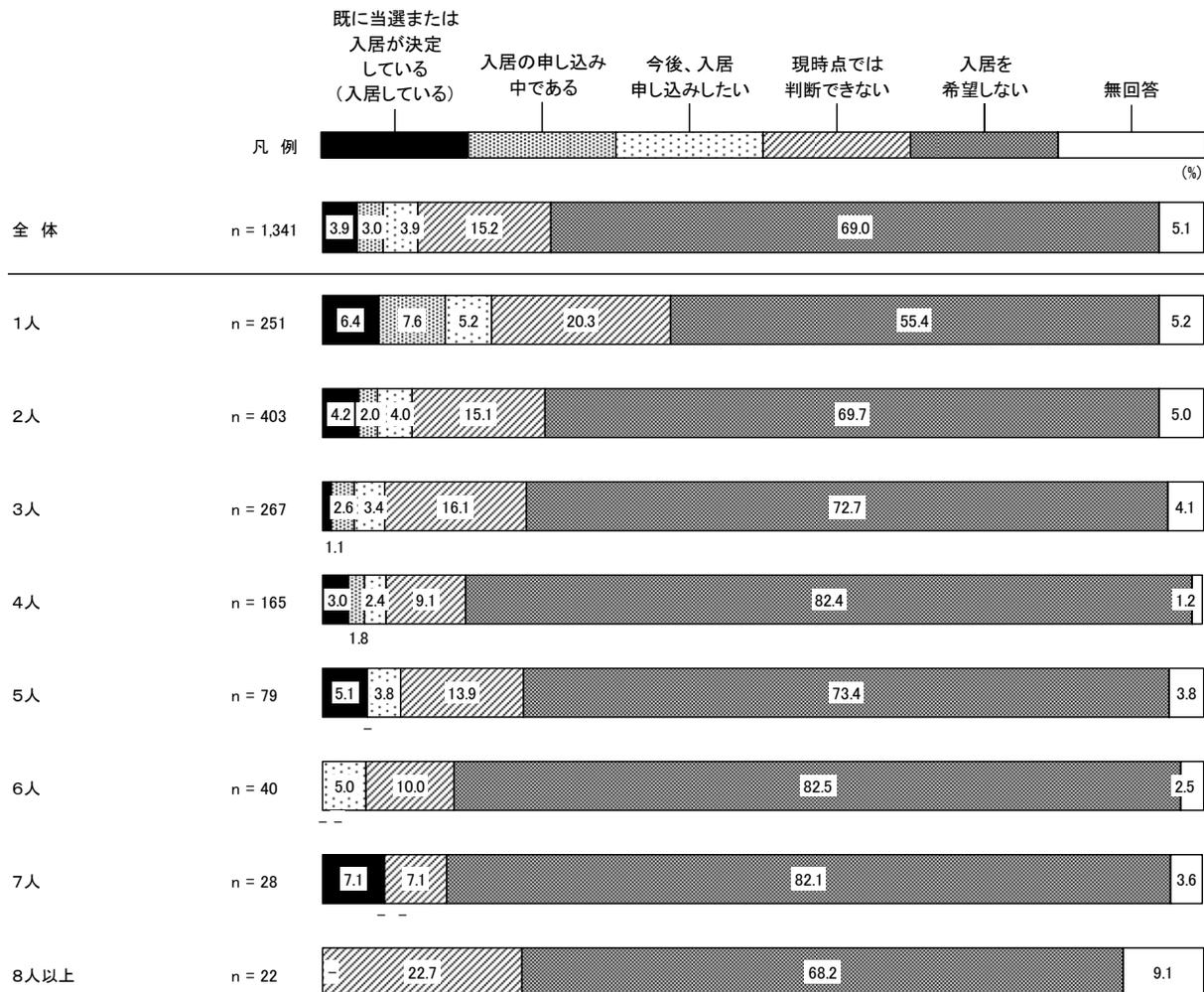
世帯構成別にみると、「入居を希望しない」は、18歳未満のいる世帯では75.7%となっており、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

世帯人数別にみると、「入居を希望しない」は人数が多いほど割合が高くなる傾向にある。一方、「現時点では判断できない」は世帯人数が1人の世帯で20.3%と高くなっている。

<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居意向（世帯構成別）>

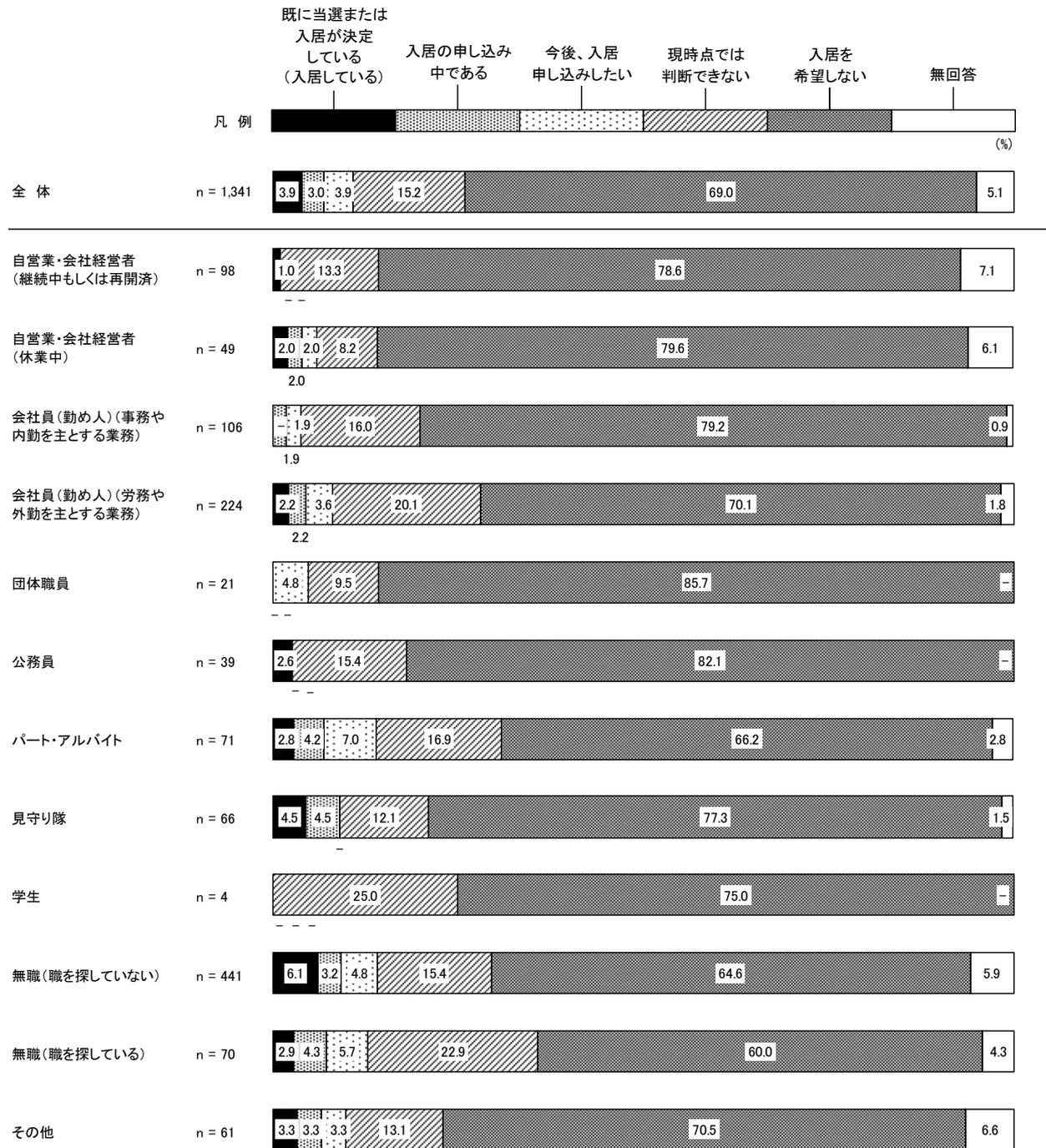


<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居意向（世帯人数別）>



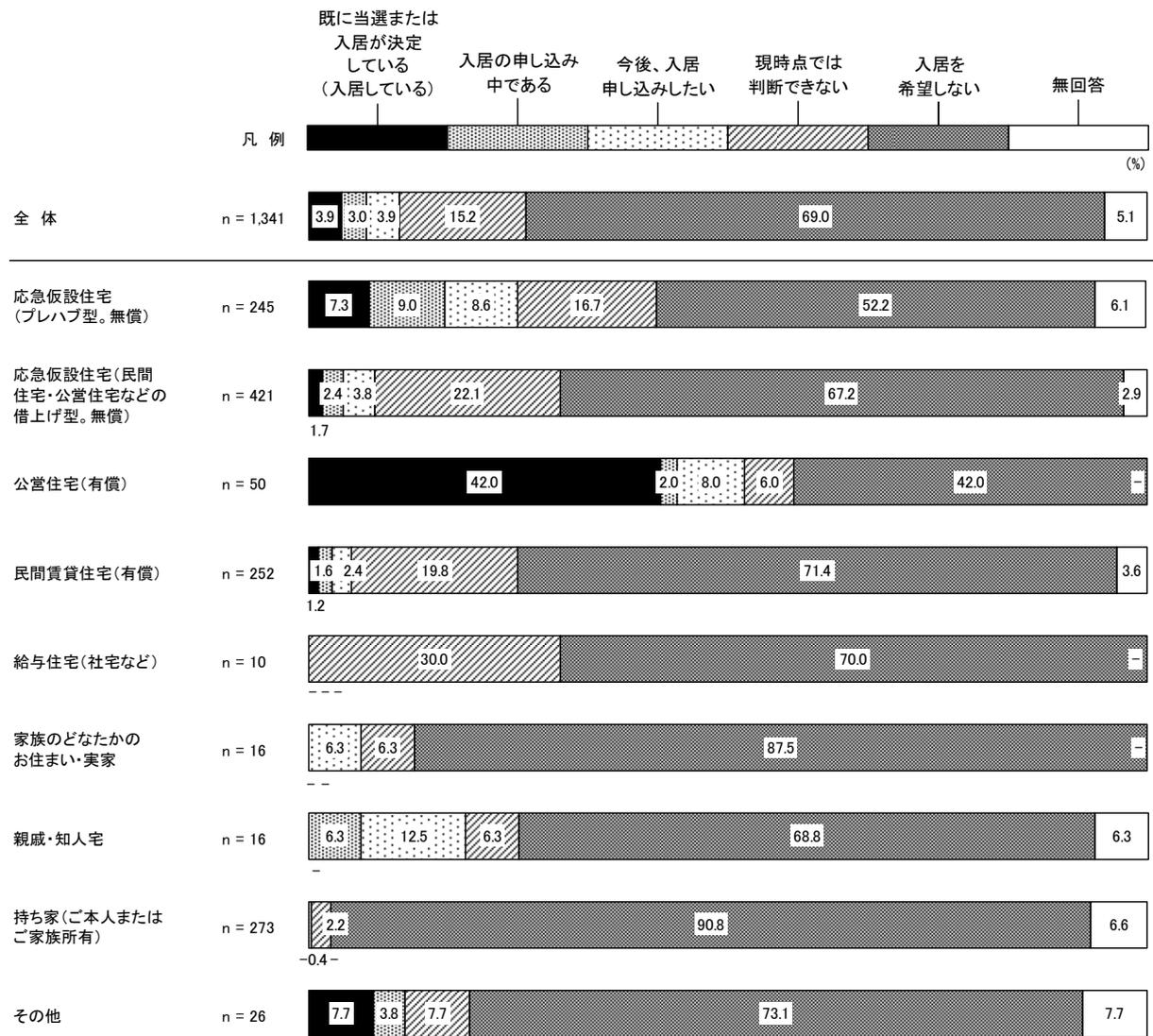
現在の職業別に見ると、「現時点では判断できない」は会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（20.1%）、無職（職を探している）（22.9%）で、他の職業と比べて高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居意向（現在の職業別）>



現在の住居形態別にみると、「入居を希望しない」は持ち家（ご本人またはご家族所有）で9割以上となっている。また、「現時点では判断できない」は応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）（22.1%）、民間賃貸住宅（有償）（19.8%）で、他の住居形態と比べて高くなっている。

<図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居意向（現在の住居形態別）>



3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している（入居している）方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問 12 で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問 12-1 入居が決定している（入居している）、入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域（市町村名）、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方（希望も含む。）は、＜2世帯目＞の列にもお答えください。

※分散してお住まいのご家族についてはご記入いただかなくて結構です。

＜1世帯目＞

（1）市町村名を教えてください。

（2）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

＜2世帯目＞

（1）市町村名を教えてください。

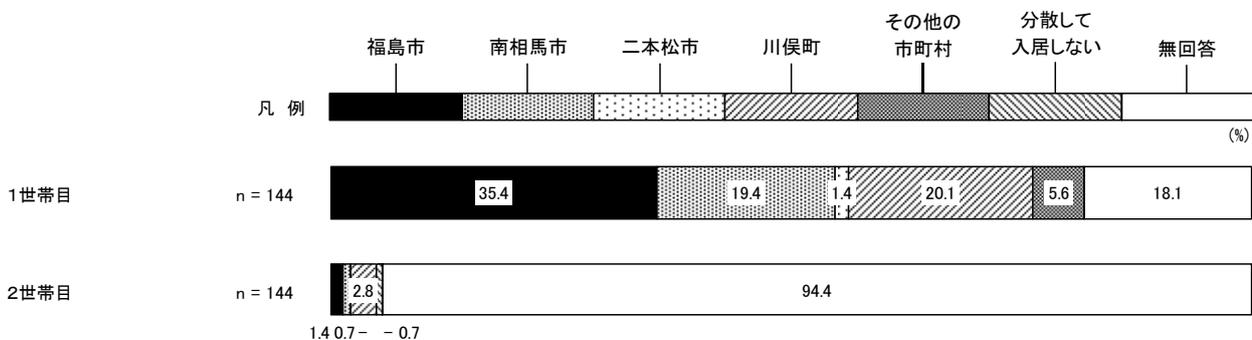
（2）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

＜1世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「福島市」が35.4%と最も高く、次いで「川俣町」が20.1%、「南相馬市」が19.4%となっている。

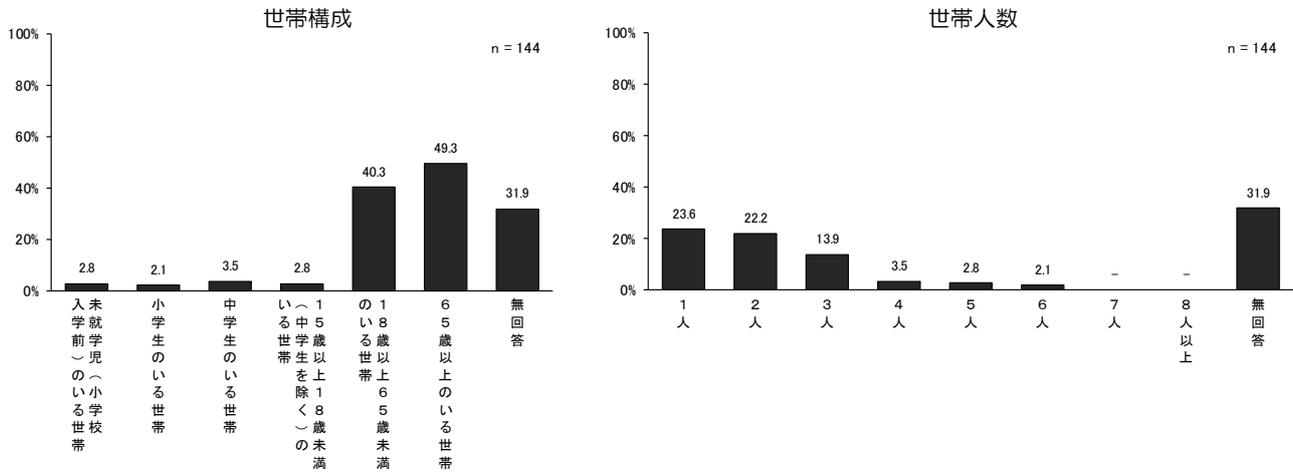
世帯構成（1世帯目）については、「65歳以上のいる世帯」が49.3%と最も高く、次いで「18歳以上65歳未満のいる世帯」が40.3%となっている。世帯人数（1世帯目）については、「1人」が23.6%と最も高く、次いで「2人」が22.2%、「3人」が13.9%となっている。

＜2世帯目＞については、入居を希望する世帯のうち、4.9%が2世帯目の入居を希望している。

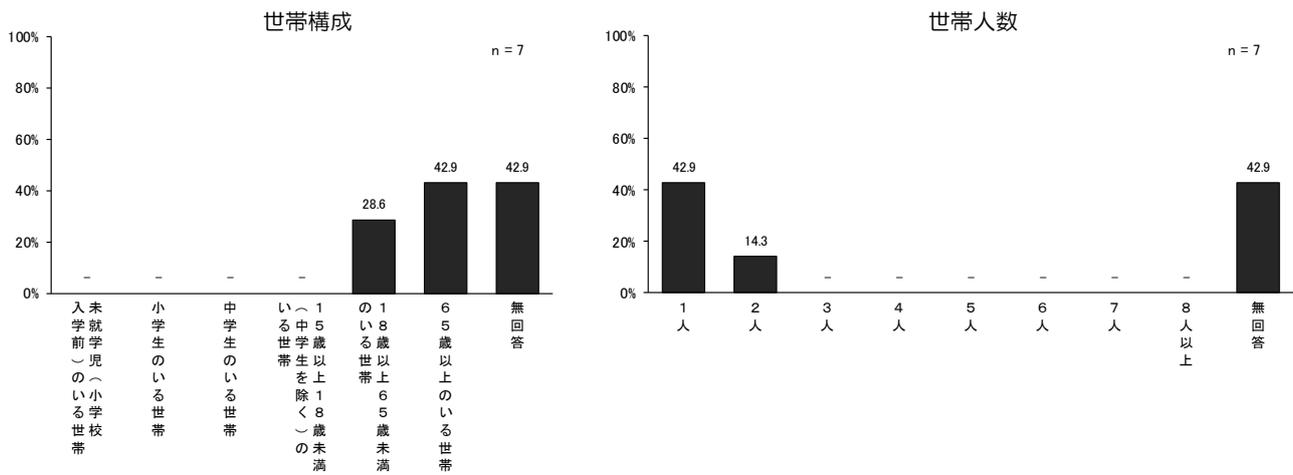
＜図表3-2-2-1 入居を希望する自治体＞



<図表3-2-2-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>

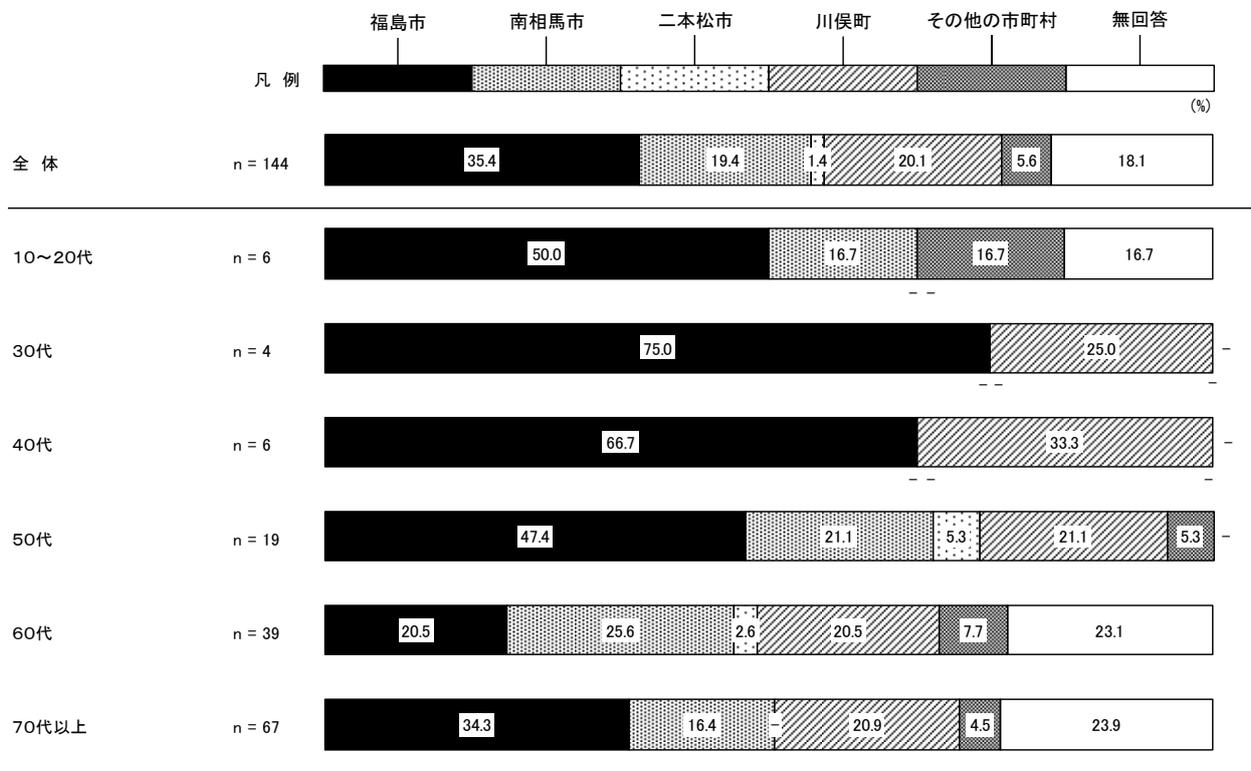


<図表3-2-2-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



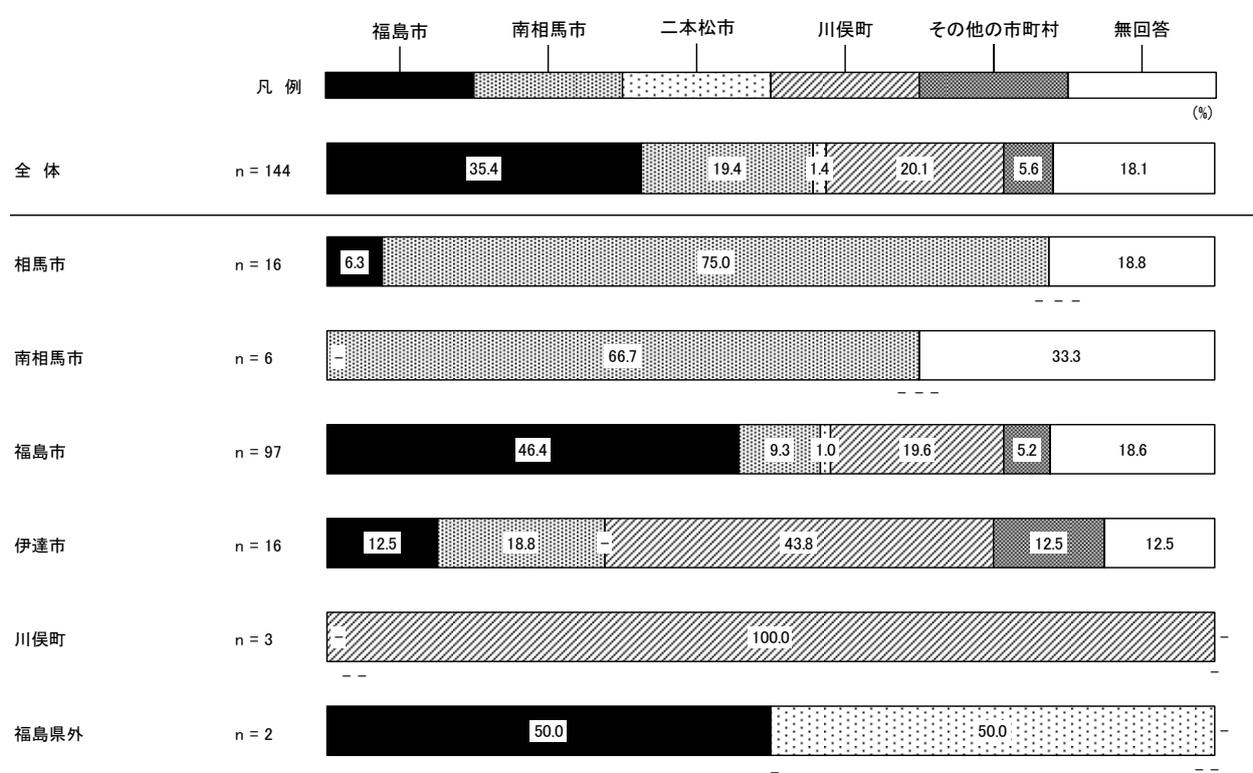
復興公営住宅への入居を希望する自治体<1世帯目>について、回答者の年齢別にみると、「南相馬市」は60代（25.6%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-2-4 入居を希望する主な自治体（1世帯目）（年齢別）>



復興公営住宅への入居を希望する自治体<1世帯目>について、主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも概ね避難先の自治体に入居を希望する割合が高くなっている。

<図表3-2-2-5 入居を希望する主な自治体（1世帯目）（主な避難先自治体別）>



3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス

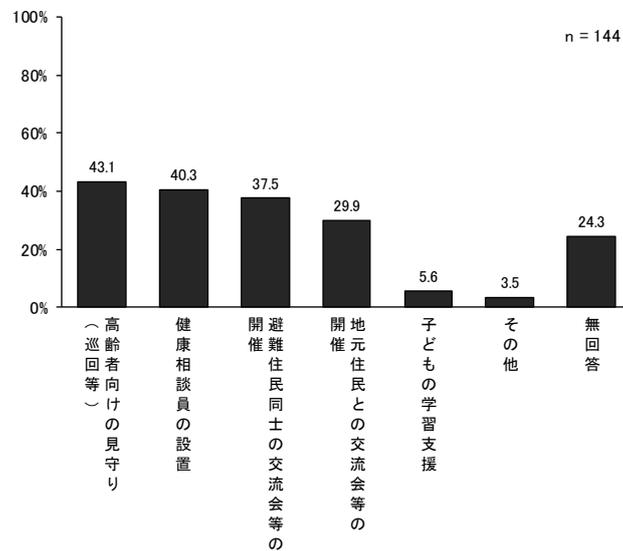
【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している（入居している）方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問12で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問12-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

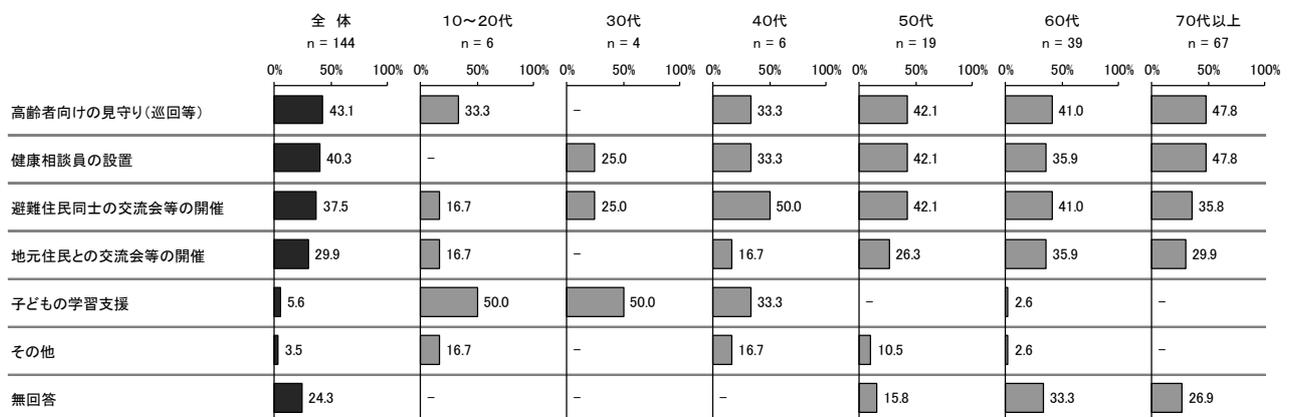
復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービスについては、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が43.1%と最も高く、次いで「健康相談員の設置」が40.3%、「避難住民同士の交流会等の開催」が37.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、70代以上では「高齢者向けの見守り（巡回等）」、「健康相談員の設置」（ともに47.8%）が、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-3-1 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス>



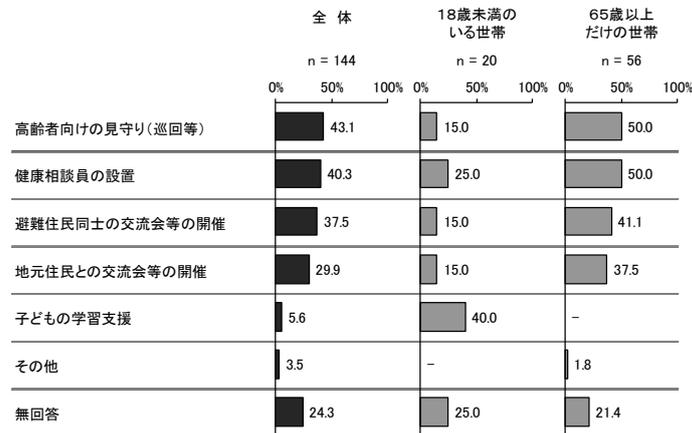
<図表3-2-3-2 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス（年齢別）>



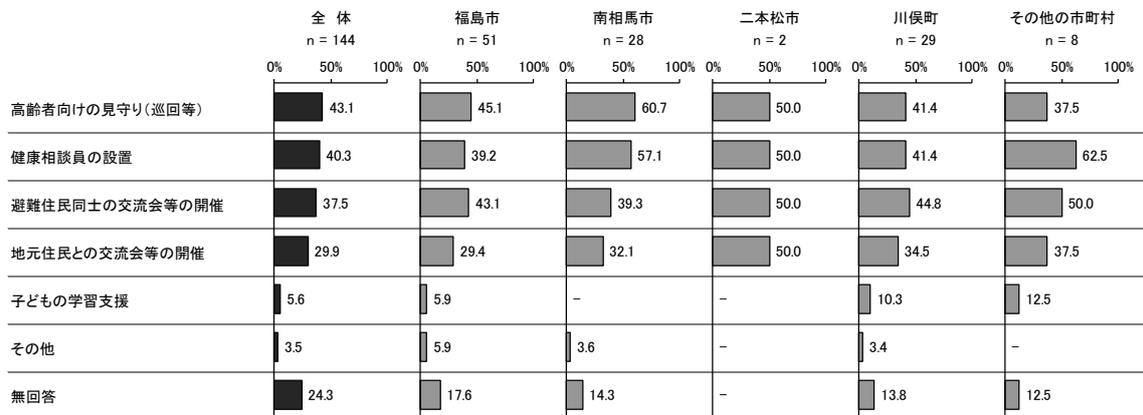
世帯構成別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」、「健康相談員の設置」（ともに 50.0%）は 65 歳以上だけの世帯で過半数を占める。

入居を希望する自治体別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」（60.7%）、「健康相談員の設置」（57.1%）は南相馬市で高くなっている。

<図表3-2-3-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス（世帯構成別）>



<図表3-2-3-4 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス（入居を希望する自治体別）>



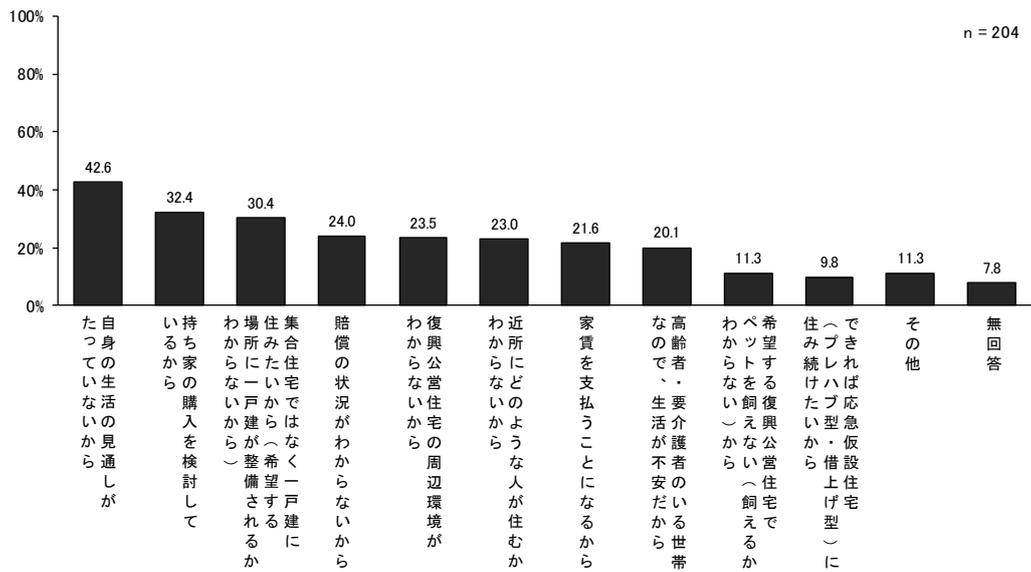
3-2-4 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由

【問 12 で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-4 復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由については、「自身の生活の見通しがたっていないから」が 42.6%で最も高く、次いで、「持ち家の購入を検討しているから」が 32.4%、「集合住宅ではなく一戸建に住みたいから（希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから）」が 30.4%となっている。

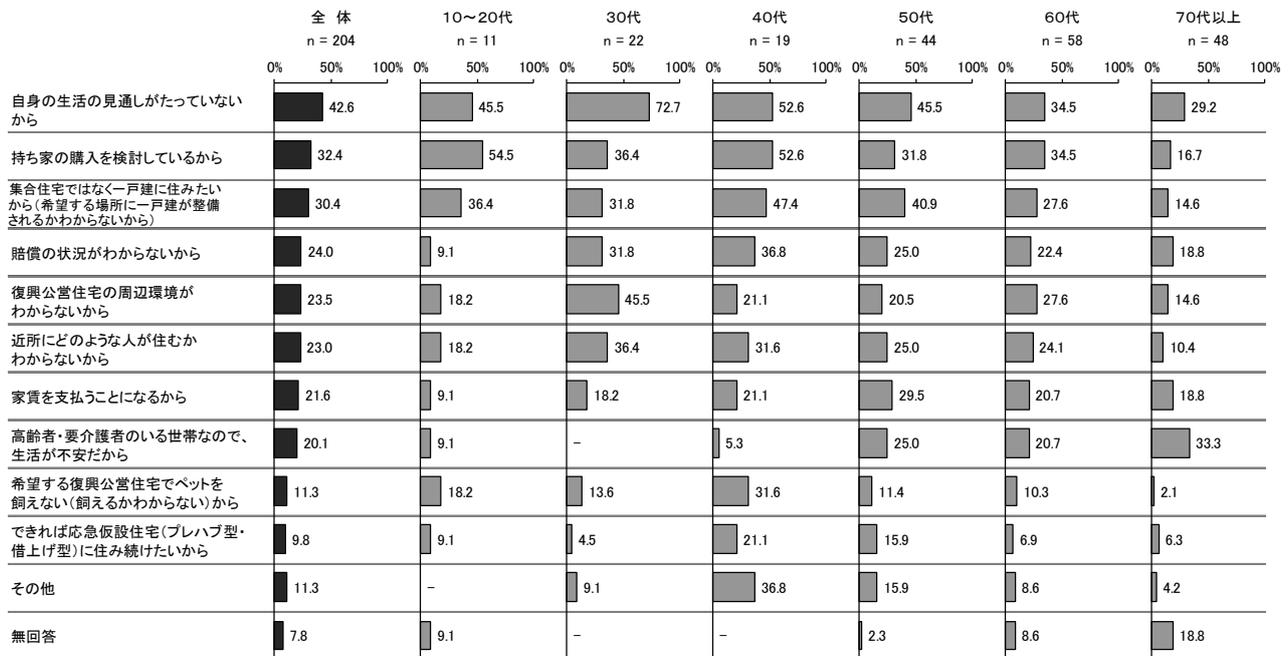
＜図表 3-2-4-1 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由＞



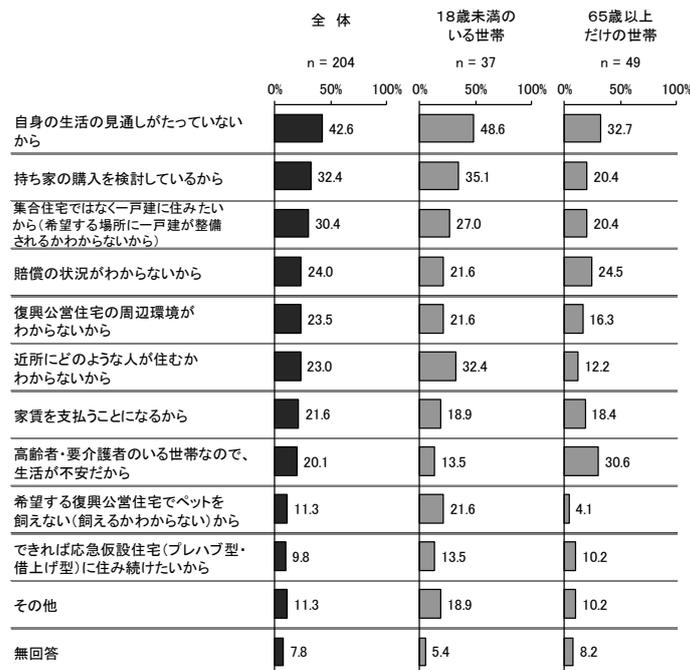
回答者の年齢別にみると、「高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから」は50代(25.0%)、60代(20.7%)、70代以上(33.3%)が他の年齢に比べ高くなっている。

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「自身の生活の見通しがたっていないから」(48.6%)、「持ち家の購入を検討しているから」(35.1%)、「近所にどのような人が住むかわからないから」(32.4%)が65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから」(30.6%)の割合が高くなっている。

<図表3-2-4-2 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由(年齢別)>



<図表3-2-4-3 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由(世帯構成別)>



3-2-5 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態

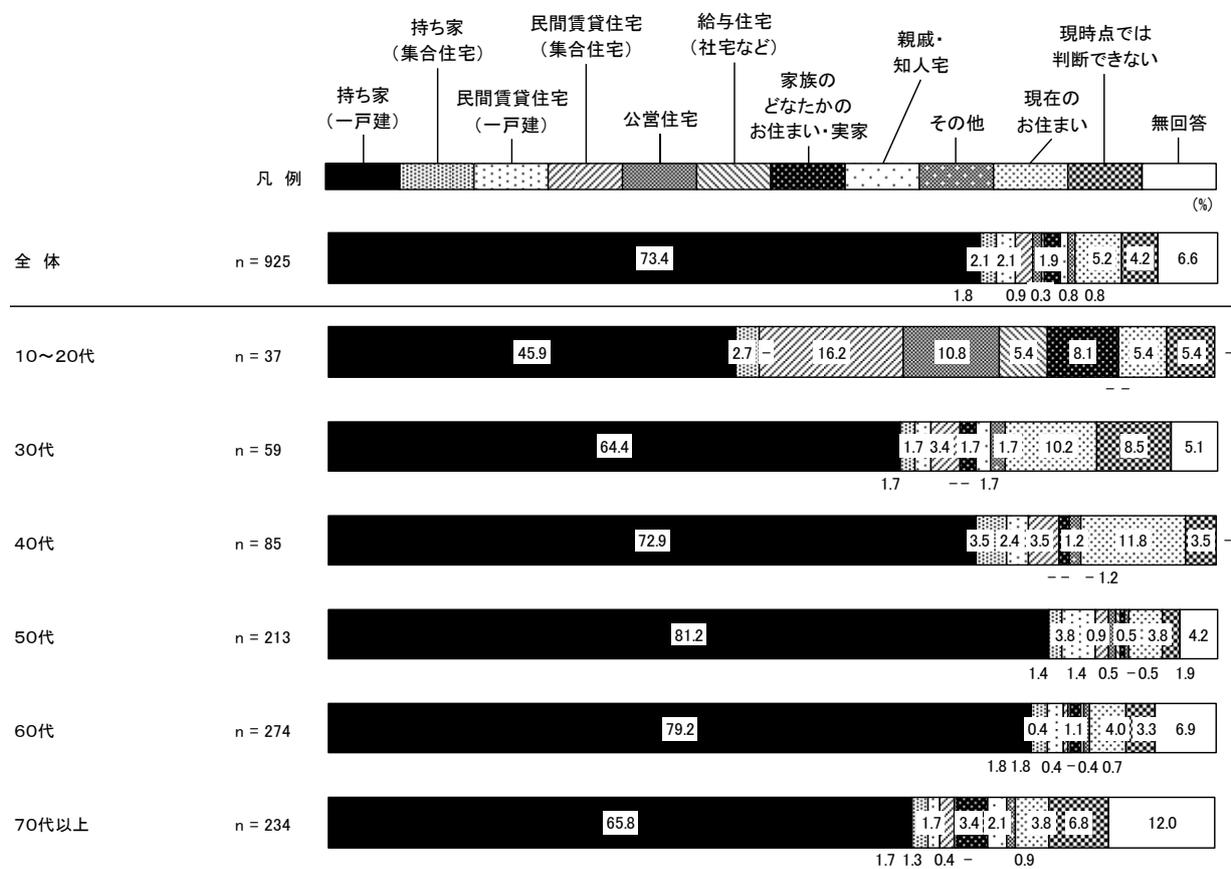
【問 12 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にかがいます】

問 12-6 今後のお住まいとして、希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

復興公営住宅へ入居を希望しない場合の今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が73.4%と最も高く、次いで「現在のお住まい」が5.2%、「現時点では判断できない」が4.2%となっている。

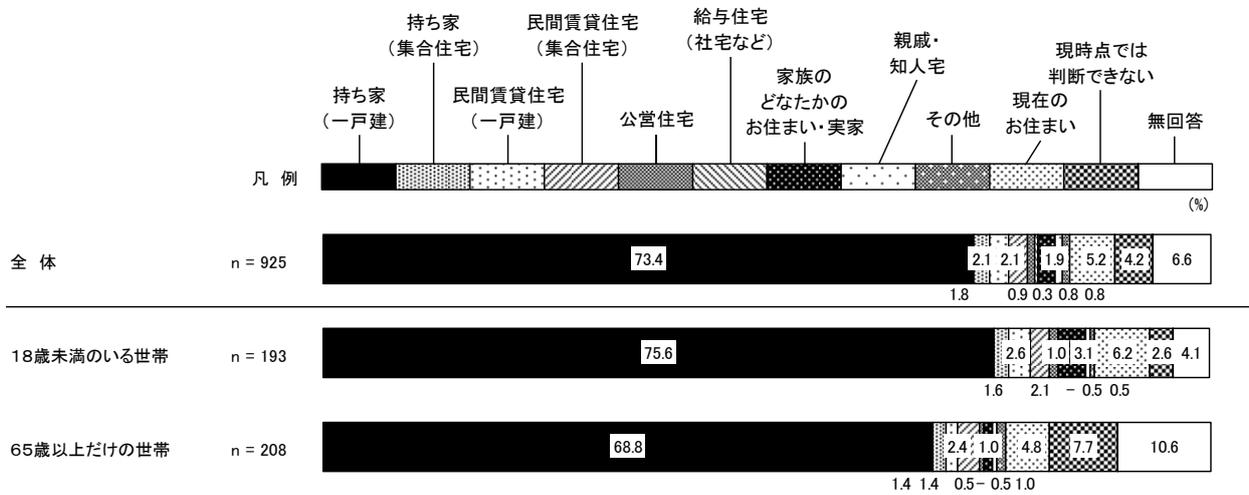
回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は40代（72.9%）、50代（81.2%）、60代（79.2%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-5-1 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（年齢別）>

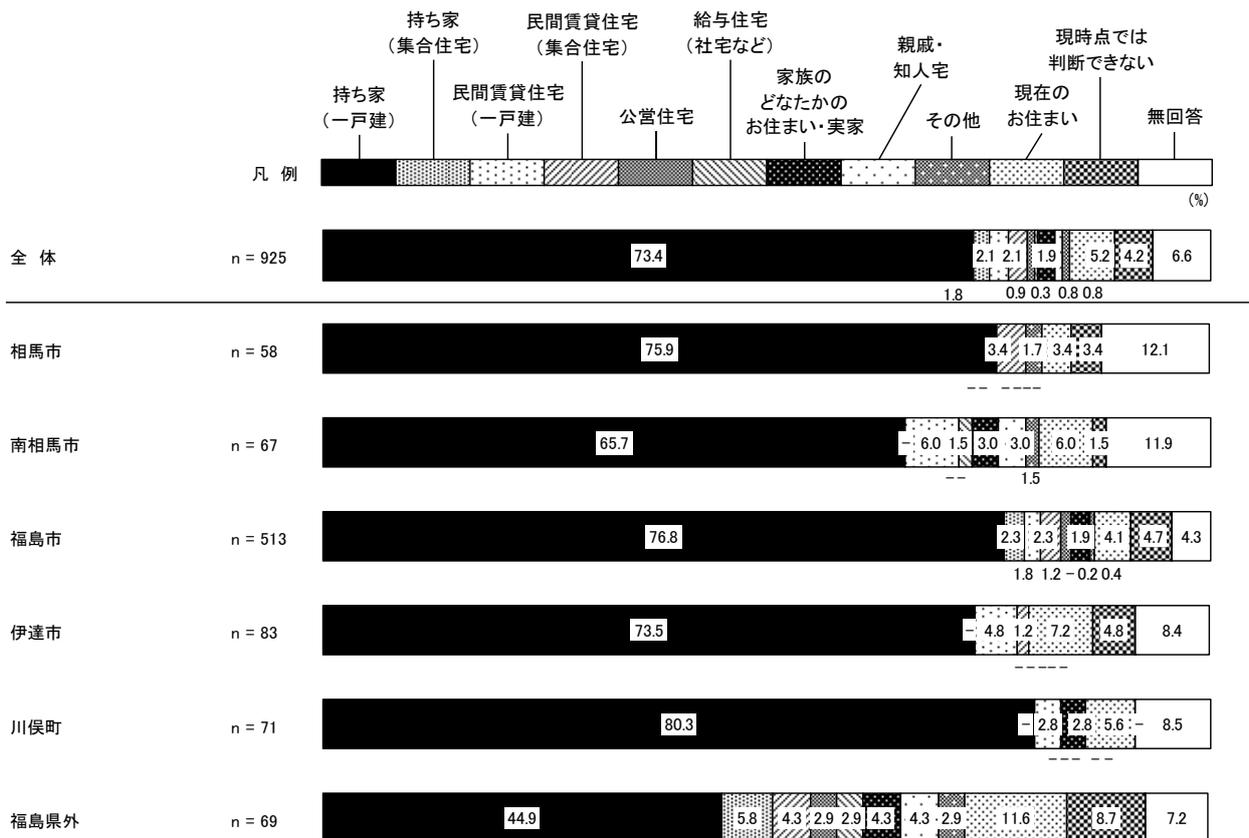


世帯構成別にみても、「持ち家（一戸建）」が最も高くなっている。
 主な避難先自治体別にみても、「持ち家（一戸建）」が最も高くなっている。

＜図表3-2-5-2 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（世帯構成別）＞



＜図表3-2-5-3 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（主な避難先自治体別）＞



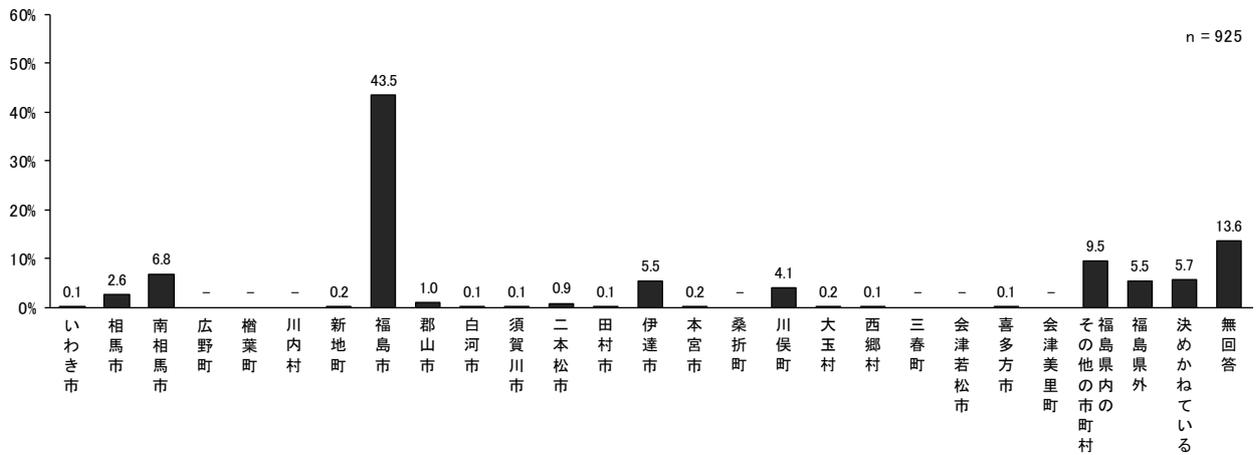
3-2-6 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体

【問 12 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-5 入居を希望しない場合に、居住を希望する（既に居住している場合を含む）市区町村はどちらですか。その自治体を教えてください。（〇は1つ）

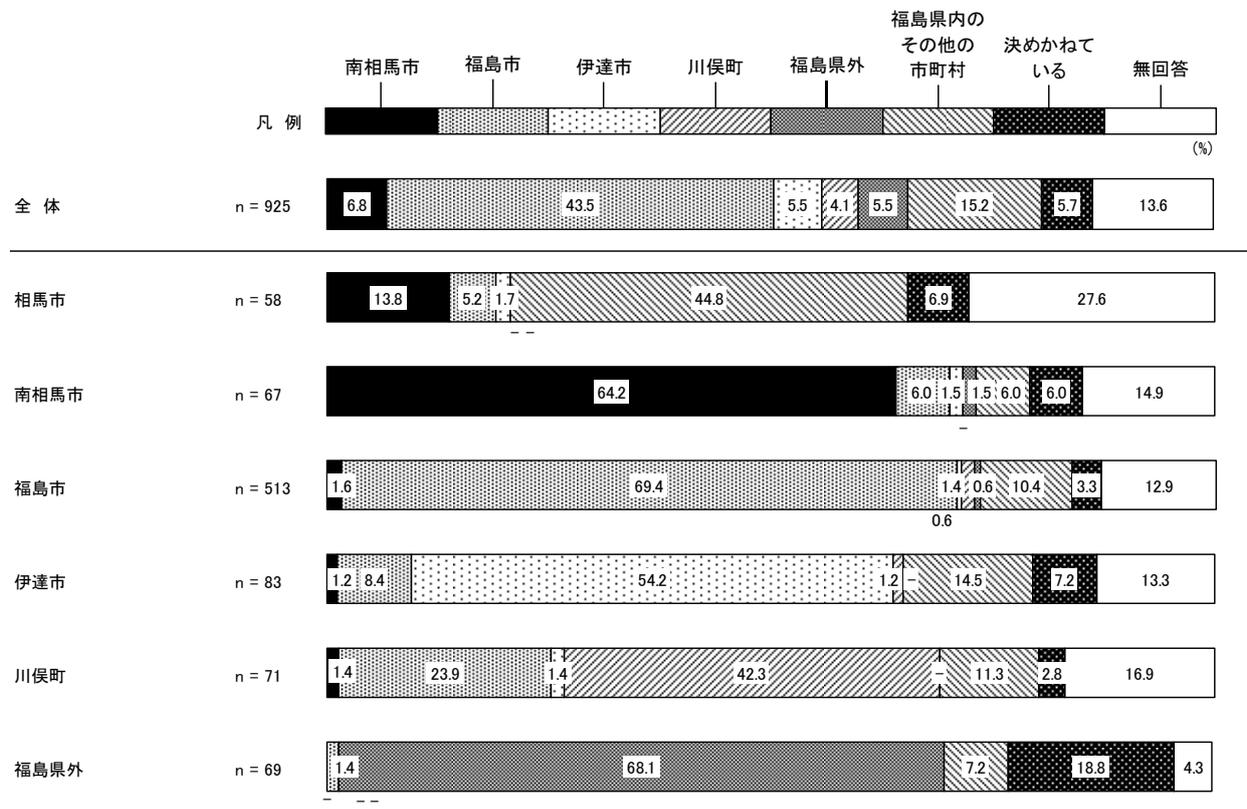
復興公営住宅に入居を希望しない場合に居住したい自治体については、「福島市」が 43.5%と最も高く、次いで「南相馬市」が 6.8%「決めかねている」が 5.7%となっている。

<図表3-2-6-1 入居を希望しない場合に居住したい自治体>



主な避難先自治体別にみると、現在南相馬市に避難している世帯の64.2%が同じ「南相馬市」へ、現在福島市に避難している世帯の69.4%が同じ「福島市」への転居を希望しており、伊達市（54.2%）、川俣町（42.3%）と比べ、同じ自治体への転居を希望する割合が高くなっている。一方、福島県外に避難している世帯の68.1%が福島県外への転居を希望しているが、「決めかねている」と回答した世帯も18.8%となっており、他の避難先自治体と比べて高くなっている。

<図表3-2-6-2 入居を希望しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3 将来の意向

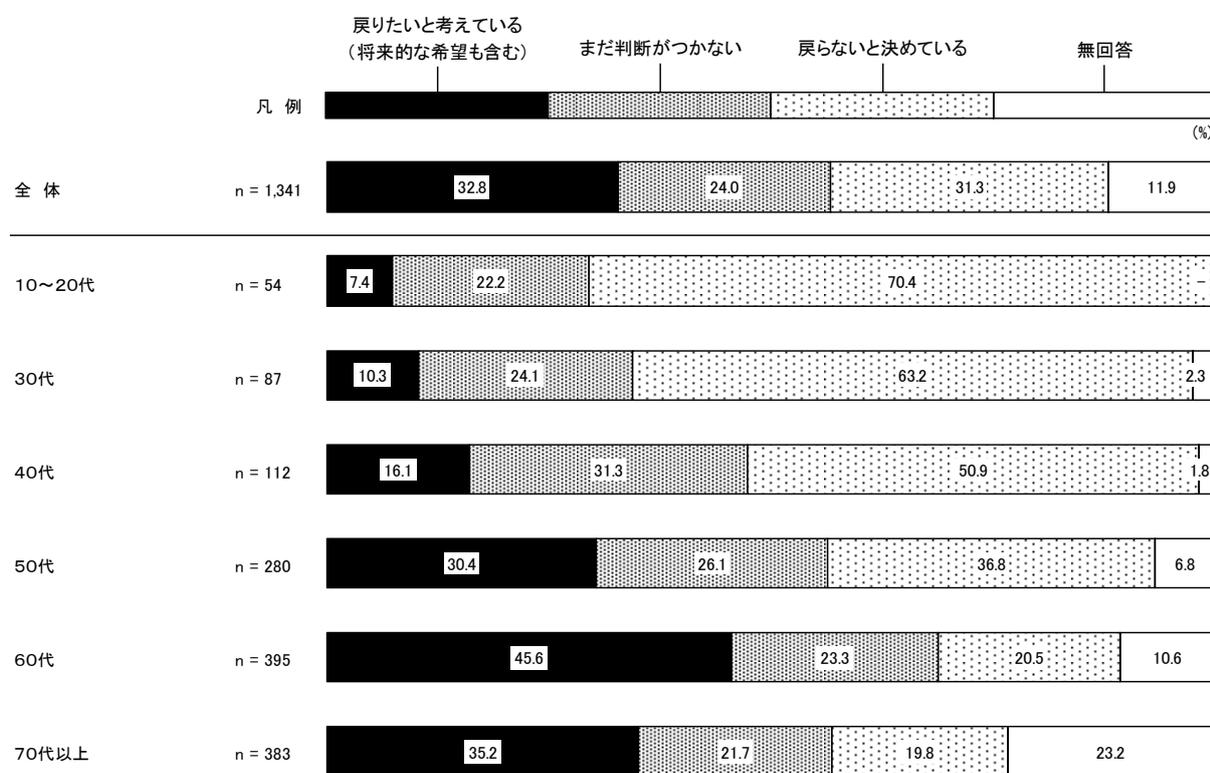
3-3-1 飯舘村への帰還意向

問 13 将来、飯舘村の避難指示が解除された後の飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

将来、飯舘村の避難指示が解除された後の帰還意向については、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が32.8%と最も高く、次いで「戻らないと決めている」が31.3%、「まだ判断がつかない」が24.0%となっている。

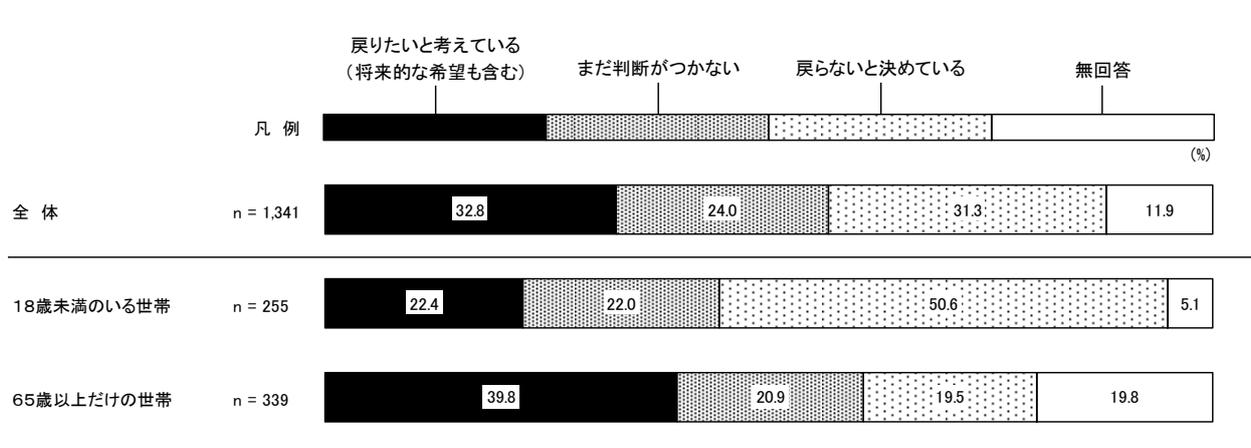
回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向にあり、60代では45.6%となっている。

<図表3-3-1-1 飯舘村への帰還意向（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「戻らないと決めている」が50.6%と過半数を占める。一方、65歳以上だけの世帯では「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が39.8%と最も高くなっている。

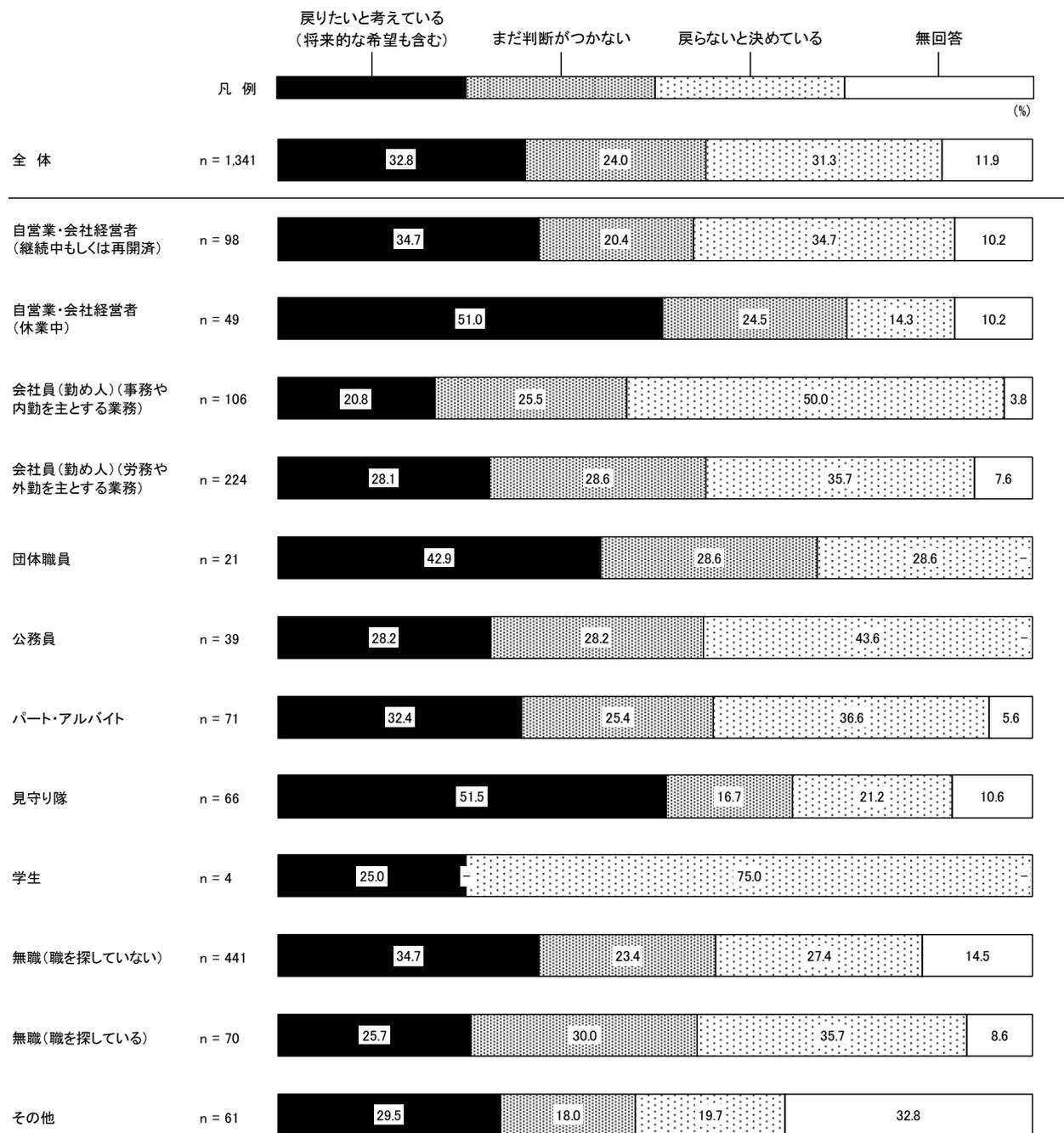
<図表3-3-1-2 飯舘村への帰還意向（世帯構成別）>



III 調査結果

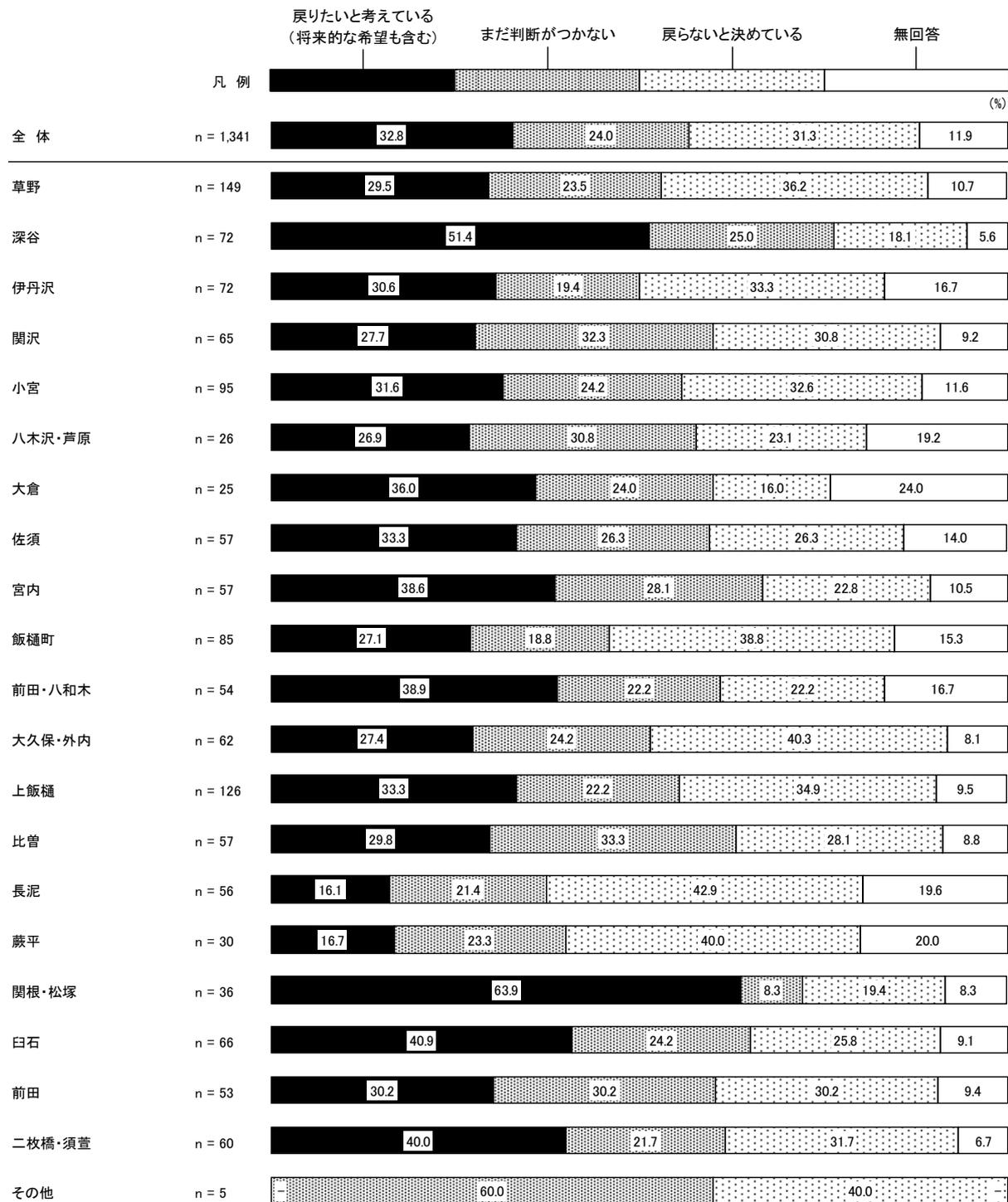
現在の職業別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は自営業・会社経営者（休業中）で51.0%、見守り隊で51.5%となっており、他の職業と比べて高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）で50.0%、公務員で43.6%となっており、他の職業と比べて高くなっている。

<図表3-3-1-3 飯舘村への帰還意向（現在の職業別）>



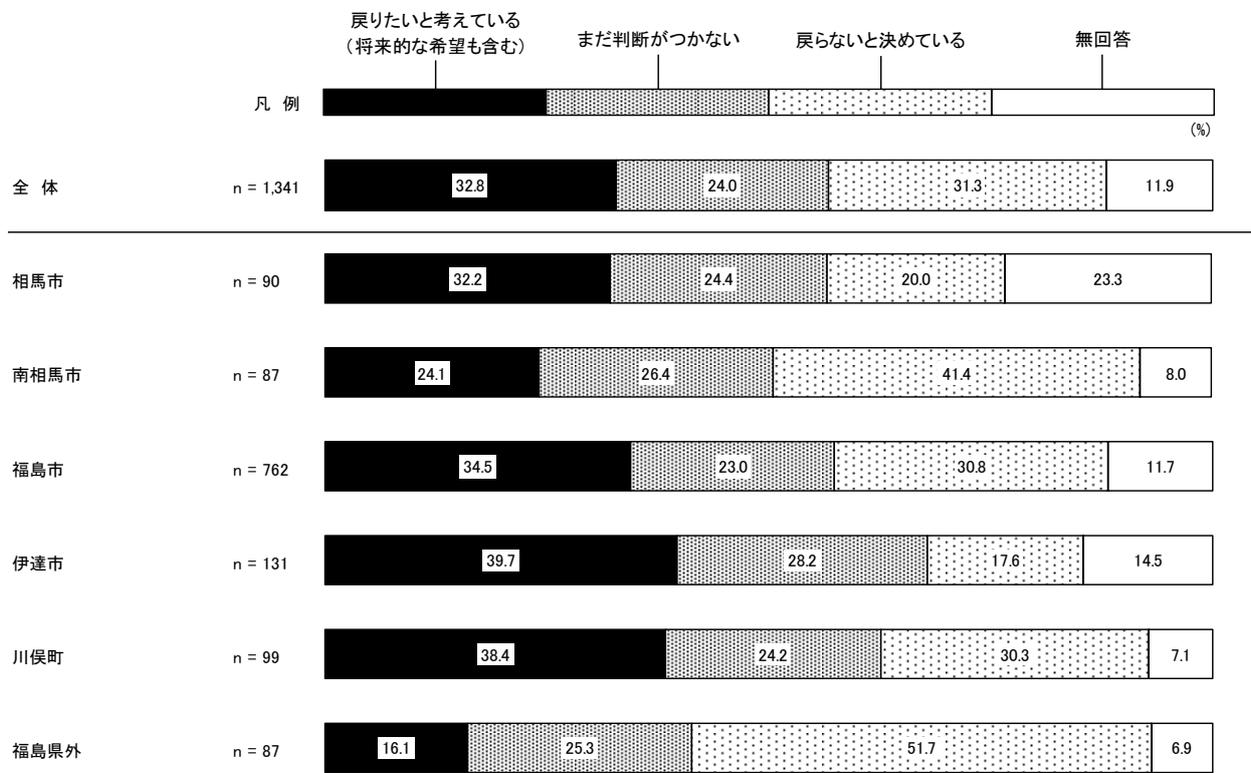
震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は深谷（51.4%）、関根・松塚（63.9%）で、他の居住行政区と比べて高くなっている。

＜図表3-3-1-4 飯館村への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞



主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は伊達市で39.7%、川俣町で38.4%となっており、他の避難先自治体と比べて高くなっている。

<図表3-3-1-5 飯舘村への帰還意向（主な避難先自治体別）>



3-3-2 飯舘村への帰還時期

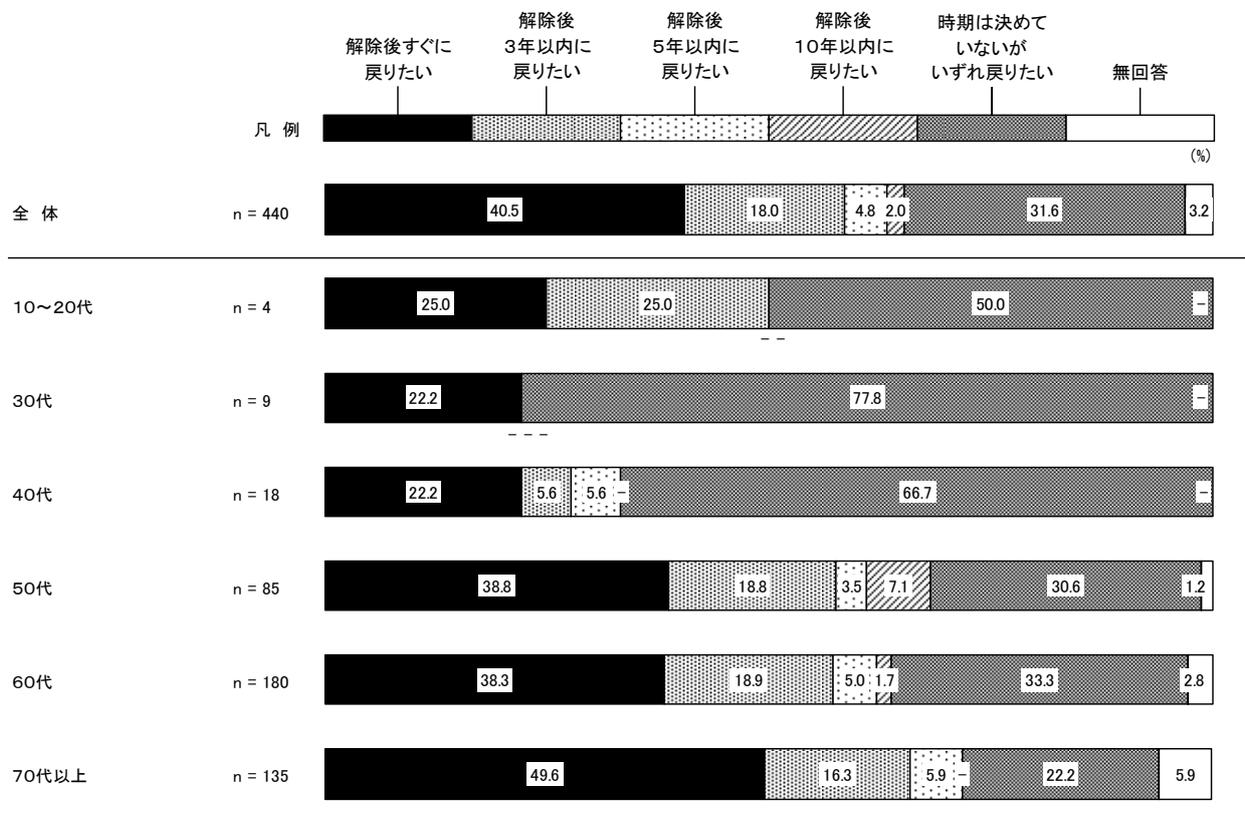
【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1-1 飯舘村へ戻る時期についてどうお考えですか。（〇は1つ）

飯舘村への帰還時期については、「解除後すぐに戻りたい」が 40.5%と最も高く、次いで「時期は決めていないがいずれ戻りたい」が 31.6%、「解除後3年以内に戻りたい」が 18.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「解除後すぐに戻りたい」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向があり、70代以上では 49.6%となっている。「解除後3年以内に戻りたい」は 50代（18.8%）、60代（18.9%）、70代以上（16.3%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

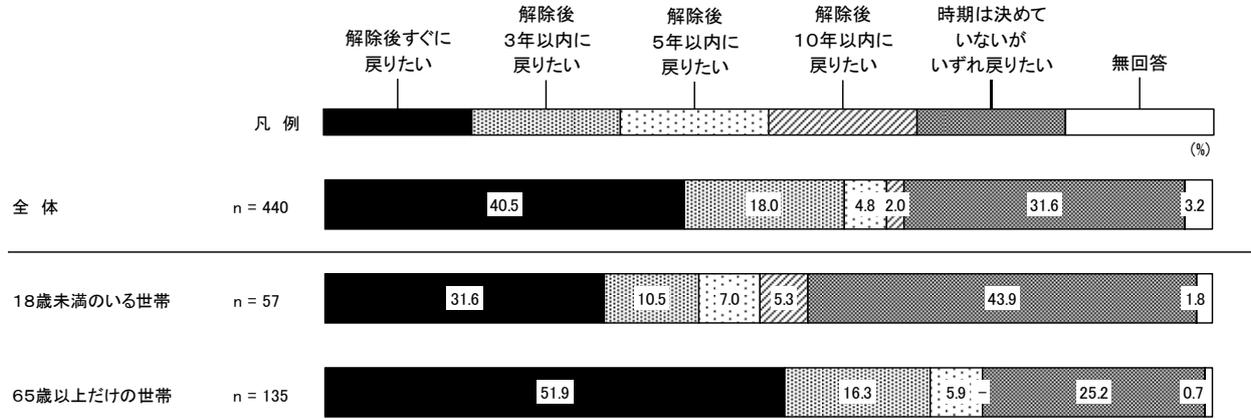
<図表3-3-2-1 飯舘村への帰還時期（年齢別）>



Ⅲ 調査結果

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「時期は決めていないがいずれ戻りたい」が43.9%と最も高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「解除後すぐに戻りたい」が51.9%と最も高くなっている。

<図表3-3-2-2 飯舘村への帰還時期（世帯構成別）>



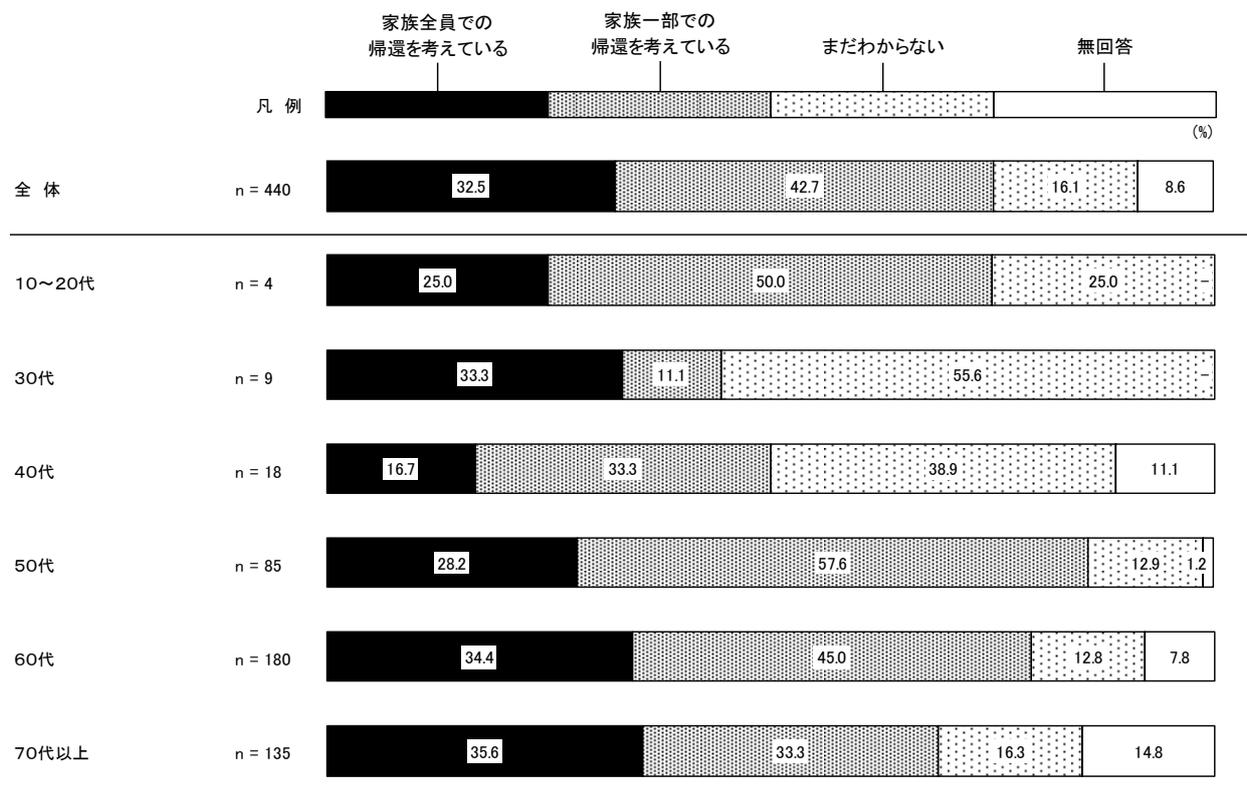
3-3-3 飯舘村へ戻る場合の家族

【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問 13-1-2 飯舘村へ戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

飯舘村へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が42.7%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が32.5%、「まだわからない」が16.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「家族一部での帰還を考えている」は50代（57.6%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

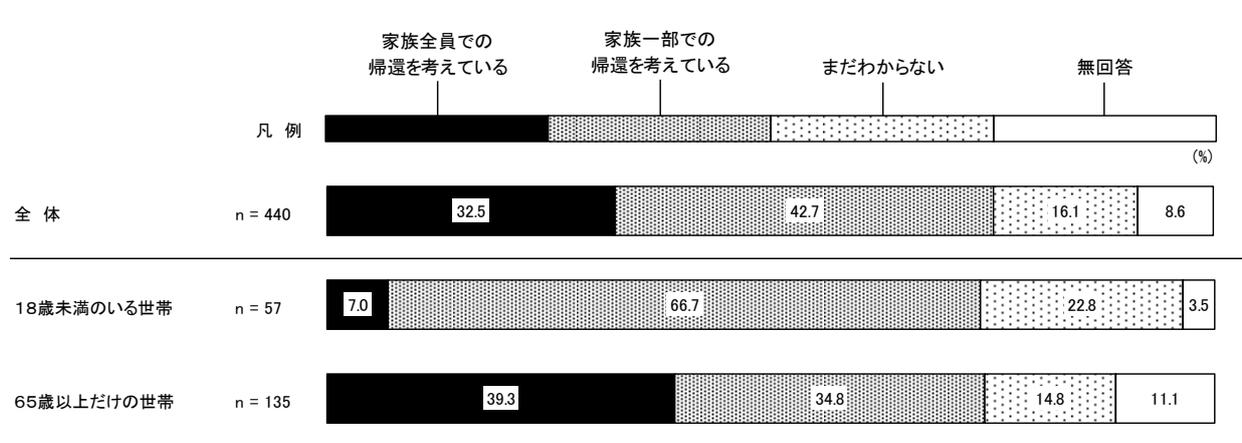
<図表3-3-3-1 飯舘村へ戻る場合の家族（年齢別）>



Ⅲ 調査結果

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「家族一部での帰還を考えている」が66.7%と最も高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「家族全員での帰還を考えている」が39.3%と最も高くなっている。

<図表3-3-3-2 飯舘村へ戻る場合の家族（世帯構成別）>

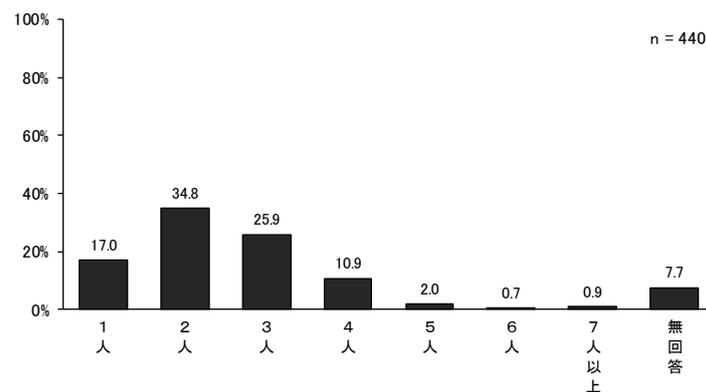


3-3-4 飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数

【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問 14-2 帰還した場合のお住まいに、一緒に住む予定の人数を教えてください。（〇は1つ）

飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数については、「2人」が34.8%と最も高く、次いで「3人」が25.9%、「1人」が17.0%となっている。

<図表3-3-4-1 飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数>



3-3-5 飯舘村へ帰還する場合の住居形態

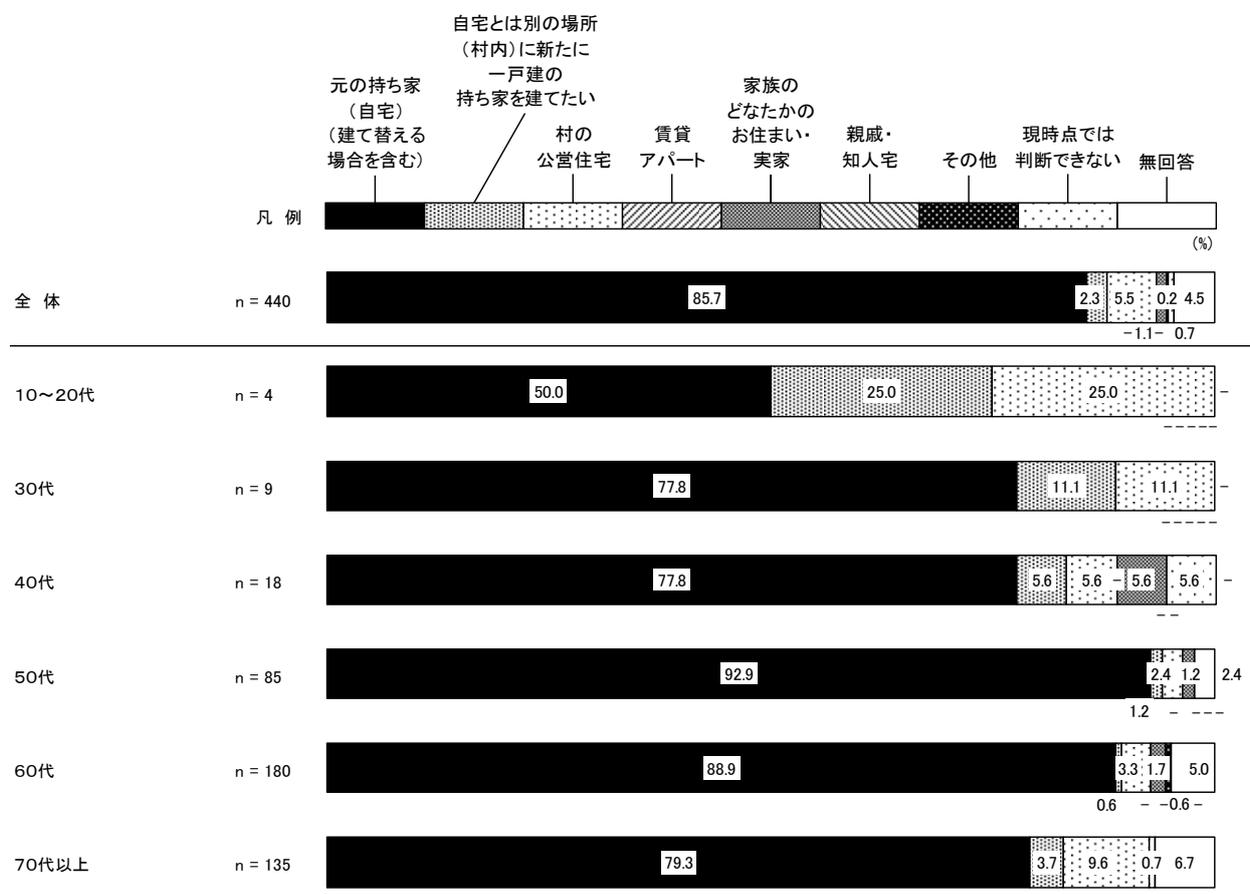
【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 14-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（○は1つ）

飯舘村への帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 85.7% と最も高く、次いで「村の公営住宅」が 5.5%、「自宅とは別の場所（村内）に新たに一戸建の持ち家を建てたい」が 2.3% となっている。

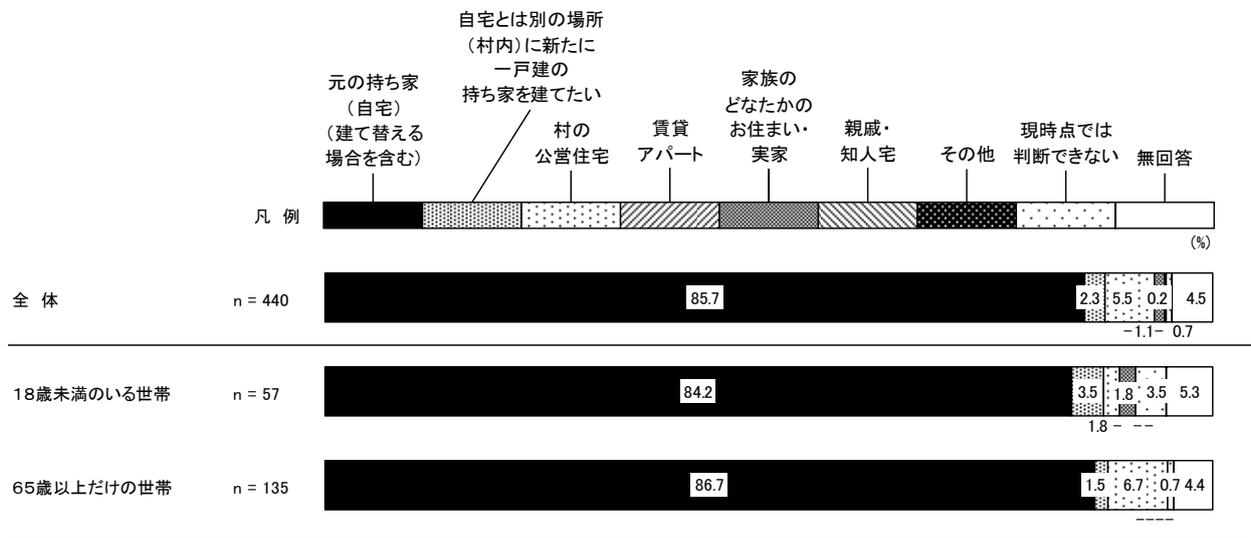
回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」の割合が最も高くなっている。

<図表 3-3-5-1 飯舘村へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、いずれの世帯構成でも「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」の割合が最も高くなっている。

<図表3-3-5-2 飯館村へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



III 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、いずれの行政区でも「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」の割合が最も高くなっている。

<図表3-3-5-3 飯館村へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）>

		(%)									
	n	元の持ち家（自宅） （建て替える場合を 含む）	建 一 （ 戸 村 内 ） に 建 た い 持 ち 家 を	自 宅 と は 別 の 場 所	村 の 公 営 住 宅	賃 貸 ア パ ー ト	お 家 族 の ど な た か の お 住 まい ・ 実 家	親 戚 ・ 知 人 宅	そ の 他	現 時 点 で は 判 断 で き な い	無 回 答
全 体	440	85.7	2.3	5.5	-	1.1	-	0.2	0.7	4.5	
草野	44	65.9	4.5	22.7	-	-	-	-	2.3	4.5	
深谷	37	86.5	-	5.4	-	-	-	-	-	8.1	
伊丹沢	22	90.9	4.5	-	-	-	-	-	-	4.5	
関沢	18	94.4	-	5.6	-	-	-	-	-	-	
小宮	30	90.0	6.7	3.3	-	-	-	-	-	-	
八木沢・芦原	7	85.7	-	-	-	-	-	-	-	14.3	
大倉	9	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐須	19	84.2	-	5.3	-	-	-	-	-	10.5	
宮内	22	90.9	-	9.1	-	-	-	-	-	-	
飯樋町	23	82.6	-	13.0	-	4.3	-	-	-	-	
前田・八和木	21	66.7	4.8	9.5	-	4.8	-	-	4.8	9.5	
大久保・外内	17	82.4	-	5.9	-	5.9	-	-	-	5.9	
上飯樋	42	90.5	-	2.4	-	2.4	-	2.4	-	2.4	
比曾	17	88.2	11.8	-	-	-	-	-	-	-	
長泥	9	88.9	-	-	-	-	-	-	-	11.1	
藤平	5	80.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	
関根・松塚	23	91.3	-	-	-	-	-	-	-	8.7	
臼石	27	88.9	3.7	-	-	3.7	-	-	-	3.7	
前田	16	93.8	-	-	-	-	-	-	-	6.3	
二枚橋・須萱	24	91.7	-	-	-	-	-	-	-	8.3	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

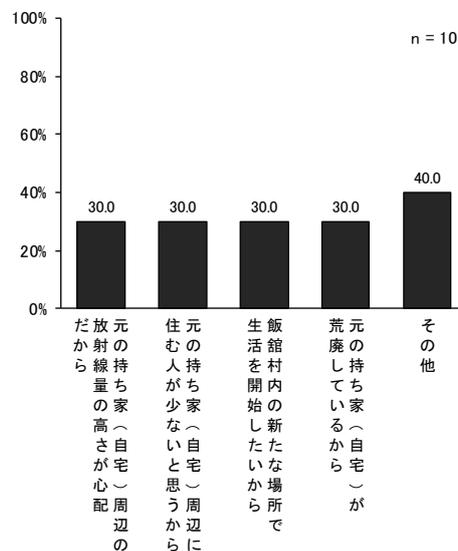
3-3-6 飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 14-3 で「2. 自宅とは別の場所（村内）に新たに一戸建の持ち家を建てたい」と回答した方に
うかがいます。】

問 14-4 自宅とは別の場所を希望される理由は、何ですか。（〇はいくつでも）

飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」、「飯舘村内の新たな場所で生活を開始したいから」、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が 30.0%となっている。

<図表 3-3-6-1 飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



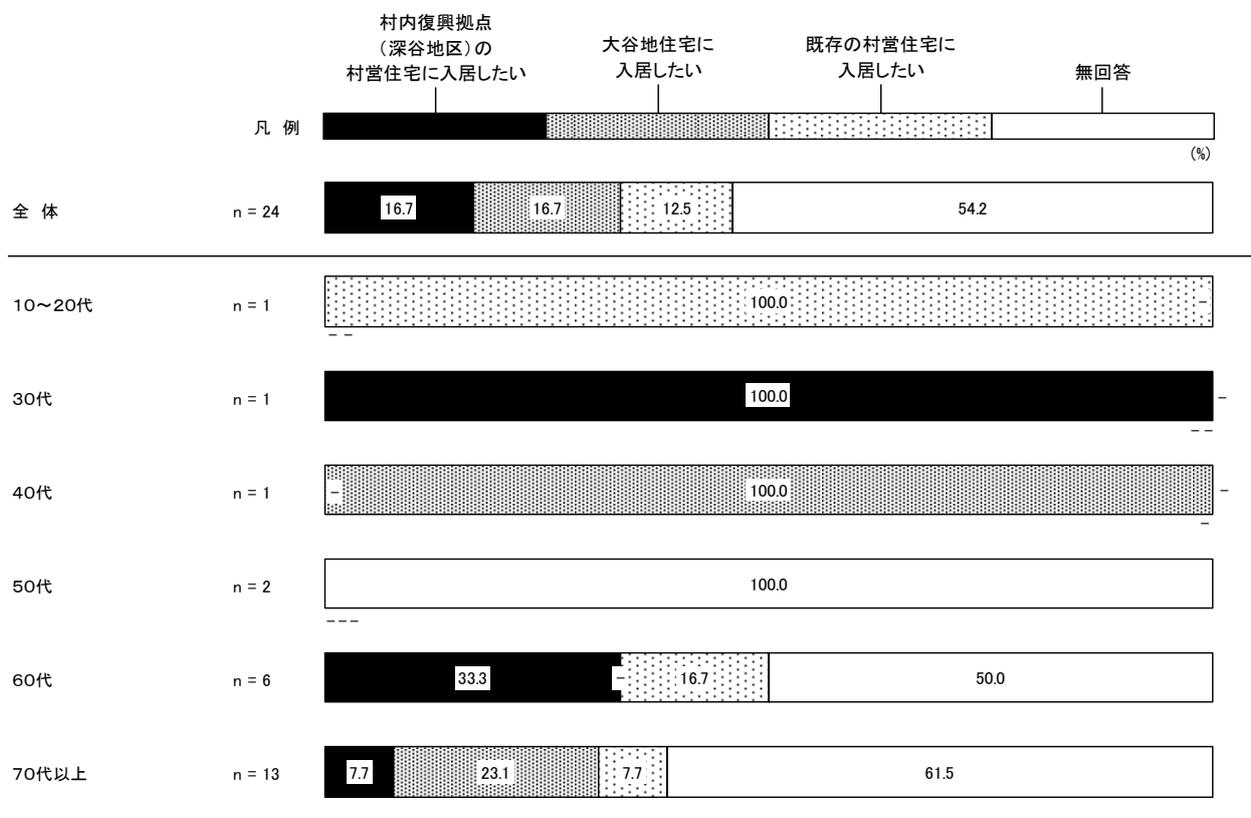
3-3-7 村営住宅への入居意向

【問 14-3 で「3. 村の公営住宅」と回答した方にかがいます。】

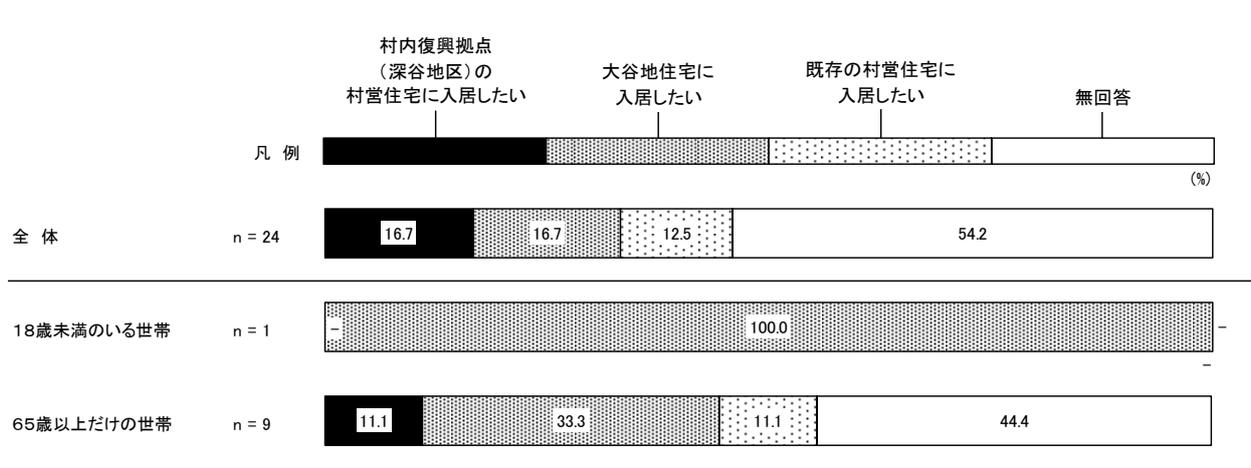
問 14-5 村では、復興計画（第4、5版）において、自宅に戻っても一人暮らしが難しい高齢者や、村内で働く方などのための村営住宅（復興住宅）を村内復興拠点エリア（深谷地区）に建設する計画です。また、この他にも、草野大谷地地区にも新しく村営住宅を建設します。村営住宅が建設された場合、入居を希望しますか。（〇は1つ）

村営住宅への入居意向については、「村内復興拠点（深谷地区）の村営住宅に入居したい」、「大谷地住宅に入居したい」が16.7%と最も高く、次いで「既存の村営住宅に入居したい」が12.5%となっている。

＜図表3-3-7-1 村営住宅への入居意向（年齢別）＞



<図表3-3-7-2 村営住宅への入居意向（世帯構成別）>



3-3-8 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）への希望

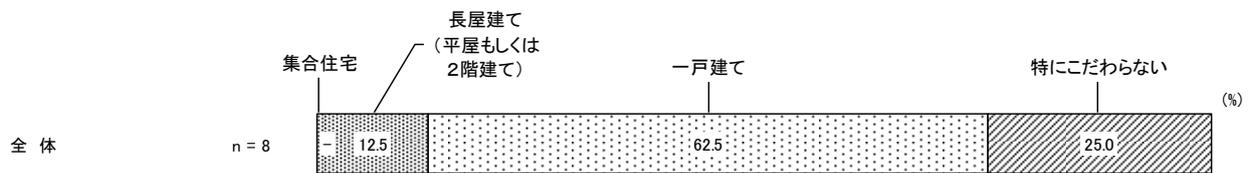
(1) 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望する住居形態

【問 14-5 で「1. 村内復興拠点（深谷地区）の村営住宅に入居したい」「2. 大谷地住宅に入居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-6 新しく整備を計画している村営住宅について、どのような建て方を希望しますか。（〇は1つ）

村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望する住居形態については、「一戸建て」が 62.5%と最も高く、次いで「特にこだわらない」が 25.0%、「長屋建て（平屋もしくは2階建て）」が 12.5%となっている。

＜図表3-3-8-1 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望する住居形態＞



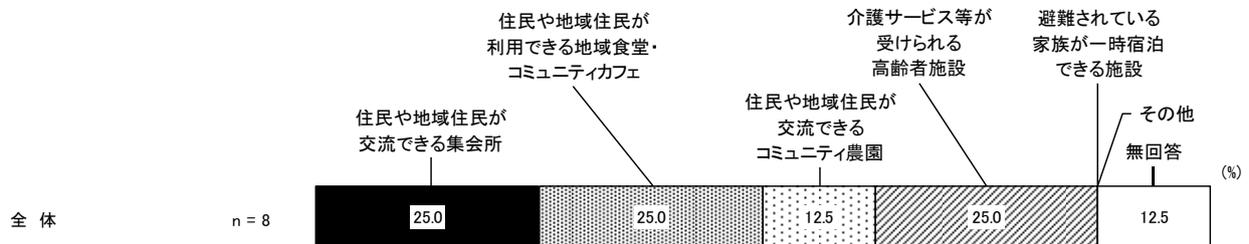
(2) 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望する施設

【問 14-5 で「1. 村内復興拠点（深谷地区）の村営住宅に入居したい」「2. 大谷地住宅に入居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-7 新しく整備を計画している村営住宅について、どのような施設があればよいと考えますか。（〇は1つ）

村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望する施設については、「住民や地域住民が交流できる集会所」、「住民や地域住民が利用できる地域食堂・コミュニティカフェ」、「介護サービス等が受けられる高齢者施設」が 25.0%と最も高く、次いで「住民や地域住民が交流できるコミュニティ農園」が 12.5%となっている。

＜図表3-3-8-2 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望する施設＞



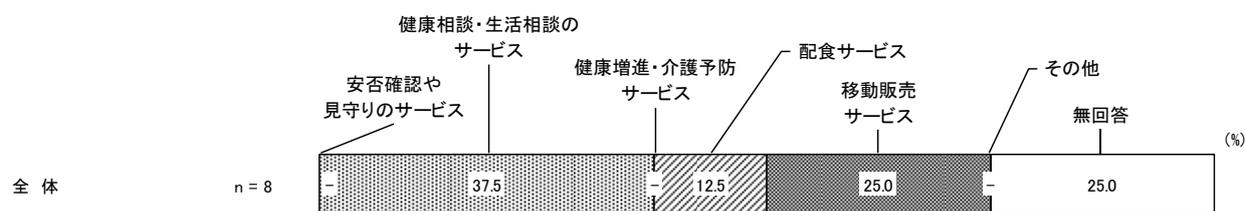
(3) 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望するサービス

【問 14-5 で「1. 村内復興拠点（深谷地区）の村営住宅に入居したい」「2. 大谷地住宅に入居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-8 新しく整備を計画している村営住宅について、どのようなサービスがあればよいと考えますか。
（〇は1つ）

村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望するサービスについては、「健康相談・生活相談のサービス」が37.5%と最も高く、次いで「移動販売サービス」が25.0%、「配食サービス」が12.5%となっている。

<図表3-3-8-3 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望するサービス>



3-3-9 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

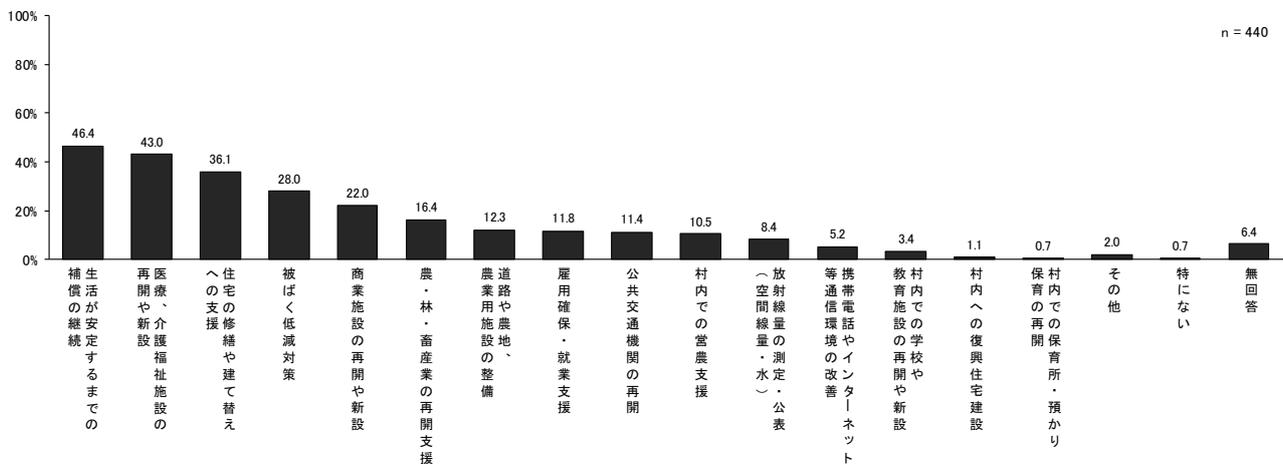
【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 14-1 飯舘村に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。

（特に重要と思うものに3つまで○）

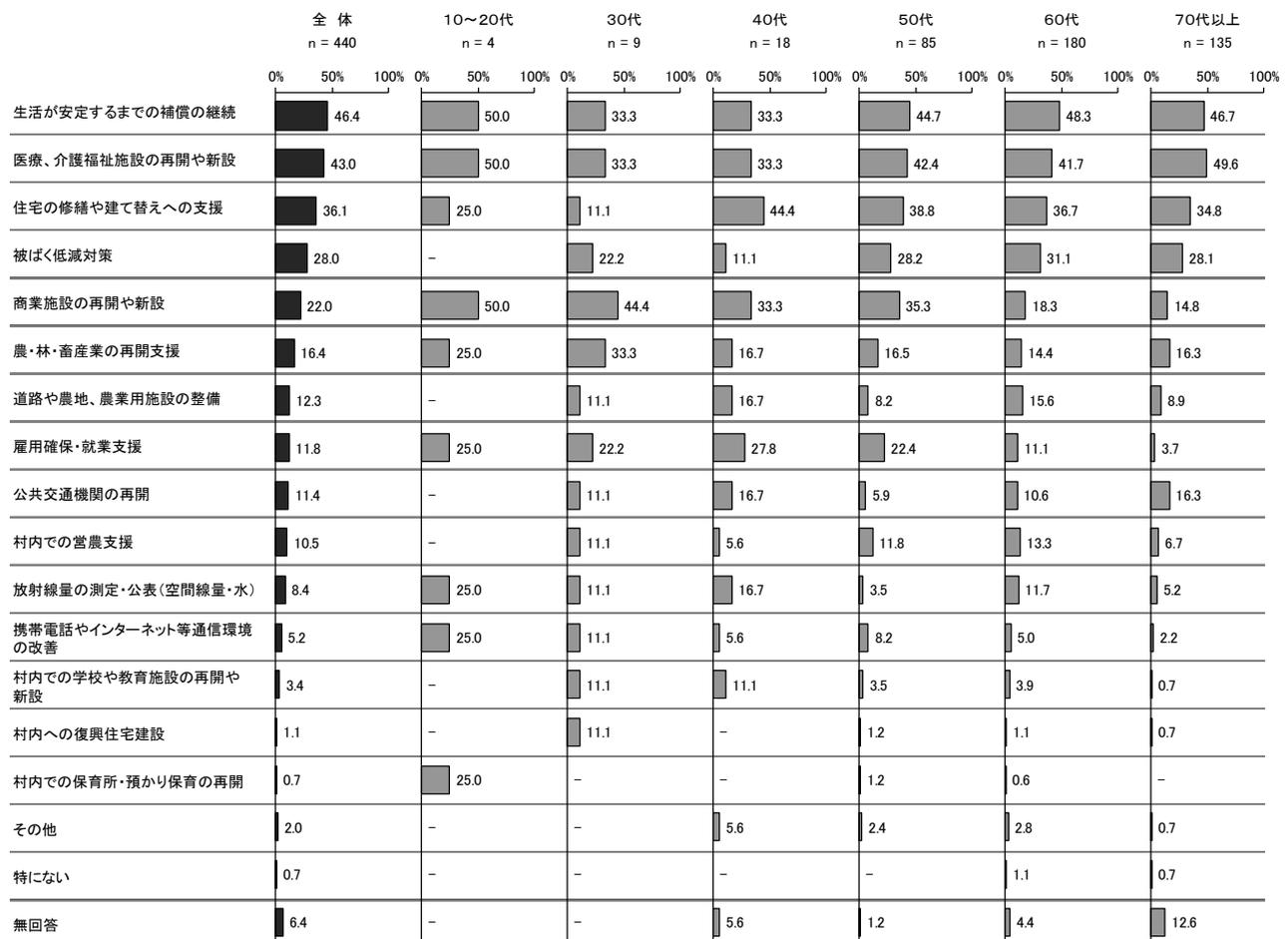
飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「生活が安定するまでの補償の継続」が46.4%と最も高く、次いで「医療、介護福祉施設の再開や新設」が43.0%、「住宅の修繕や建て替えへの支援」が36.1%となっている。

<図表3-3-9-1 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>



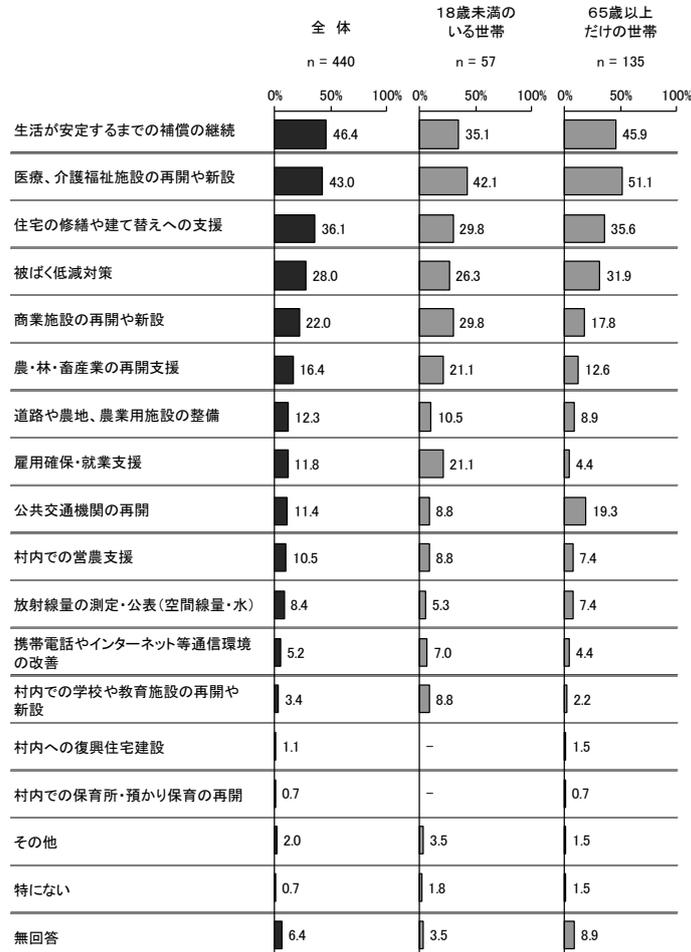
回答者の年齢別にみると、50代では「商業施設の再開や新設」(35.3%)、「雇用確保・就業支援」(22.4%)が、70代以上では「医療、介護福祉施設の再開や新設」(49.6%)が、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-9-2 飯館村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援(年齢別)>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「商業施設の再開や新設」(29.8%)、「農・林・畜産業の再開支援」(21.1%)、「雇用確保・就業支援」(21.1%)が、65歳以上だけの世帯では「生活が安定するまでの補償の継続」(45.9%)、「医療、介護福祉施設の再開や新設」(51.1%)、「公共交通機関の再開」(19.3%)が、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-9-3 飯館村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



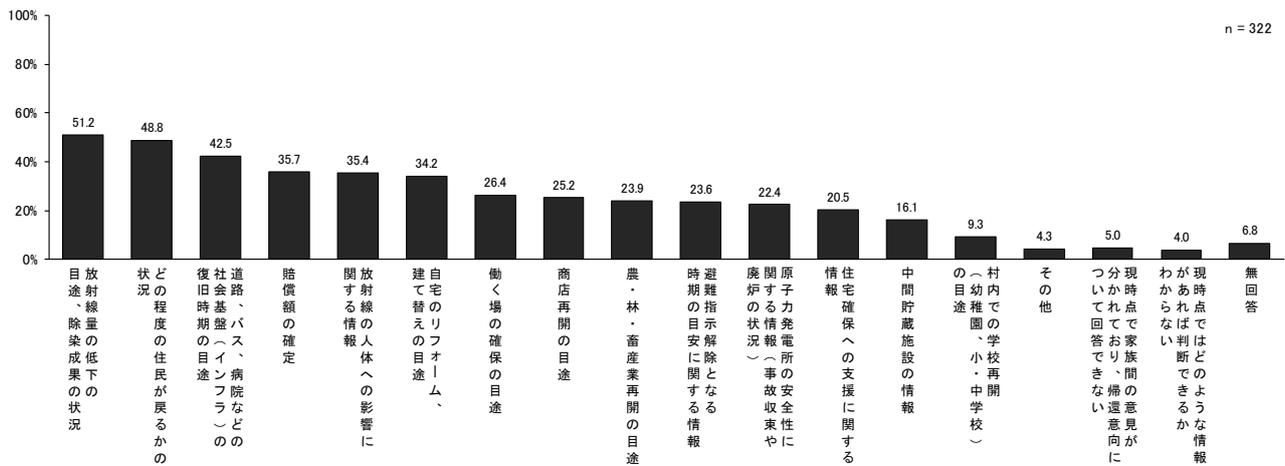
3-3-10 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問13で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問13-2 飯舘村へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が51.2%と最も高く、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」が48.8%、「道路、バス、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が42.5%となっている。

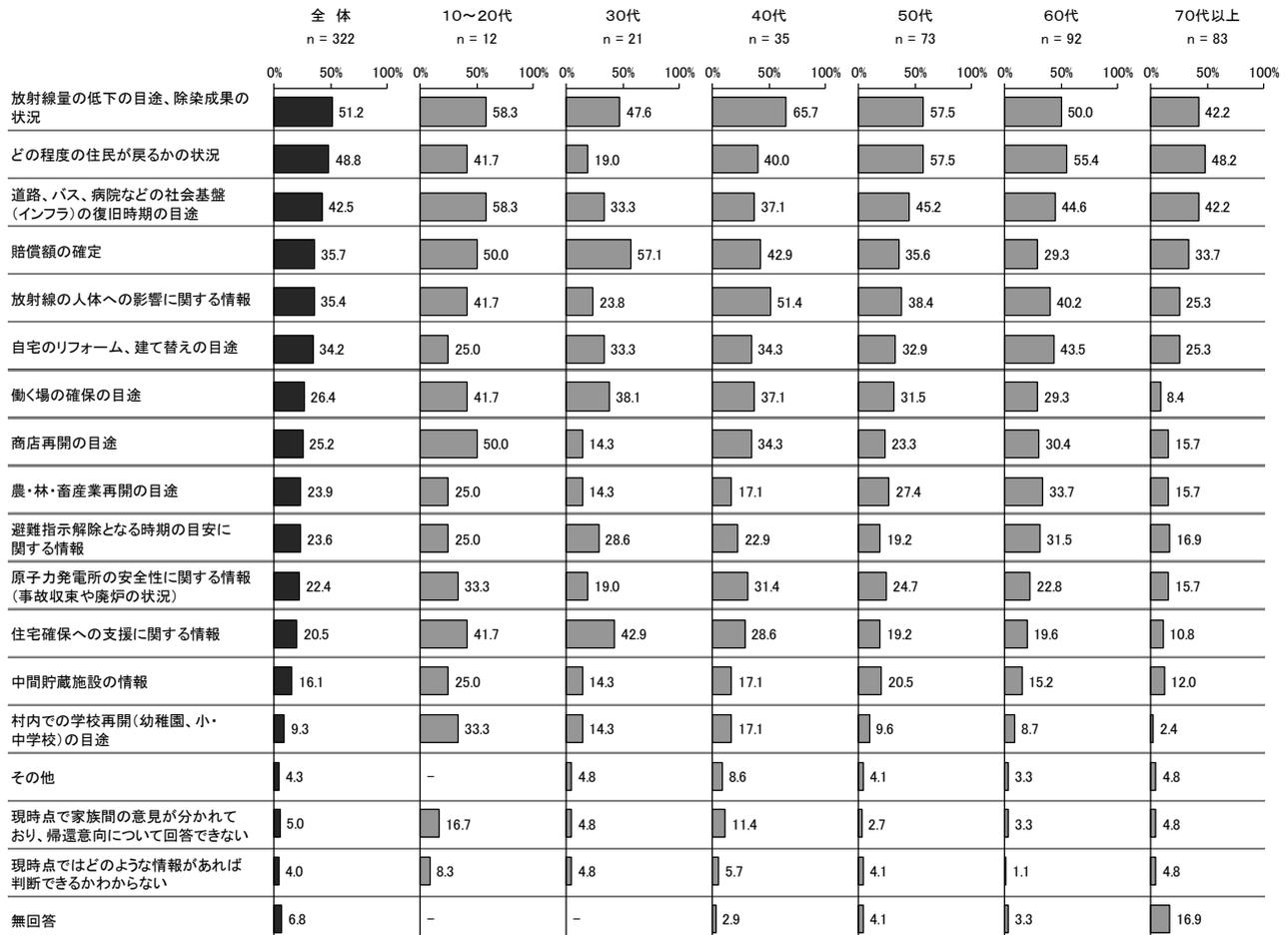
<図表3-3-10-1 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報>



III 調査結果

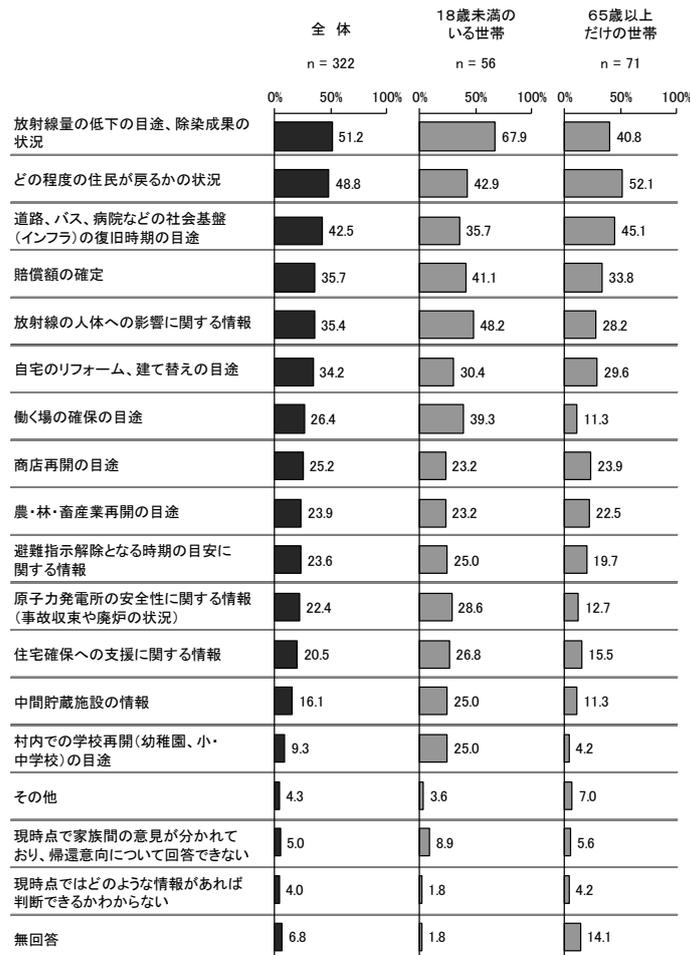
回答者の年齢別にみると、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」は40代（65.7%）、「どの程度の住民が戻るかの状況」は50代（57.5%）、60代（55.4%）で高くなっている。また、「自宅のリフォーム、建て替えの目途」は60代（43.5%）で高くなっている。

＜図表3-3-10-2 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」(67.9%)、「放射線の人体への影響に関する情報」(48.2%)、「働く場の確保の目途」(39.3%)、「原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)」(28.6%)、「住宅確保への支援に関する情報」(26.8%)、「中間貯蔵施設の情報」(25.0%)、「村内での学校再開(幼稚園、小・中学校)の目途」(25.0%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「どの程度の住民が戻るかの状況」(52.1%)、「道路、バス、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(45.1%)が高くなっている。

＜図表3-3-10-3 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報(世帯構成別)＞



3-3-11 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援

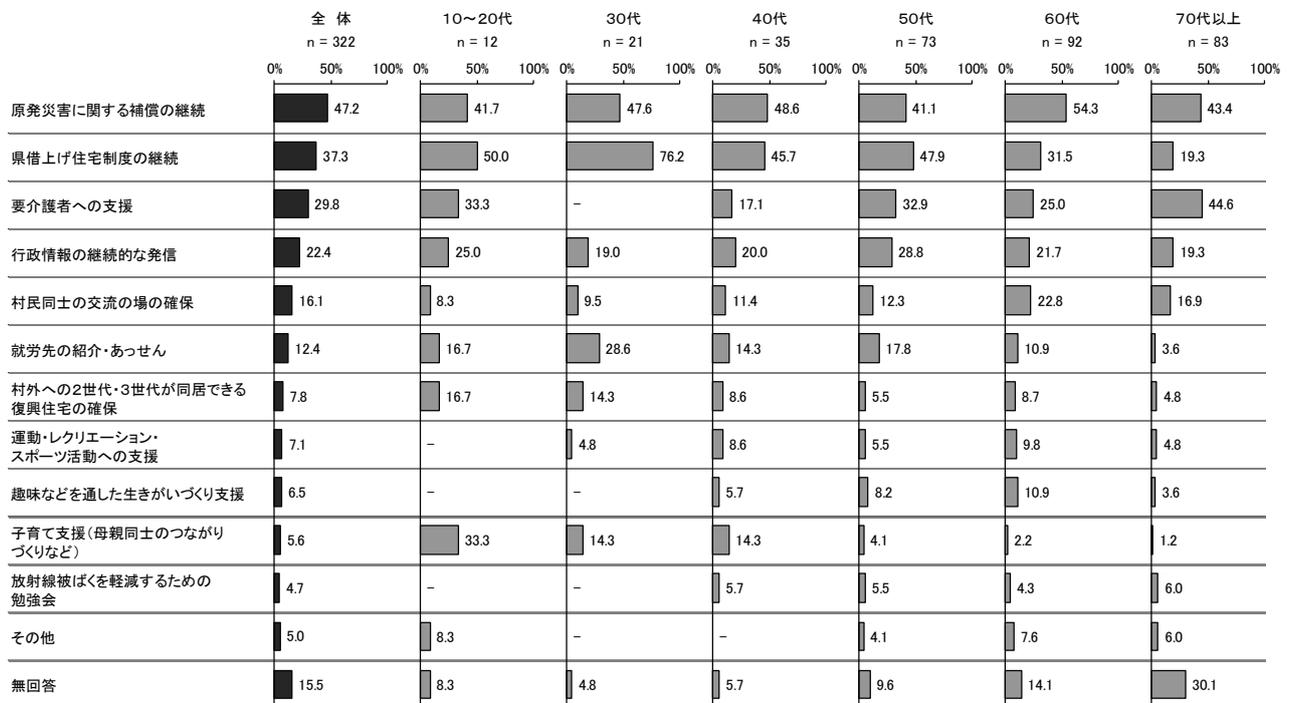
【問13で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問15 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

飯館村への帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援については、「原発災害に関する補償の継続」が47.2%と最も高く、次いで「県借上げ住宅制度の継続」が37.3%、「要介護者への支援」が29.8%となっている。

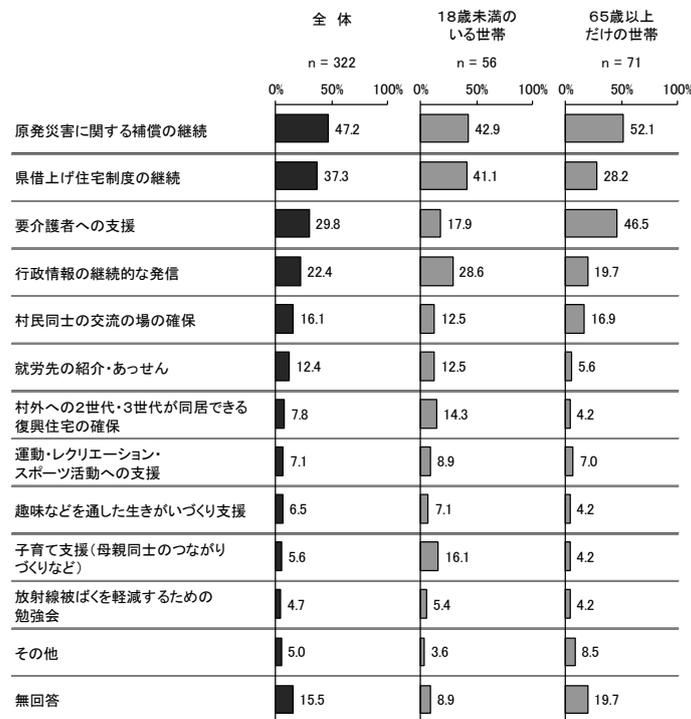
回答者の年齢別にみると、「原発災害に関する補償の継続」は60代(54.3%)、「要介護者への支援」は70代以上(44.6%)、「行政情報の継続的な発信」は50代(28.8%)、「村民同士の交流の場の確保」は60代(22.8%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

＜図表3-3-11-1 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「県借上げ住宅制度の継続」(41.1%)、「行政情報の継続的な発信」(28.6%)、「村外への2世代・3世代が同居できる復興住宅の確保」(14.3%)、「子育て支援(母親同士のつながりづくりなど)」(16.1%)が、65歳以上だけの世帯では「原発災害に関する補償の継続」(52.1%)、「要介護者への支援」(46.5%)、「村民同士の交流の場の確保」(16.9%)が、他の世帯構成と比べて高くなっている。

<図表3-3-11-2 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



3-3-12 現時点で戻らないと決めている理由

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

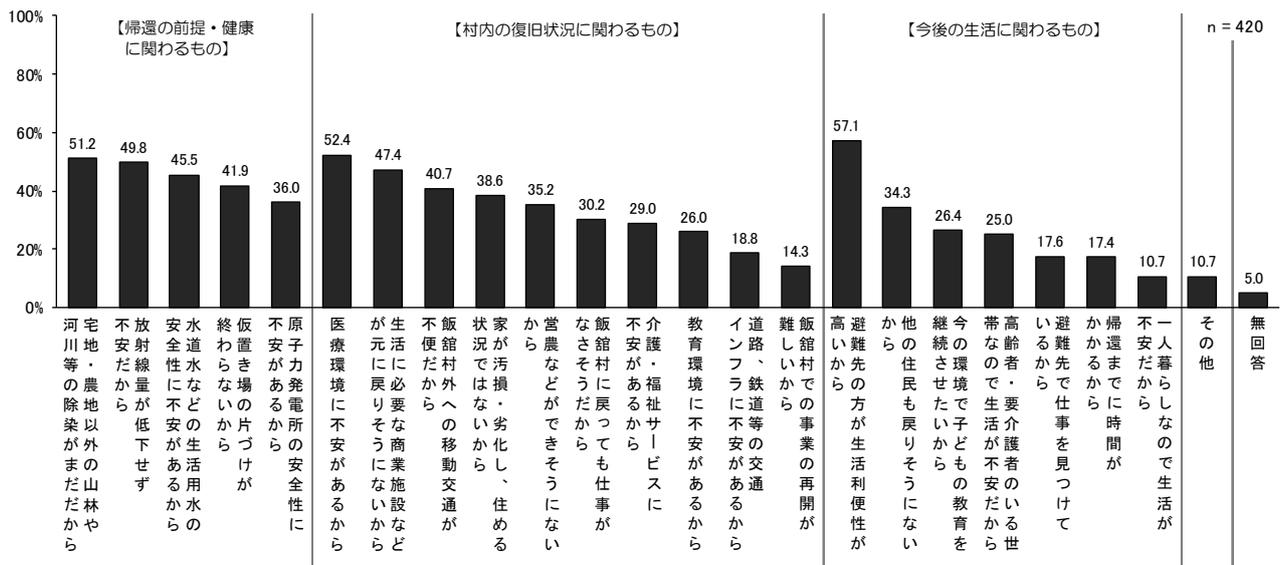
問 16-1 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから」が51.2%と最も高く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」が49.8%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が45.5%となっている。

【村内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が52.4%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が47.4%、「飯館村外への移動交通が不便だから」が40.7%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」が57.1%と最も高く、次いで「他の住民も戻りそうにないから」が34.3%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が26.4%となっている。

<図表3-3-12-1 現時点で戻らないと決めている理由>

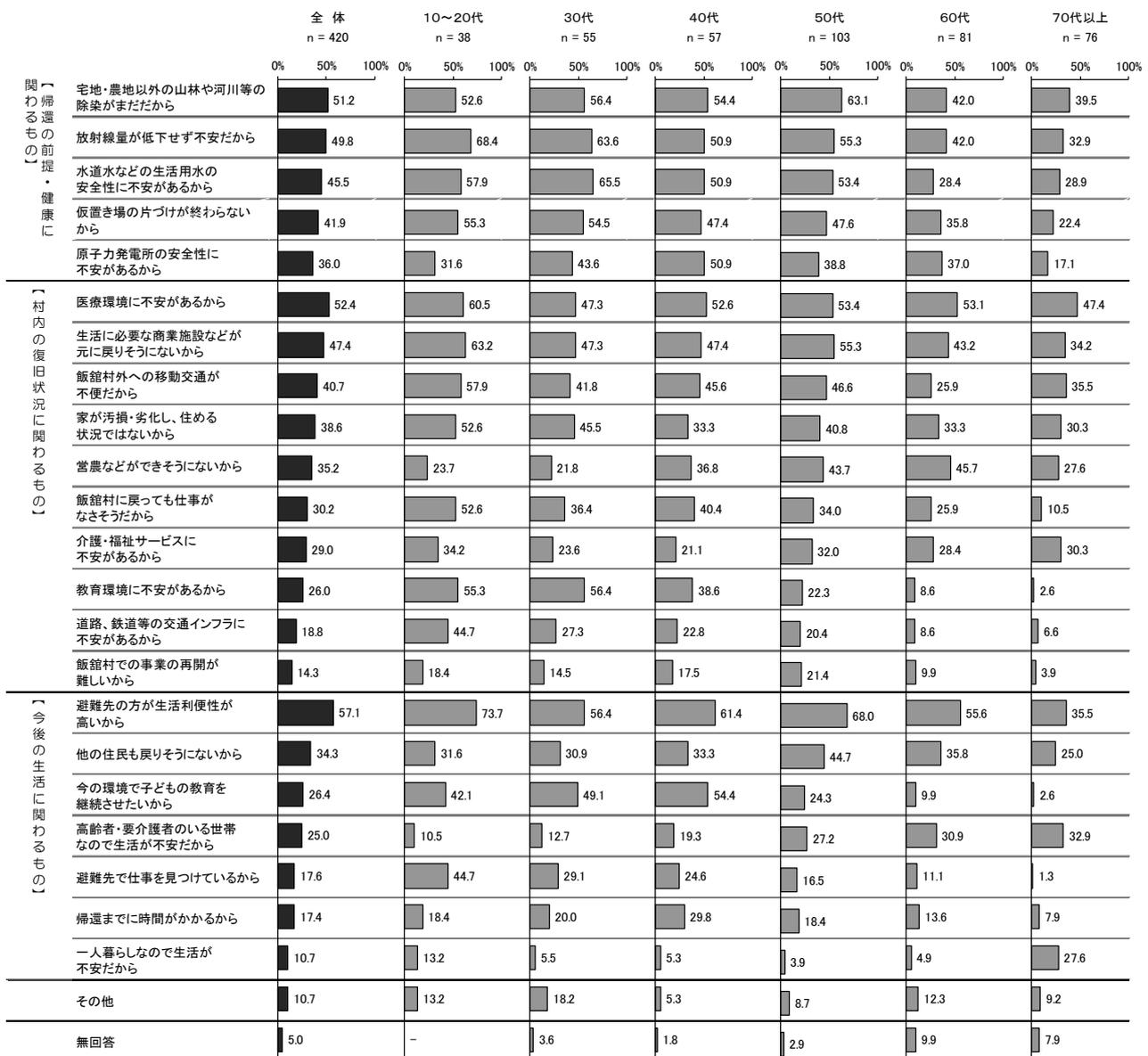


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから」は50代(63.1%)、「放射線量が低下せず不安だから」は10~20代(68.4%)、30代(63.6%)、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は30代(65.5%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

【村内の復旧状況に関わるもの】では、10~20代で「医療環境に不安があるから」(60.5%)、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(63.2%)、「飯館村外への移動交通が不便だから」(57.9%)、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」(52.6%)、「飯館村に戻っても仕事がなさそうだから」(52.6%)が、他の年齢と比べて高くなっている。また、「営農などができそうにないから」は50代(43.7%)、60代(45.7%)、「教育環境に不安があるから」は10~20代(55.3%)、30代(56.4%)で高い。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」は10~20代(73.7%)で7割以上を占めている。また、「他の住民も戻りそうにないから」は50代(44.7%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代(49.1%)、40代(54.4%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-12-2 現時点で戻らないと決めている理由(年齢別)>



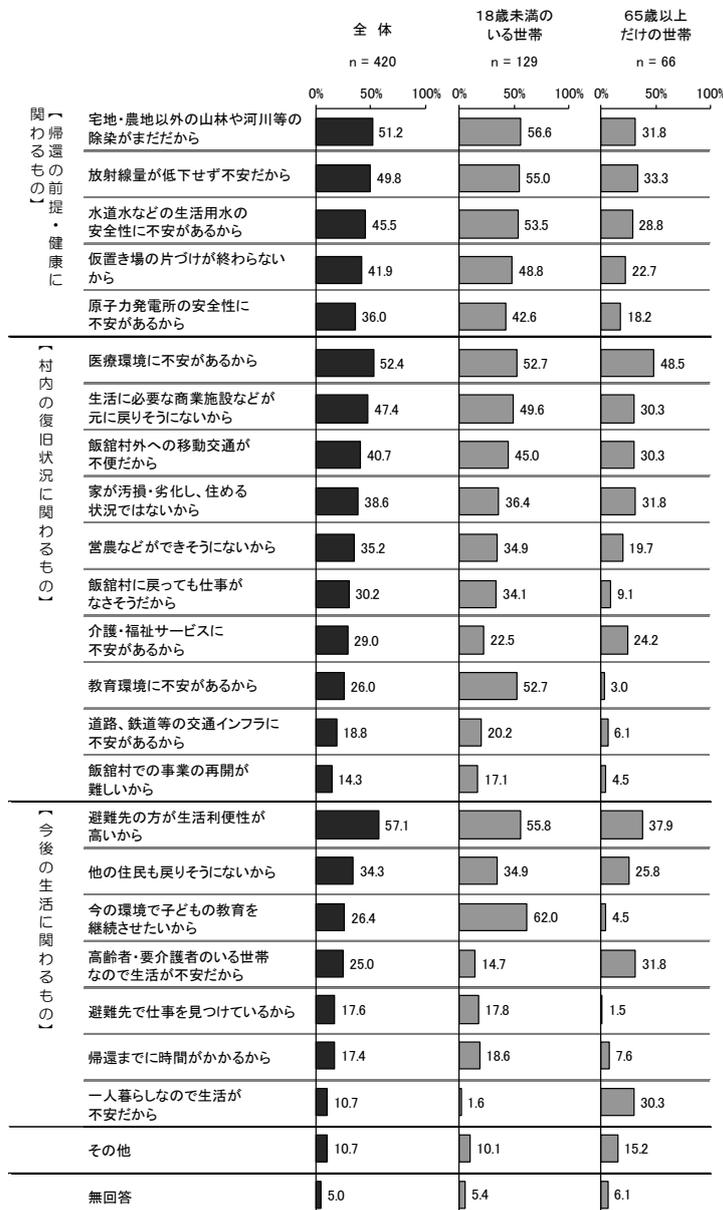
III 調査結果

世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから」(56.6%)、「放射線量が低下せず不安だから」(55.0%)、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」(53.5%)、「仮置き場の片づけが終わらないから」(48.8%)、「原子力発電所の安全性に不安があるから」(42.6%)のいずれも、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

【村内の復旧状況に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(49.6%)、「飯館村外への移動交通が不便だから」(45.0%)、「営農などができそうにないから」(34.9%)、「飯館村に戻っても仕事がなさそうだから」(34.1%)、「教育環境に不安があるから」(52.7%)、「道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから」(20.2%)、「飯館村での事業の再開が難しいから」(17.1%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「避難先の方が生活利便性が高いから」(55.8%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(62.0%)、「避難先で仕事を見つけているから」(17.8%)、「帰郷までに時間がかかるから」(18.6%)が、65歳以上だけの世帯では「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」(31.8%)、「一人暮らしなので生活が不安だから」(30.3%)が、他の世帯構成と比べて高くなっている。

<図表3-3-12-3 現時点で戻らないと決めている理由(世帯構成別)>



3-3-13 帰還しない場合に居住したい自治体

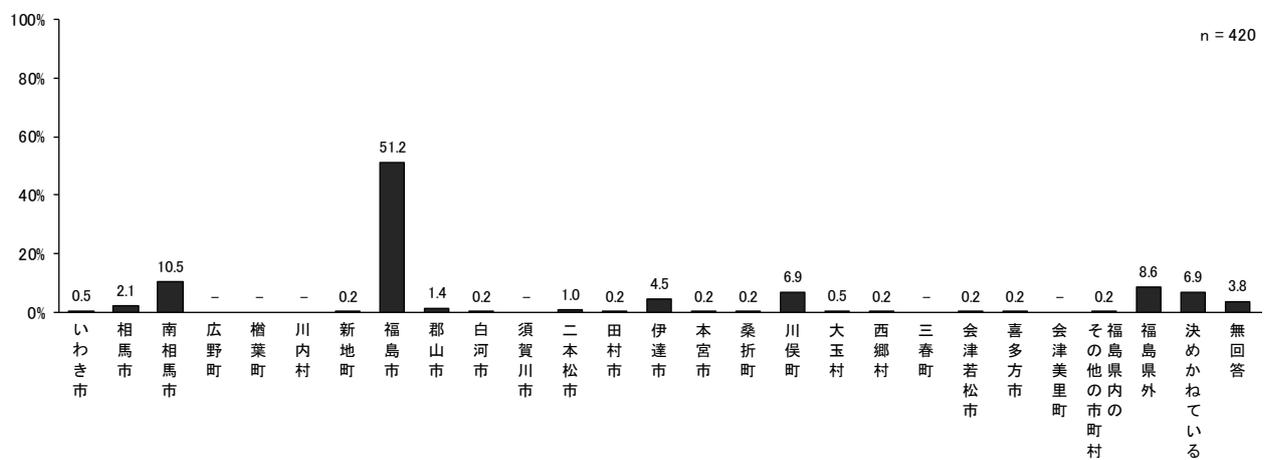
【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 16-2 帰還しない場合に、今後、居住を希望する（既に居住している場合を含む）市区町村はどちらですか。その自治体を教えてください。（〇は1つ）

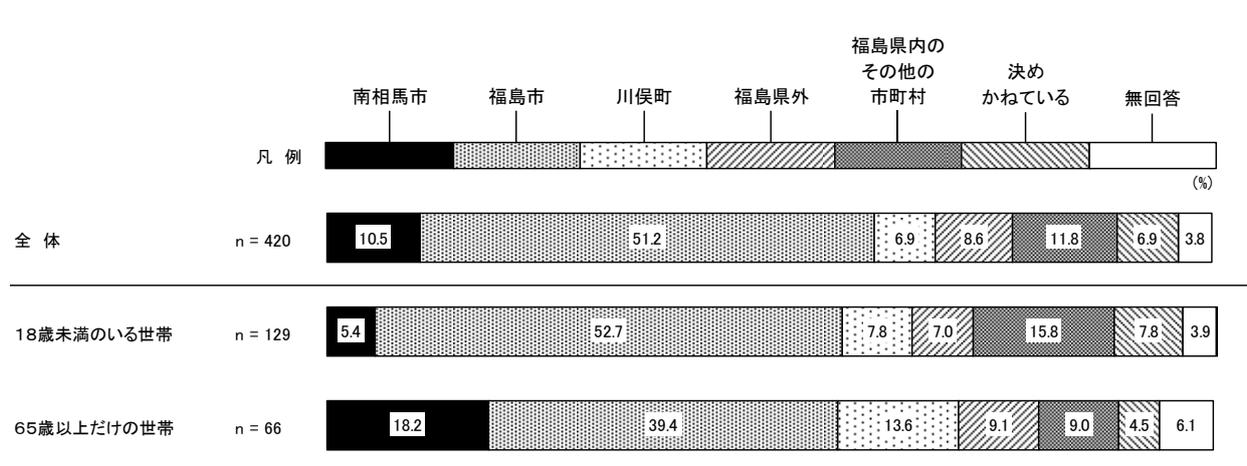
帰還しない場合に居住したい自治体については、「福島市」が 51.2%と最も高く、次いで「南相馬市」が 10.5%、「福島県外」が 8.6%となっている。

世帯構成別にみると、いずれの世帯でも「福島市」の割合が最も高くなっている。一方、「南相馬市」は 65 歳以上だけの世帯では 18.2%となっており、18 歳未満のいる世帯の 5.4%と比べて高くなっている。

<図表3-3-13-1 帰還しない場合に居住したい自治体>



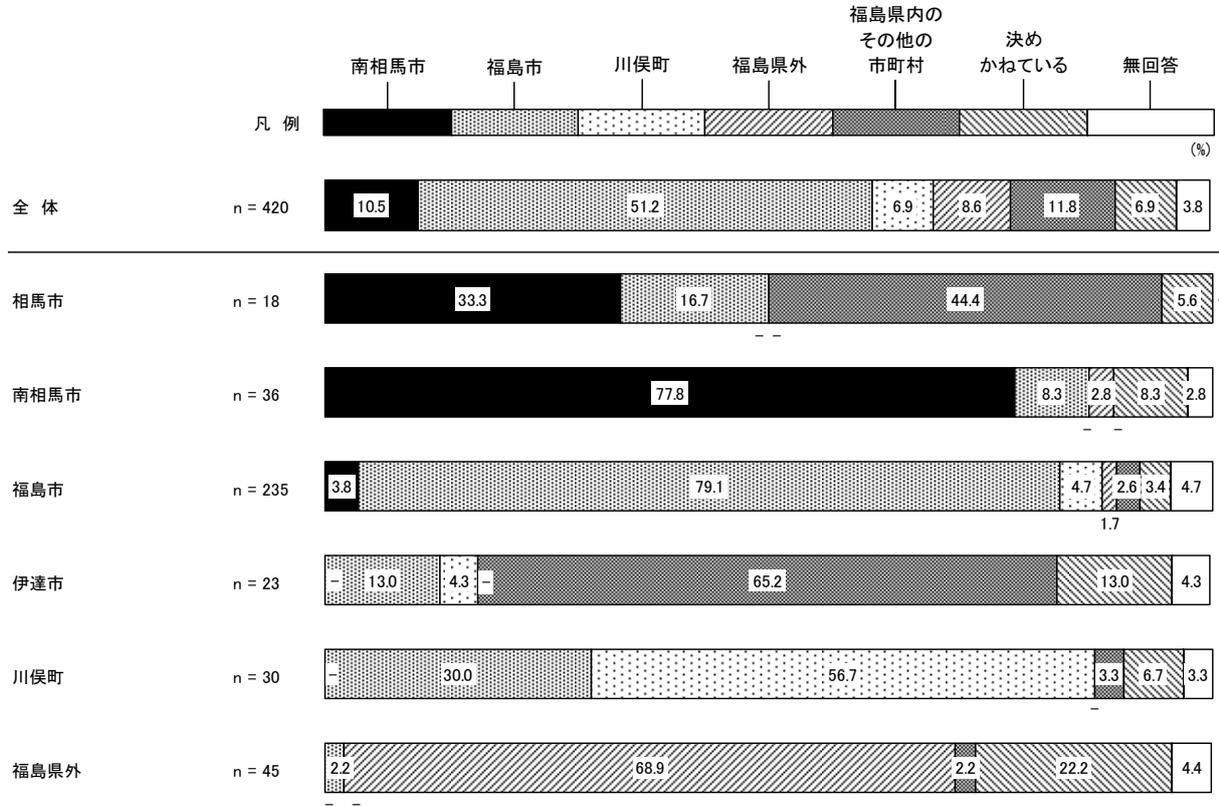
<図表3-3-13-2 帰還しない場合に居住したい主な自治体（世帯構成別）>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体での居住を希望する割合が高くなっている。

<図表3-3-13-3 帰還しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3-14 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

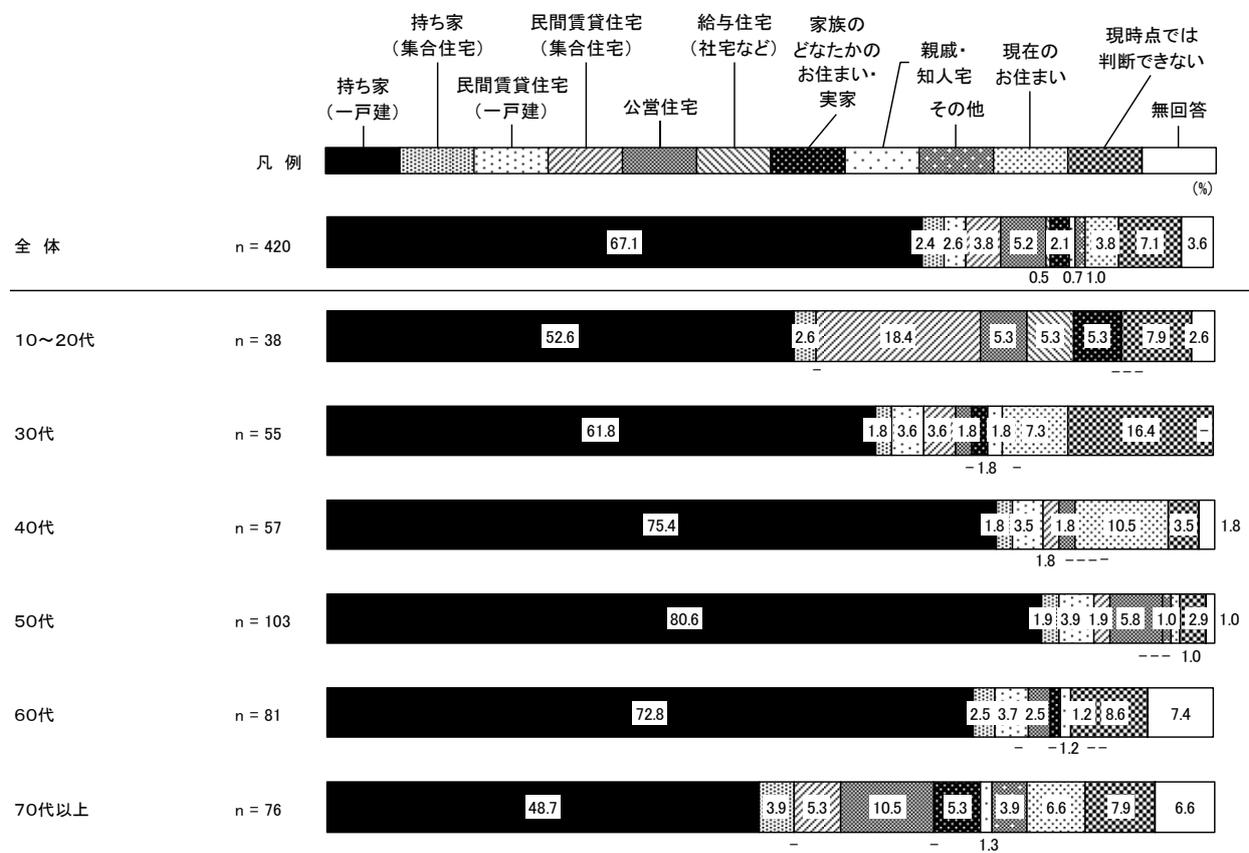
【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 16-3 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

帰還せず別の自治体に転居する場合に希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が67.1%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が7.1%、「公営住宅」が5.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「持ち家（一戸建）」の割合が最も高くなっている。また、「民間賃貸住宅（集合住宅）」は10~20代（18.4%）、「公営住宅」は70代以上（10.5%）、「現在のお住まい」は40代（10.5%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

＜図表3-3-14-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）＞



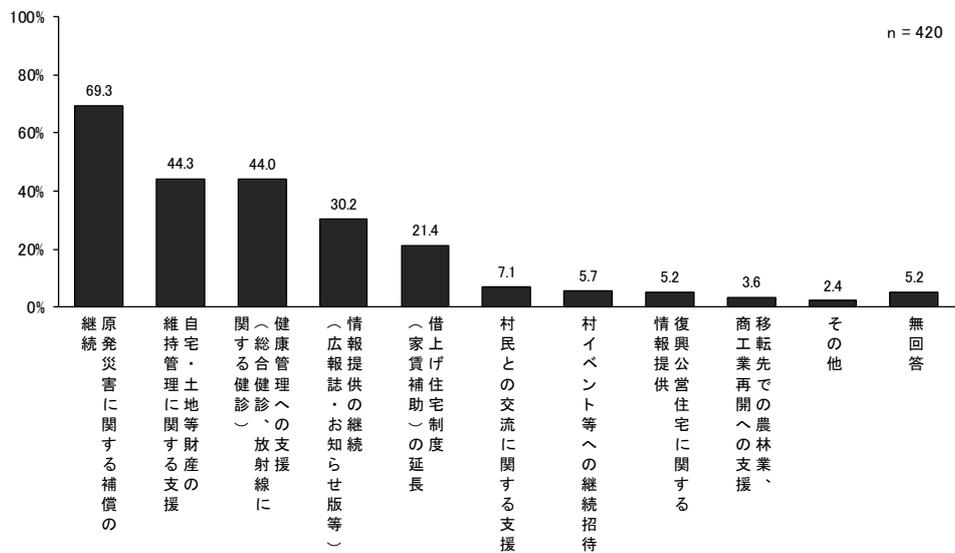
3-3-15 飯館村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援

【問13で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問16-4 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

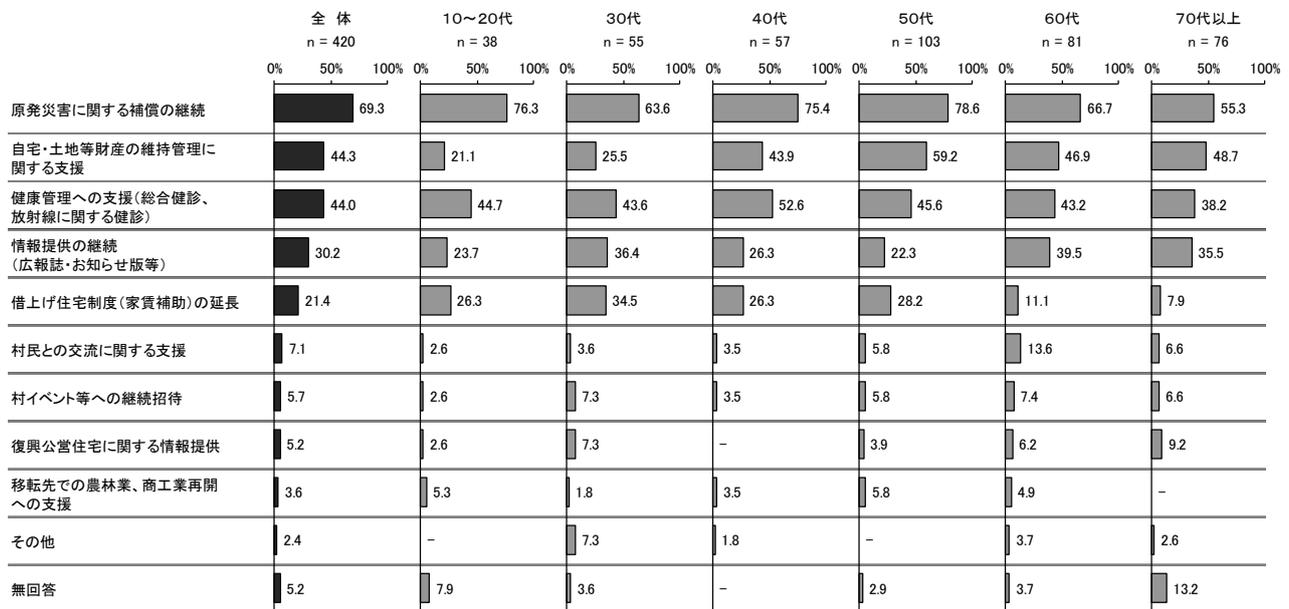
飯館村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援については、「原発災害に関する補償の継続」が69.3%と最も高く、次いで「自宅・土地等財産の維持管理に関する支援」が44.3%、「健康管理への支援（総合健診、放射線に関する健診）」が44.0%となっている。

<図表3-3-15-1 飯館村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援>



回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「原発災害に関する補償の継続」の割合が最も高くなっている。また、「自宅・土地等財産の維持管理に関する支援」は50代（59.2%）、「健康管理への支援（総合健診、放射線に関する健診）」は40代（52.6%）、「借上げ住宅制度（家賃補助）の延長」は30代（34.5%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

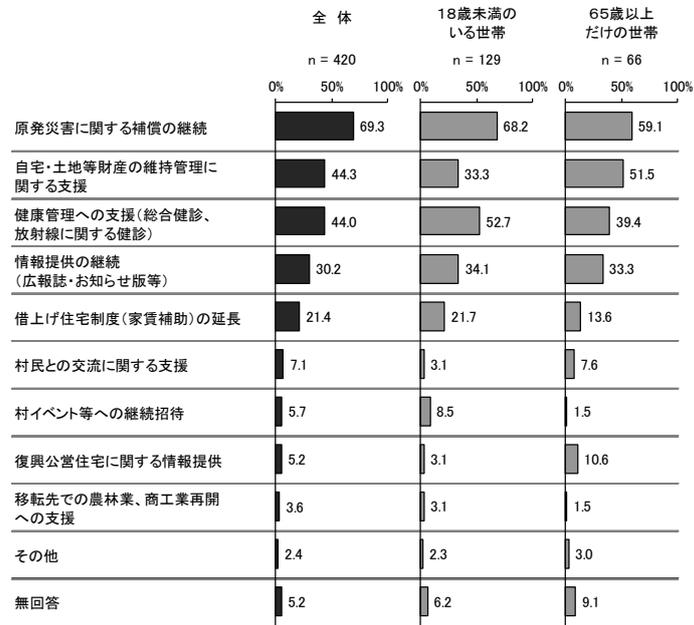
<図表3-3-15-2 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「原発災害に関する補償の継続」(68.2%)、「健康管理への支援(総合健診、放射線に関する健診)」(52.7%)が、65歳以上だけの世帯では「自宅・土地等財産の維持管理に関する支援」(51.5%)が、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-15-3 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



3-2-16 飯館村との“つながり”を保ちたいか

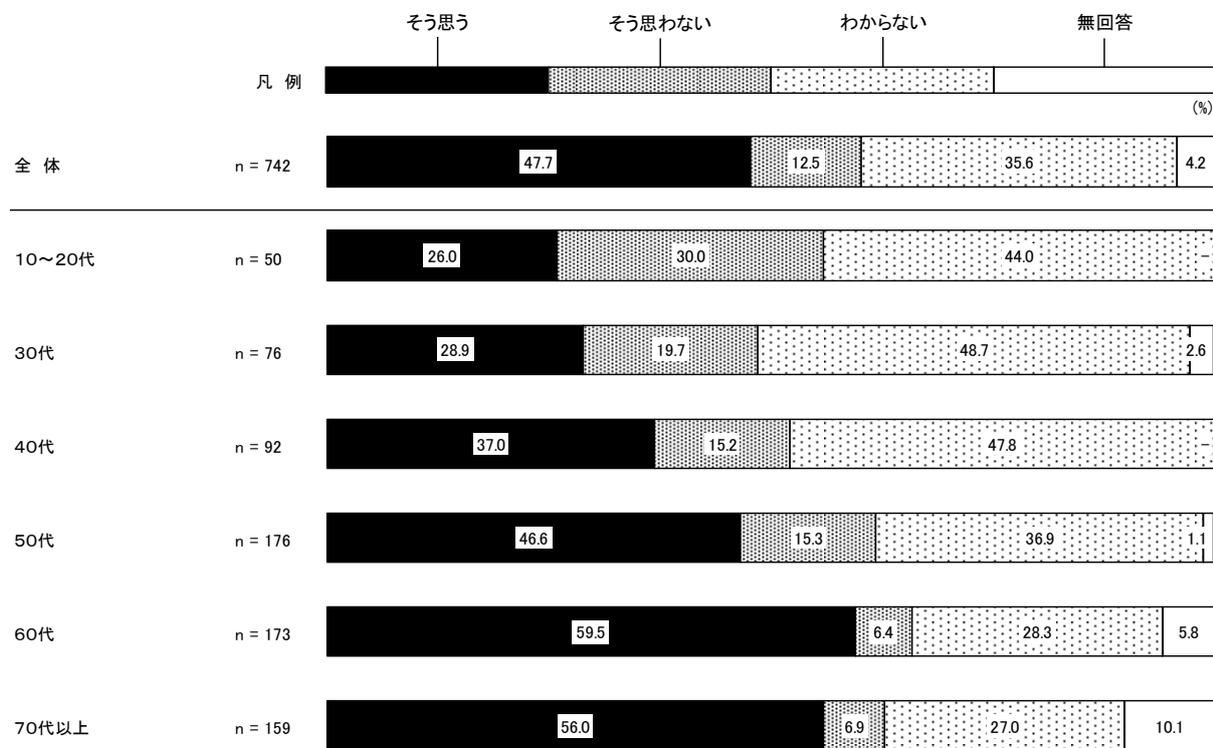
【問 13 で「2」、「3」と回答した方うかがいます。】

問 13-3 今後も行政参加や住民同士のコミュニティ等、飯館村との“つながり”を保ちたいと思いますか。
(〇は1つ)

飯館村との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が47.7%と最も高く、次いで「わからない」が35.6%、「そう思わない」が12.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、60代以上では「そう思う」が過半数を占めている。

<図表3-3-16-1 飯館村との“つながり”を保ちたいか(年齢別)>

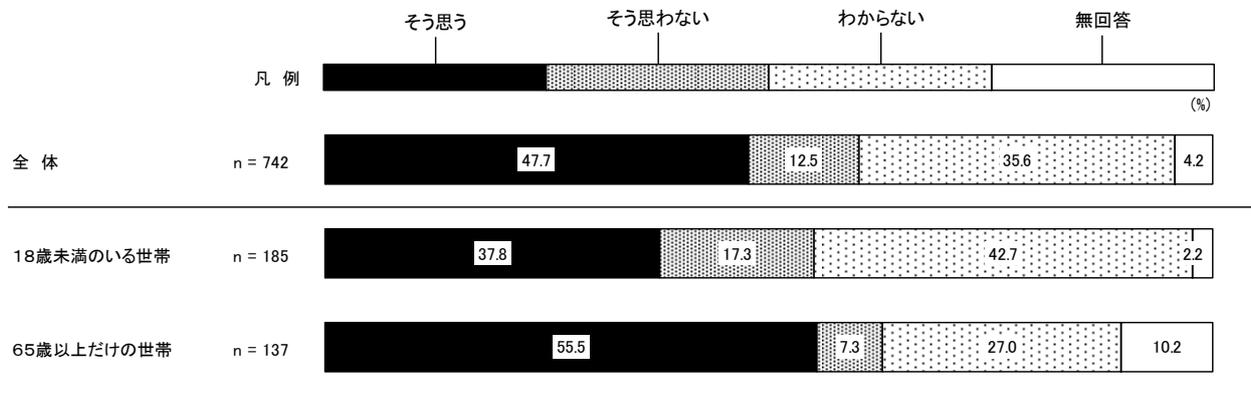


Ⅲ 調査結果

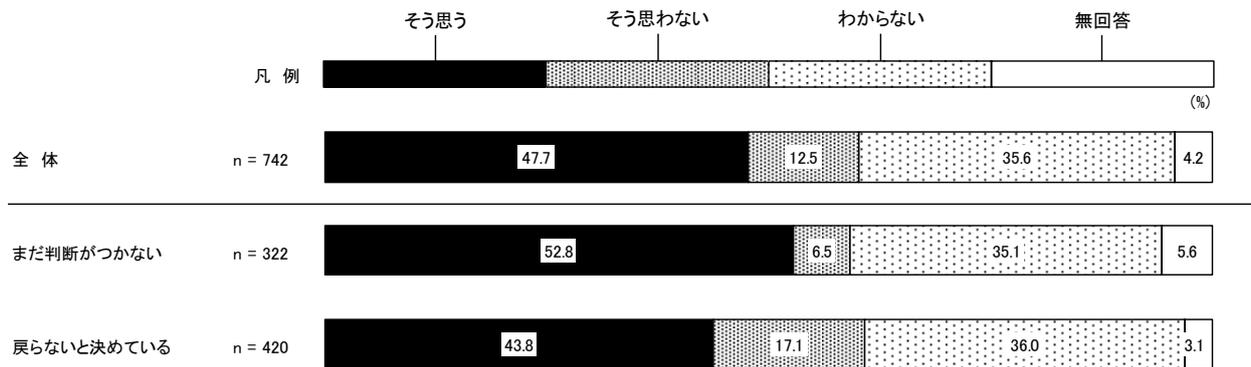
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「わからない」(42.7%)が最も高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「そう思う」(55.5%)が最も高くなっている。

帰還意向別にみると、いずれの帰還意向でも「そう思う」の割合が最も高くなっている。

<図表3-3-16-2 飯館村との“つながり”を保ちたいか(世帯構成別)>



<図表3-3-16-3 飯館村との“つながり”を保ちたいか(帰還意向別)>



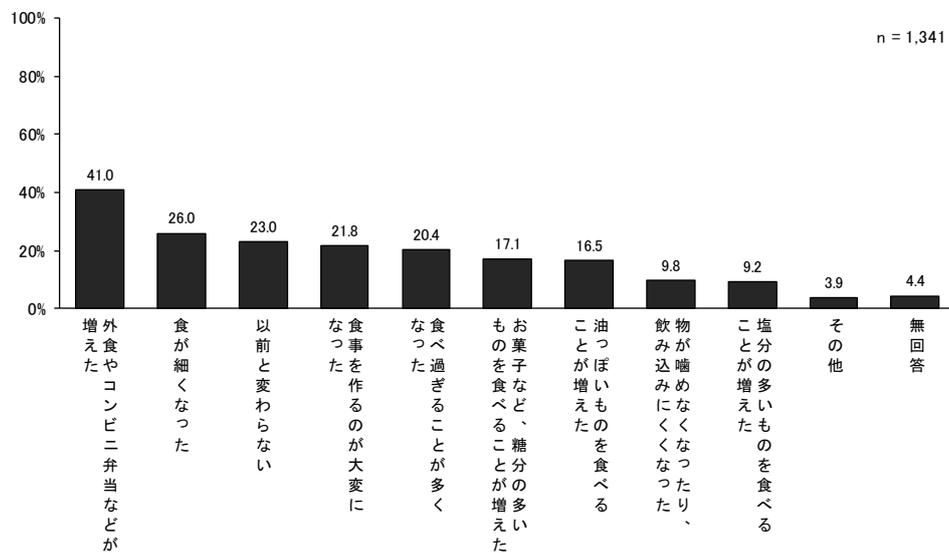
3-4 現在の生活について

3-4-1 避難後の家族の食生活・栄養状態

問 17 避難後のご家族（ご自身を含む）の食生活・栄養状態などについて、近頃変化はありましたか。
（〇はいくつでも）

避難後の家族の食生活・栄養状態については、「外食やコンビニ弁当などが増えた」が41.0%と最も高く、次いで「食が細くなった」が26.0%、「以前と変わらない」が23.0%となっている。

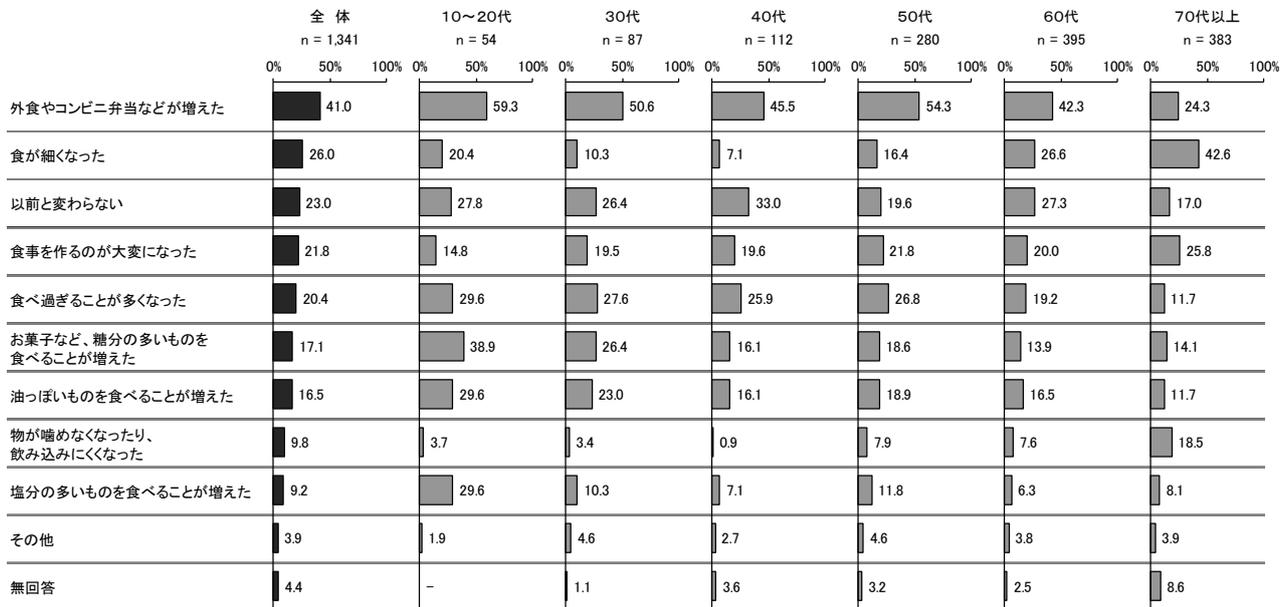
<図表3-4-1-1 避難後の家族の食生活・栄養状態>



III 調査結果

回答者の年齢別にみると、「外食やコンビニ弁当などが増えた」は70代以上を除き、いずれの年齢でも割合が最も高くなっている。一方、70代以上では「食が細くなった」(42.6%)、「食事を作るのが大変になった」(25.8%)が、他の年齢と比べて高くなっている。また、10~20代では「お菓子など、糖分の多いものを食べるが増えた」(38.9%)が、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-1-2 避難後の家族の食生活・栄養状態(年齢別)>

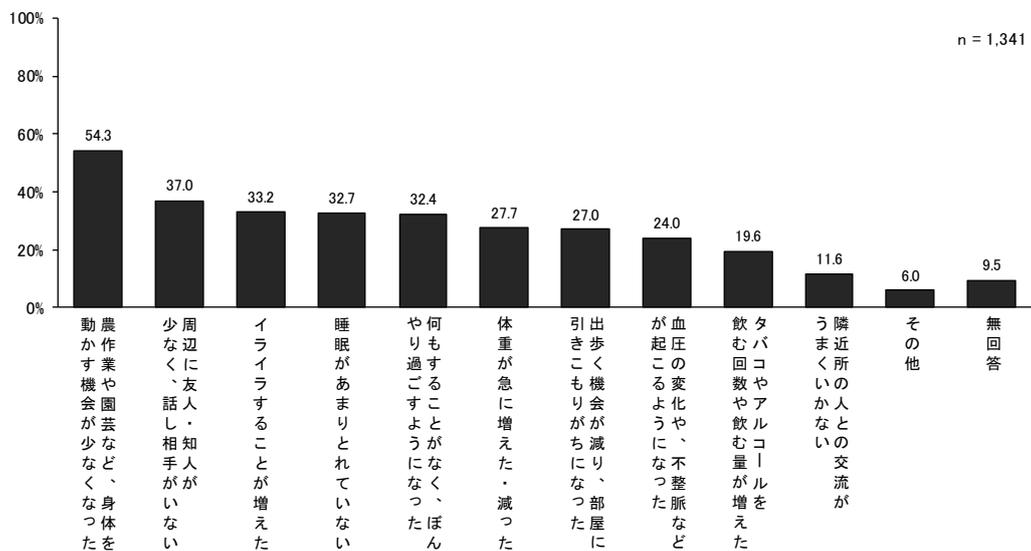


3-4-2 家族の生活や体調などの変化

問 18 避難生活が続く中で、ご家族（ご自身を含む）の生活や体調などに近頃変化はありますか。
 (〇はいくつでも)

家族の生活や体調などの変化については、「農作業や園芸など、身体を動かす機会が少なくなった」が54.3%と最も高く、次いで「周辺に友人・知人が少なく、話し相手がない」が37.0%、「イライラすることが増えた」が33.2%となっている。

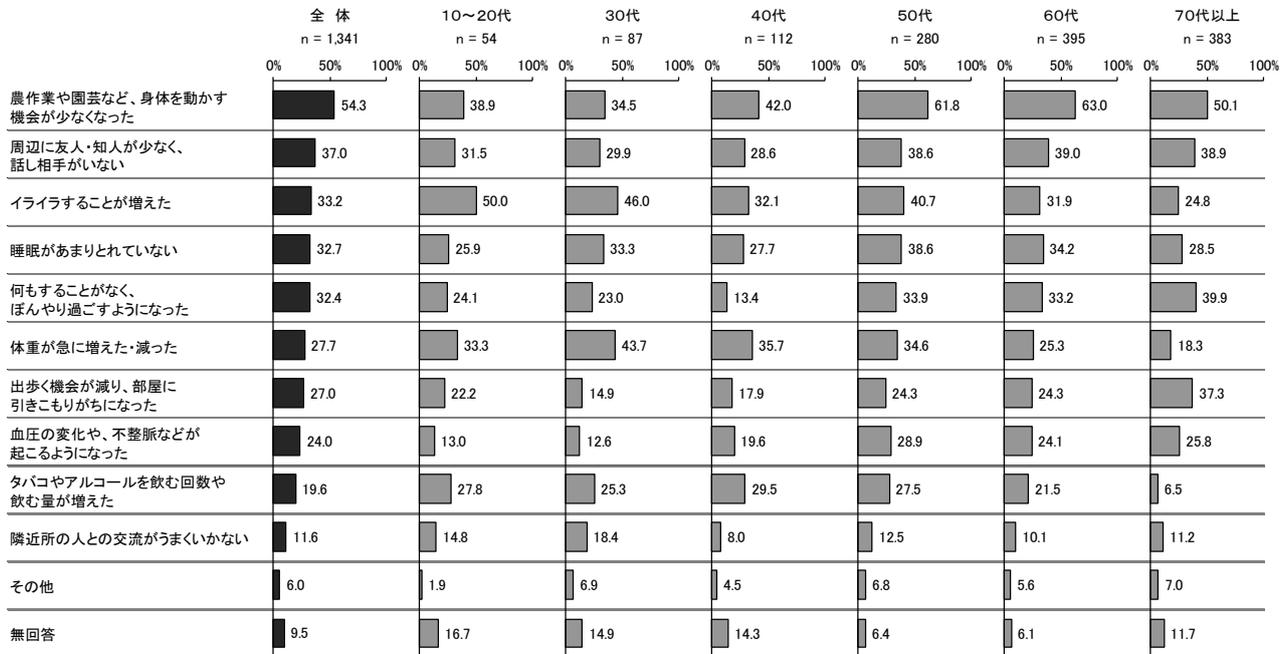
<図表3-4-2-1 家族の生活や体調などの変化>



III 調査結果

回答者の年齢別にみると、50代、60代では「農作業や園芸など、身体を動かす機会が少なくなった」が6割以上となっている。また、70代以上では「何もすることがなく、ぼんやり過ごすようになった」が39.9%で、他の年齢と比べて高くなっている。一方、10～20代では「イライラすることが増えた」が50.0%と過半数を占めている。

＜図表3-4-2-2 家族の生活や体調などの変化（年齢別）＞



3-4-3 自身及び家族の健康状態

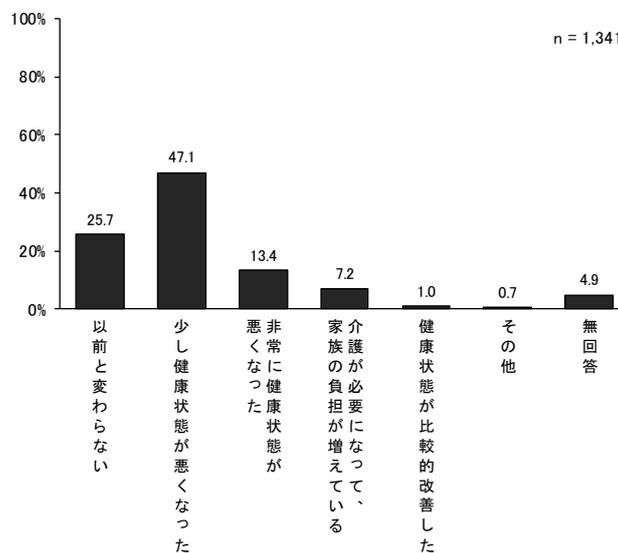
(1) 自身の健康状態

問 19 ご自身及びご家族の健康状態（病気など）はいかがですか。（〇はいくつでも）
【ご自身の健康に関わるもの】

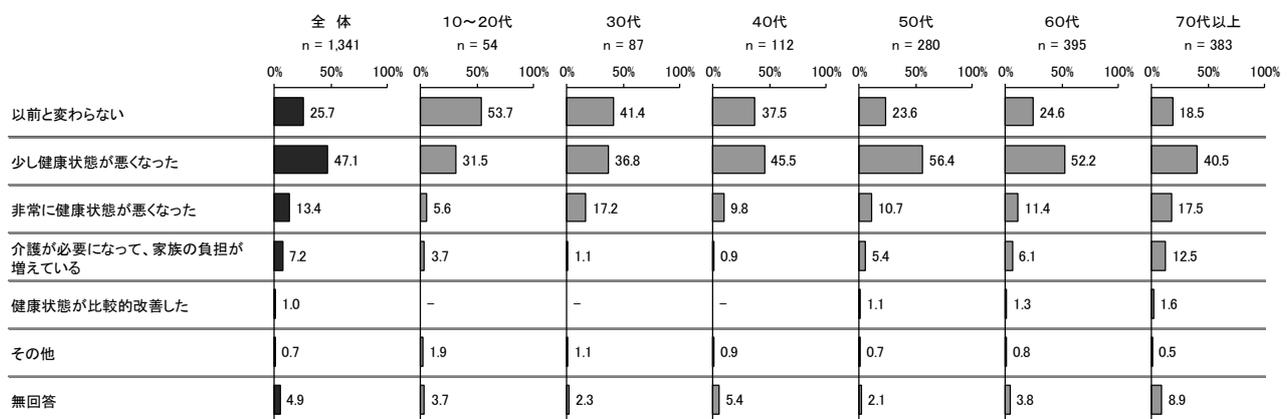
自身の健康状態については、「少し健康状態が悪くなった」が 47.1%と最も高く、次いで「以前と変わらない」が 25.7%、「非常に健康状態が悪くなった」が 13.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「少し健康状態が悪くなった」は 50代（56.4%）、60代（52.2%）で、他の年齢と比べて高くなっている。一方、「以前と変わらない」は、10~20代では 53.7%、30代では 41.4%、40代では 37.5%となっているが、50代以上では 2割前後となっている。

<図表3-4-3-1 自身の健康状態>



<図表3-4-3-2 自身の健康状態（年齢別）>



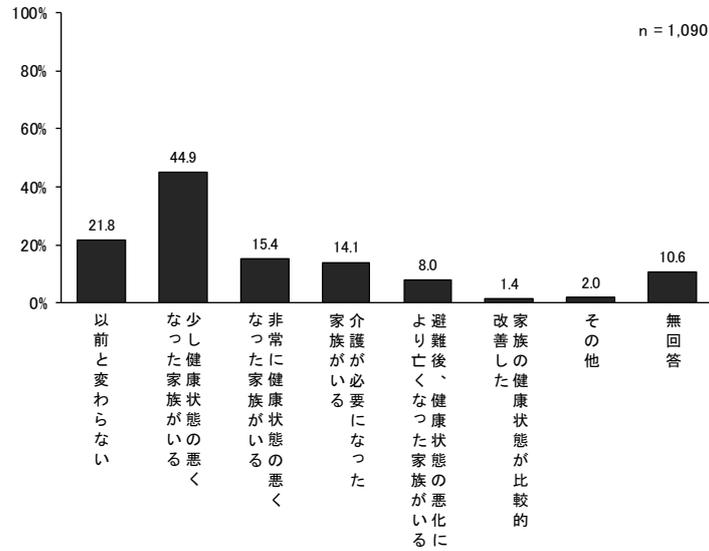
(2) 家族の健康状態

問 19 ご自身及びご家族の健康状態（病気など）はいかがですか。（〇はいくつでも）
【ご家族の健康に関わるもの】

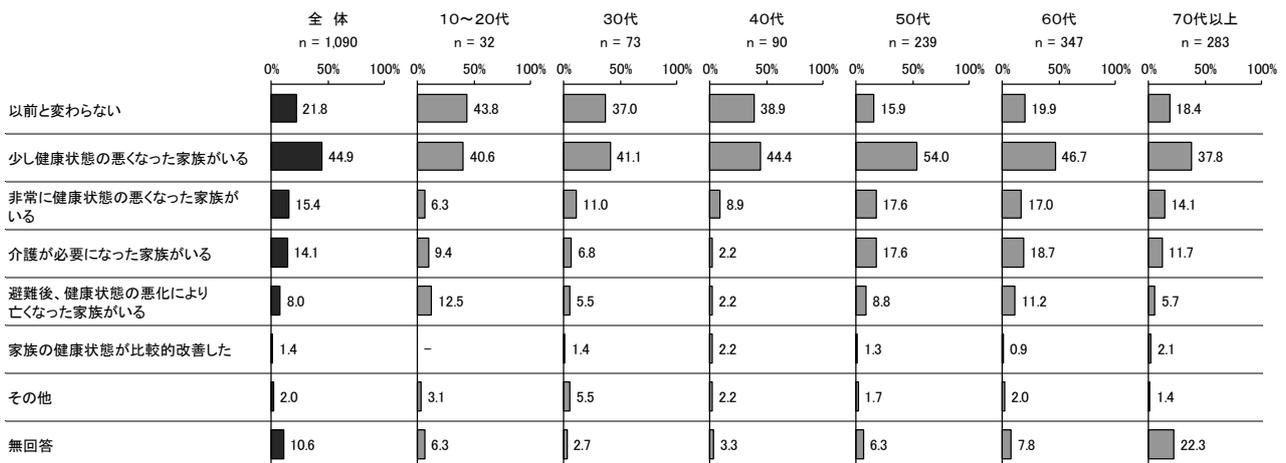
家族の健康状態については、「少し健康状態が悪くなった家族がいる」が 44.9%と最も高く、次いで「以前と変わらない」が 21.8%、「非常に健康状態が悪くなった家族がいる」が 15.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「少し健康状態が悪くなった家族がいる」は 10～20 代を除き、いずれの年齢でも割合が最も高くなっている。一方、10～20 代では「以前と変わらない」が最も高くなっている。

<図表3-4-3-3 家族の健康状態>



<図表3-4-3-4 家族の健康状態（年齢別）>



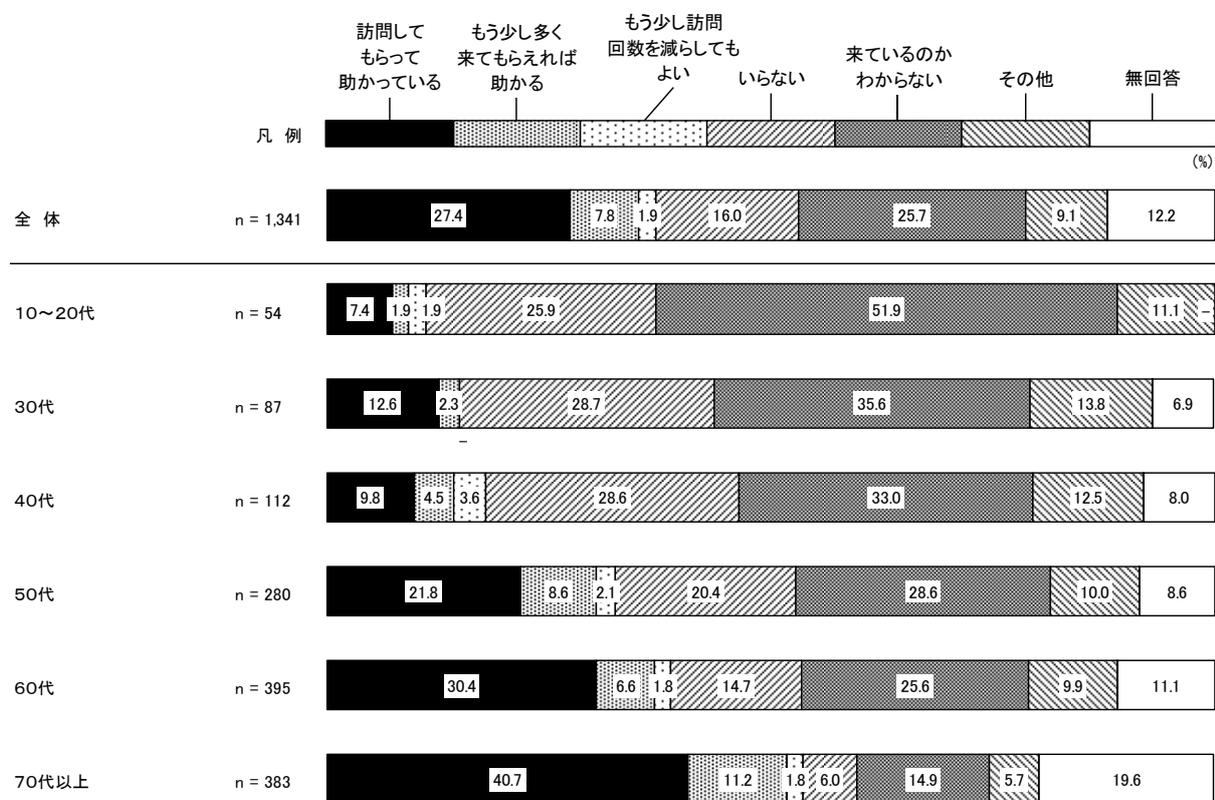
3-4-4 飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談

問 20 現在村では各家庭を訪問し健康相談や生活支援相談などを行っていますが、どのような感想をお持ちですか。(〇は1つ)

飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談については、「訪問してもらって助かっている」が27.4%と最も高く、次いで「来ているのかわからない」が25.7%、「いらぬ」が16.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「訪問してもらって助かっている」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、70代以上では40.7%となっている。一方、「来ているのかわからない」は、10~20代(51.9%)で過半数を占めている。

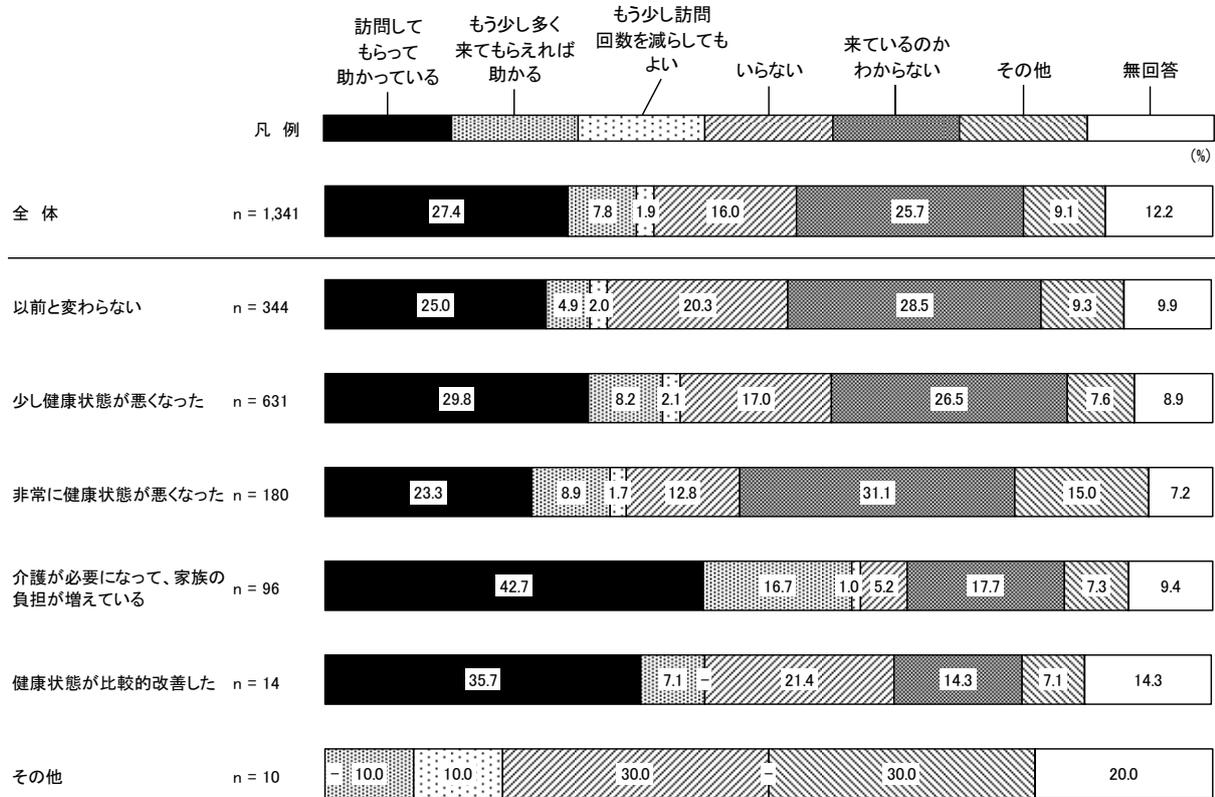
<図表3-4-4-1 飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談(年齢別)>



III 調査結果

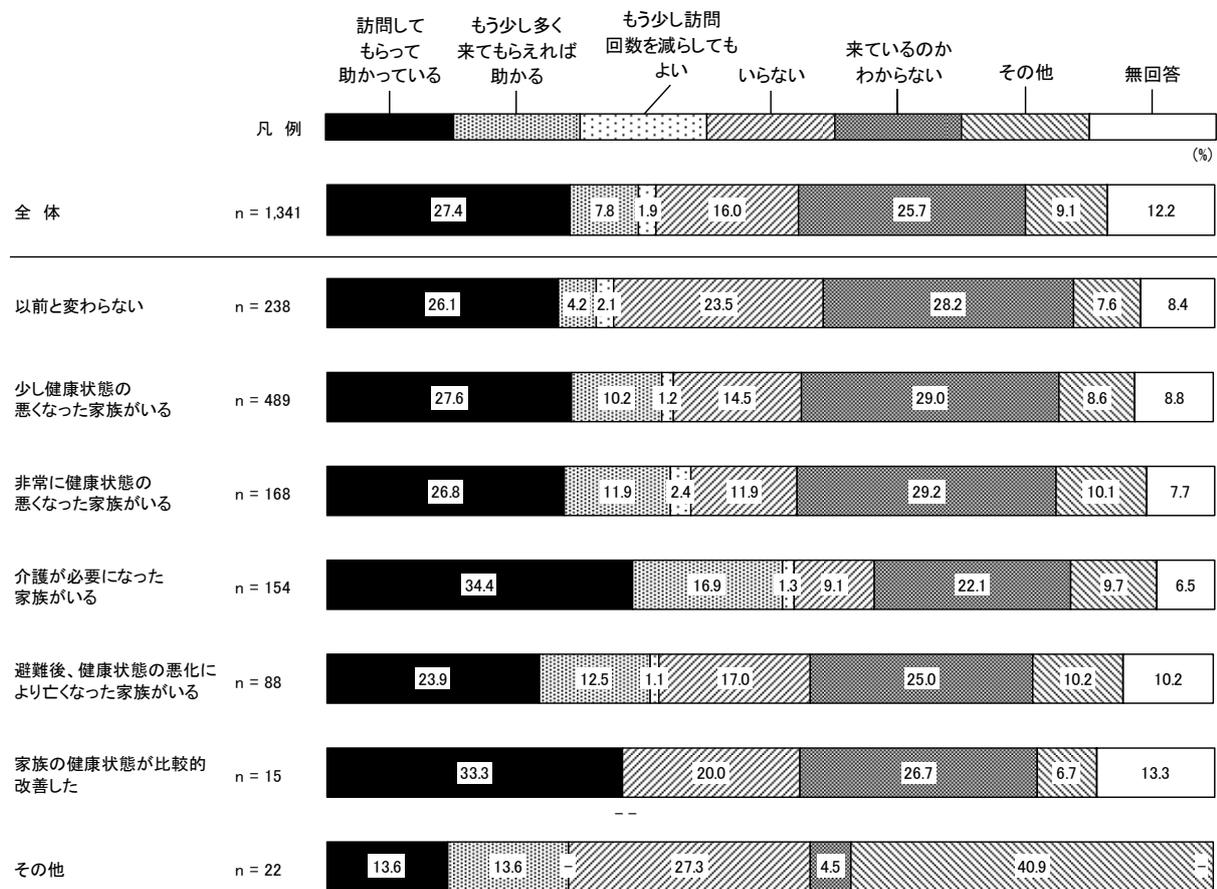
自身の健康状態別にみると、介護が必要になって、家族の負担が増えているでは「訪問してもらって助かっている」(42.7%)、「もう少し多く来てもらえれば助かる」(16.7%)の割合が高くなっている。

＜図表3-4-4-2 飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談（自身の健康状態別）＞



家族の健康状態別にみると、介護が必要になった家族がいるでは「訪問してもらって助かっている」(34.4%)、「もう少し多く来てもらえれば助かる」(16.9%)の割合が高くなっている。

＜図表3-4-4-3 飯館村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談（家族の健康状態別）＞

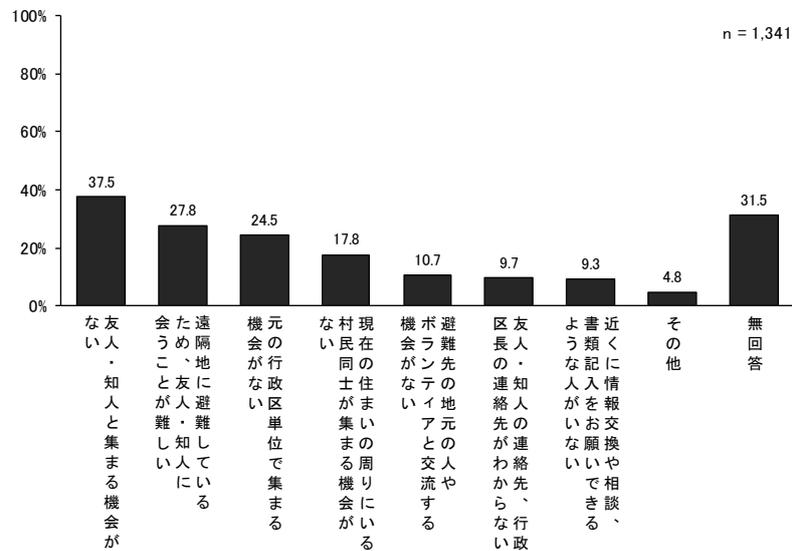


3-4-5 友人・知人・地域コミュニティ面での困りごと

問 21 これまでのご近所づきあいなど、友人・知人とのお付き合いや地域コミュニティの面で、お困りのことはありますか。(〇はいくつでも)

友人・知人・地域コミュニティの面での困りごとについては、「友人・知人と集まる機会がない」が37.5%と最も高く、次いで「遠隔地に避難しているため、友人・知人に会うことが難しい」が27.8%、「元の行政区単位で集まる機会がない」が24.5%となっている。

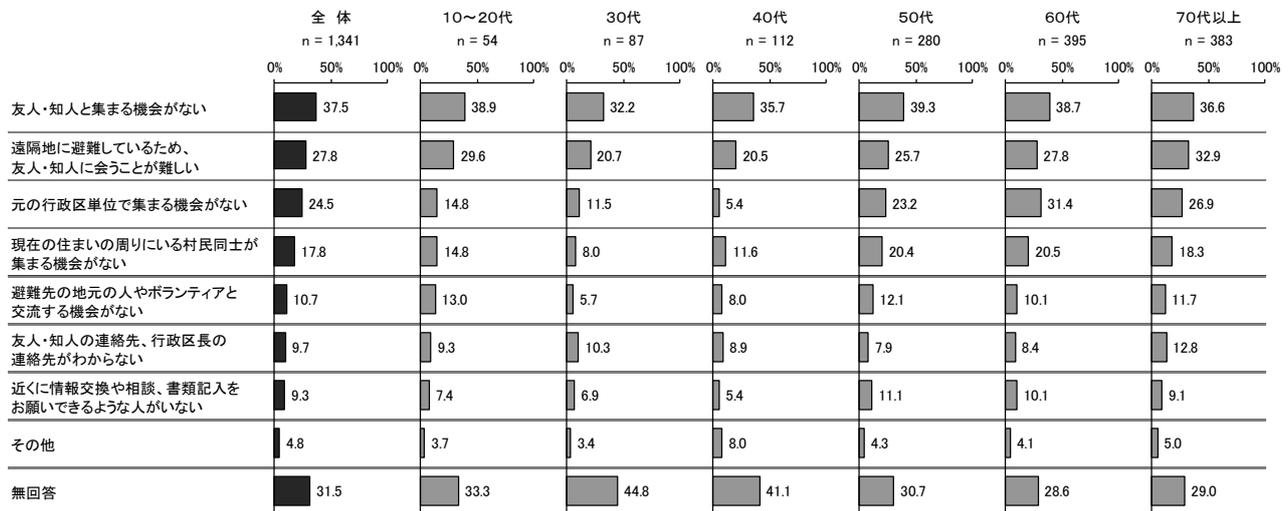
<図表3-4-5-1 友人・知人・地域コミュニティ面での困りごと>



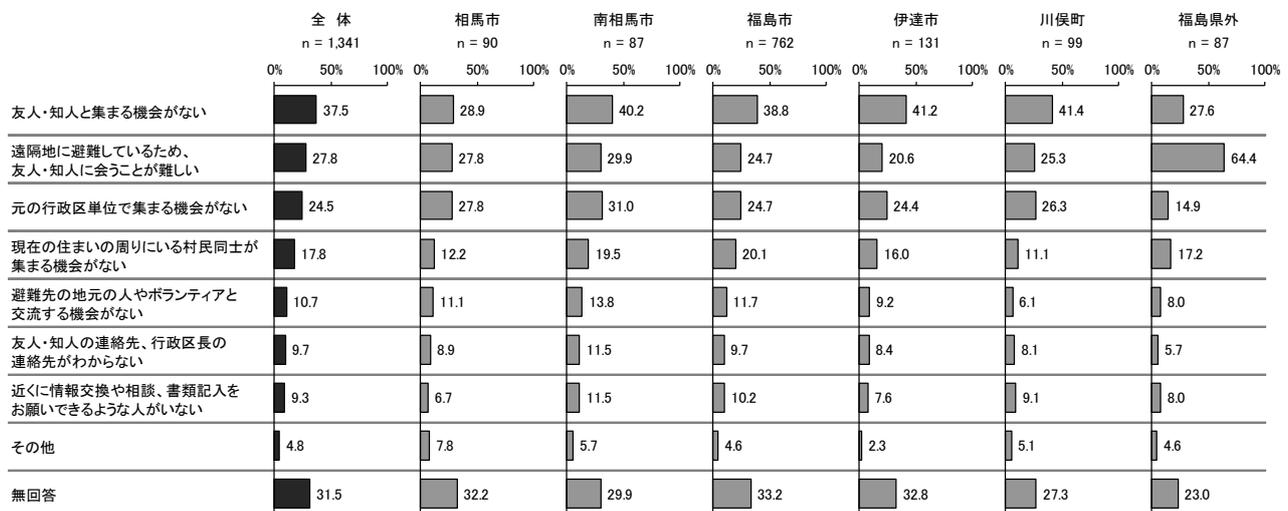
回答者の年齢別にみると、「元の行政区単位で集まる機会がない」は50代以上で2割以上、「現在の住まいの周りにいる村民同士が集まる機会がない」は50代以上で2割前後と、他の年齢と比べて高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、「遠隔地に避難しているため、友人・知人に会うことが難しい」は福島県外(64.4%)で、他の自治体と比べて高くなっている。

＜図表3-4-5-2 友人・知人・地域コミュニティ面での困りごと（年齢別）＞



＜図表3-4-5-3 友人・知人・地域コミュニティ面での困りごと（主な避難先自治体別）＞



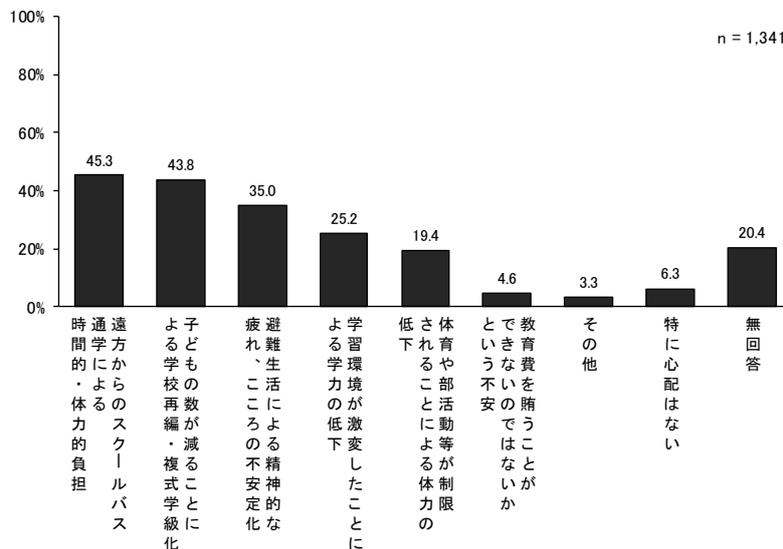
3-4-6 子どもたちの教育についての心配ごと

問 22 村の将来を担う子どもたちの教育について、今後心配な事がありますか。(〇は3つまで)

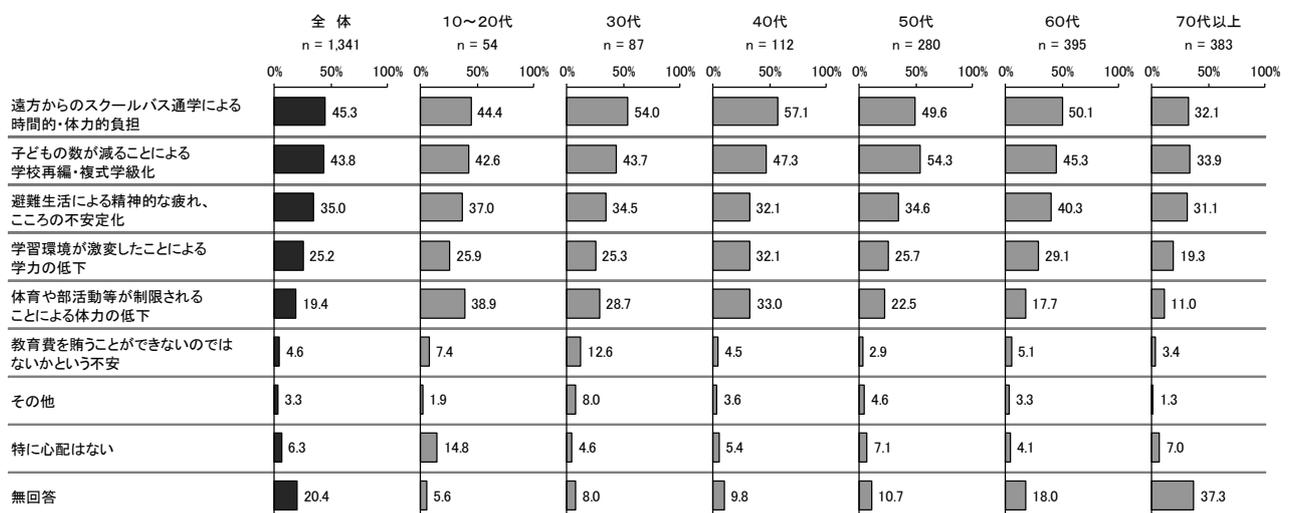
子どもたちの教育についての心配ごとについては、「遠方からのスクールバス通学による時間的・体力的負担」が45.3%と最も高く、次いで「子どもの数が減ることによる学校再編・複式学級化」が43.8%、「避難生活による精神的な疲れ、こころの不安定化」が35.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「遠方からのスクールバス通学による時間的・体力的負担」は30代(54.0%)、40代(57.1%)、「子どもの数が減ることによる学校再編・複式学級化」は50代(54.3%)、「体育や部活動等が制限されることによる体力の低下」は10~20代(38.9%)、30代(28.7%)、40代(33.0%)で、他の年齢と比べて高くなっている。また、「教育費を賄うことができないのではないかという不安」は30代で1割を超えている。

<図表3-4-6-1 子どもたちの教育についての心配ごと>



<図表3-4-6-2 子どもたちの教育についての心配ごと(年齢別)>



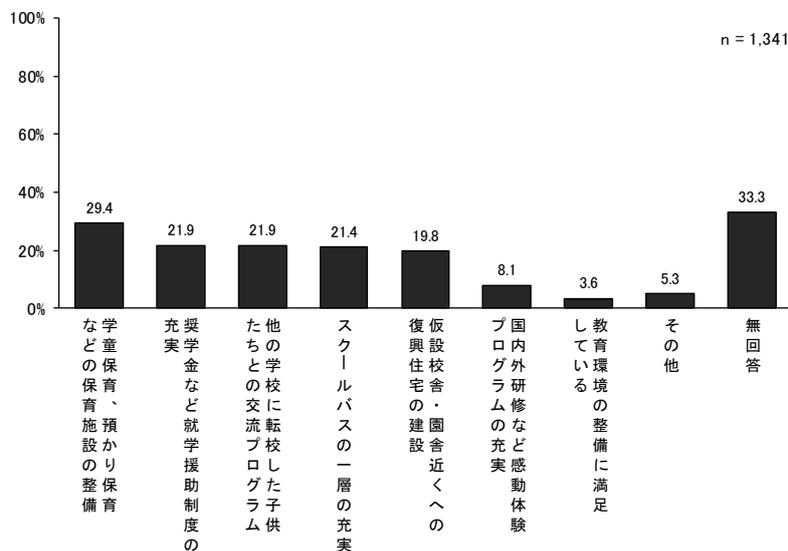
3-4-7 教育の充実を図るために必要なこと

問 23 村では、村外に仮設校舎や園舎を建て、教育環境を整備しています。今後一層教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。(〇は3つまで)

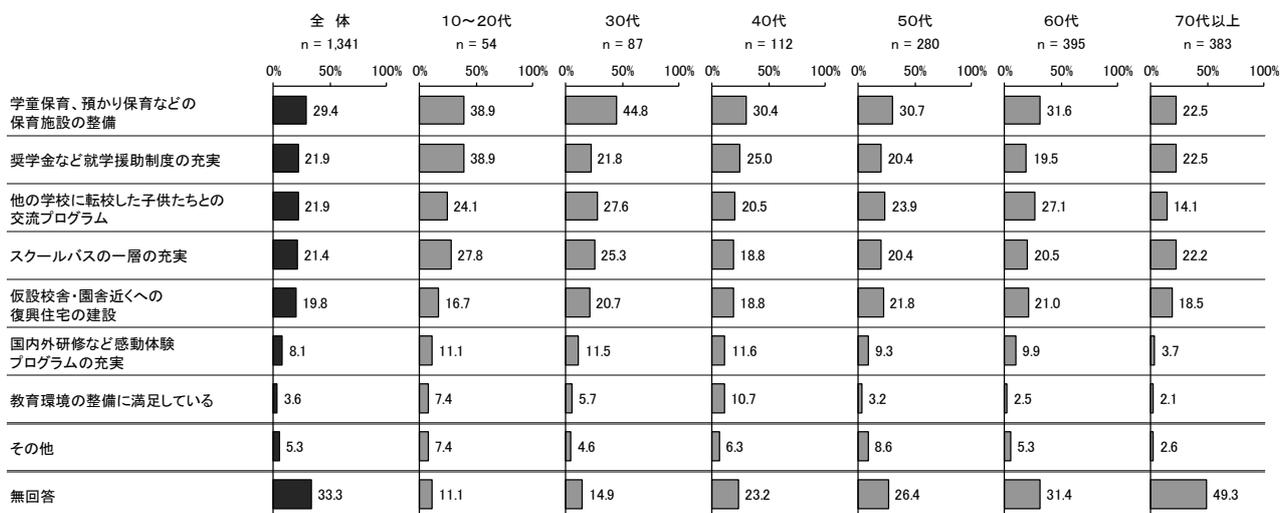
教育の充実を図るために必要なことについては、「学童保育、預かり保育などの保育施設の整備」が29.4%と最も高く、次いで「奨学金など就学援助制度の充実」、「他の学校に転校した子供たちとの交流プログラム」が21.9%、「スクールバスの一層の充実」が21.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「学童保育、預かり保育などの保育施設の整備」は30代(44.8%)、「奨学金など就学援助制度の充実」は10~20代(38.9%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-7-1 教育の充実を図るために必要なこと>



<図表3-4-7-2 教育の充実を図るために必要なこと(年齢別)>



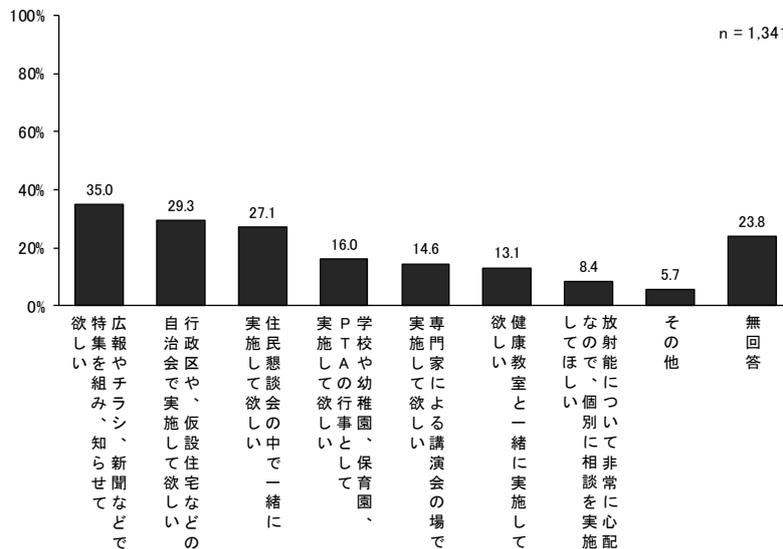
3-4-8 放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさ

問 24 放射線については、村では情報誌「かわら版みちしるべ」を中心に情報提供を行っておりますが、この他、放射線に対しての勉強会等を開催する場合、どのように実施すると参加しやすいですか。
(〇はいくつでも)

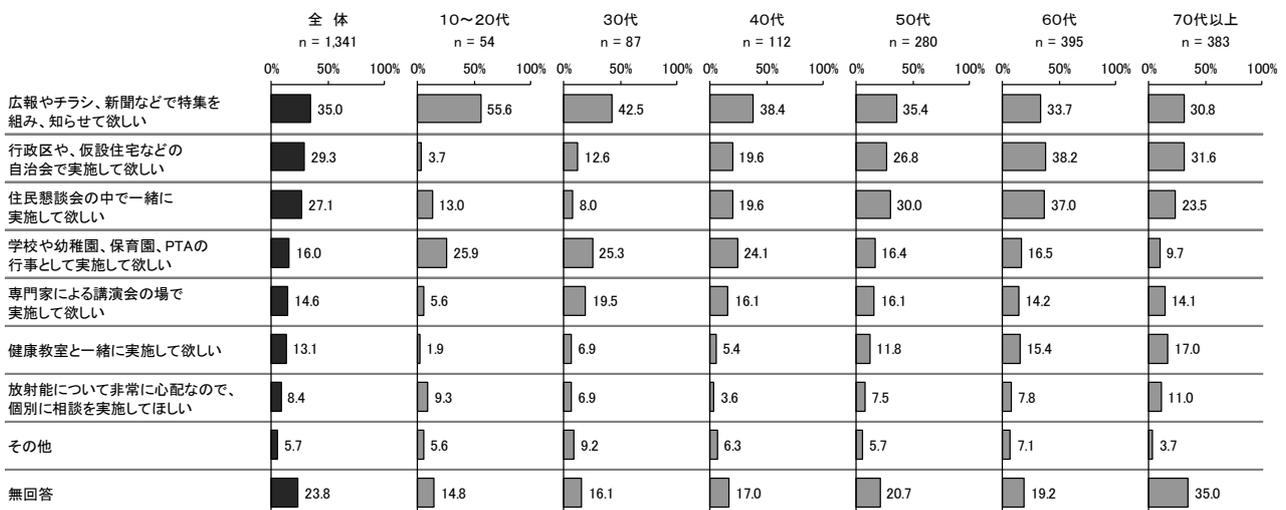
放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさについては、「広報やチラシ、新聞などで特集を組み、知らせて欲しい」が35.0%と最も高く、次いで「行政区や、仮設住宅などの自治会で実施して欲しい」が29.3%、「住民懇談会の中で一緒に実施して欲しい」が27.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「広報やチラシ、新聞などで特集を組み、知らせて欲しい」は10～20代(55.6%)、「行政区や、仮設住宅などの自治会で実施して欲しい」は60代(38.2%)、「住民懇談会の中で一緒に実施して欲しい」は50代(30.0%)、60代(37.0%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-8-1 放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさ>



<図表3-4-8-2 放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさ(年齢別)>

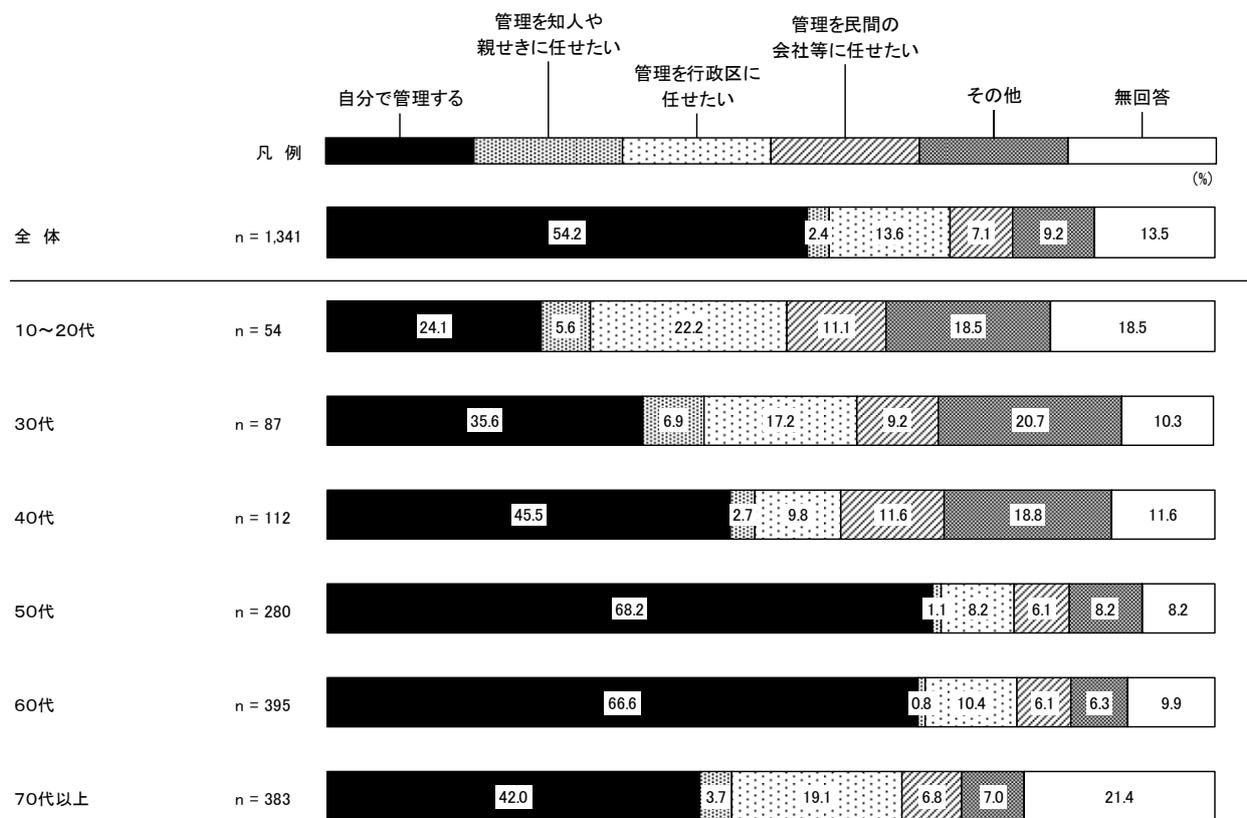


3-4-9 除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理

問 25 除染が終了した後の家屋及び家屋周辺の維持管理についてはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理については、「自分で管理する」が54.2%と最も高く、次いで「管理を行政区に任せたい」が13.6%、「管理を民間の会社等に任せたい」が7.1%となっている。
 回答者の年齢別にみると、「自分で管理する」は、50代(68.2%)、60代(66.6%)で、他の年齢と比べて高くなっている。一方、「管理を行政区に任せたい」は10~20代(22.2%)、30代(17.2%)、70代以上(19.1%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-9-1 除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理(年齢別)>



3-4-10 除染終了後の農地の維持管理

【農地を所有するすべての方にうかがいます。】

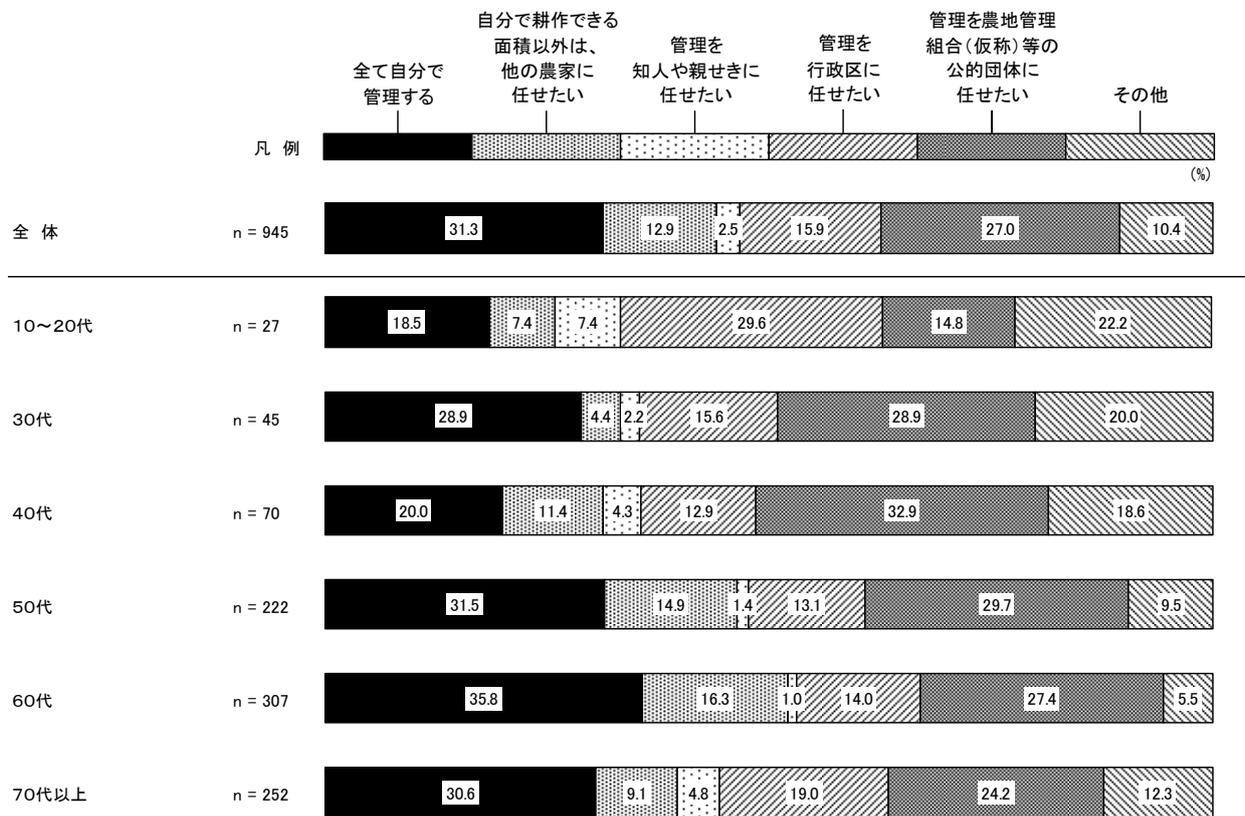
問 26 除染が終了した後の農地の維持管理についてはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

※本設問は農地を所有するすべての方にうかがう調査であったが、農地を所有していないため回答しなかったと思われる回答が多く見受けられた。そのため、本設問を回答した方が農地を所有しているものとして処理した

除染終了後の農地の維持管理については、「全て自分で管理する」が31.3%と最も高く、次いで「管理を農地管理組合(仮称)等の公的団体に任せたい」が27.0%、「管理を行政区に任せたい」が15.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「全て自分で管理する」は60代で35.8%、「管理を行政区に任せたい」は10~20代で29.6%となっており、他の年齢と比べて高くなっている。

＜図表3-4-10-1 除染終了後の農地の維持管理(年齢別)＞



3-5 意見・要望

問 27 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、365 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染廃棄物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能なかどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

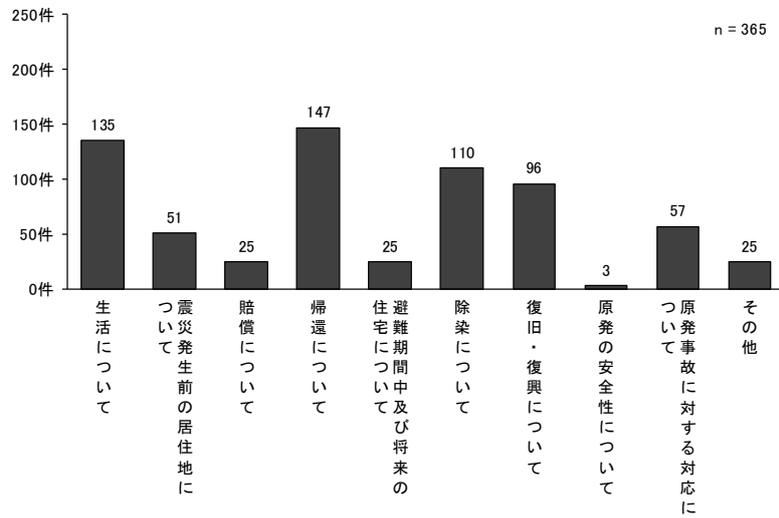
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「帰還について」が147件と最も多く、次いで「生活について」が135件、「除染について」が110件などとなっている。

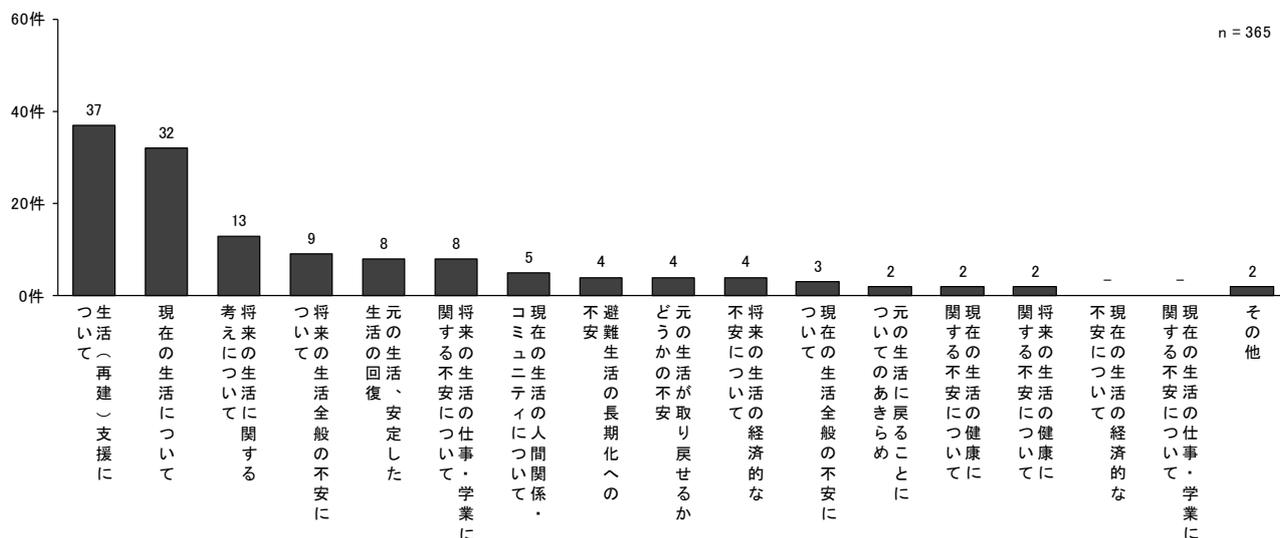
<図表3-5-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が37件と最も多く、次いで「現在の生活について」が32件、「将来の生活に関する考えについて」が13件などとなっている。

<図表3-5-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[生活（再建）支援について]

- 子供が福島市の小学校に通っており、とても楽しく行っているのでこのまま継続して福島市の学校に行かせたいと思っています。今後、帰村となっても小学校、中学校も福島市内で通うという選択ができるようにしていただければと思います。(30代)
- 医療費窓口負担なしと高速無料は、ぜひ続けてほしい。とても助かっている。(30代)
- 子供や老人に対する支援は多いが20代～の単身の人達に対するものは無い気がする。この場を借りて何度か書いたが変わりがないのは、その人達のことは見えていない、考えていないということなのだろうか。それでは若者が村を支えようなんて気にはならないと思う。(10～20代)

[現在の生活について]

- 何を話しても自分の気持ちにはつながらないし要望しても届かない。自分自身で前向きに生きていくことでいっぱい。(50代)
- 原子力災害で村に（個人も）たくさんお金が入ったと思います。無駄遣いしないよう気を付けています。これから先も何が起きるかわからないので…。(40代)
- 飯舘村に今は戻らない…と言う状況ですが生まれ育った場所なので、完全に切りかえる事は難しい。ただ、今は、土地も持ち家もない私は今の生活を維持する事しか方法はない。(60代)

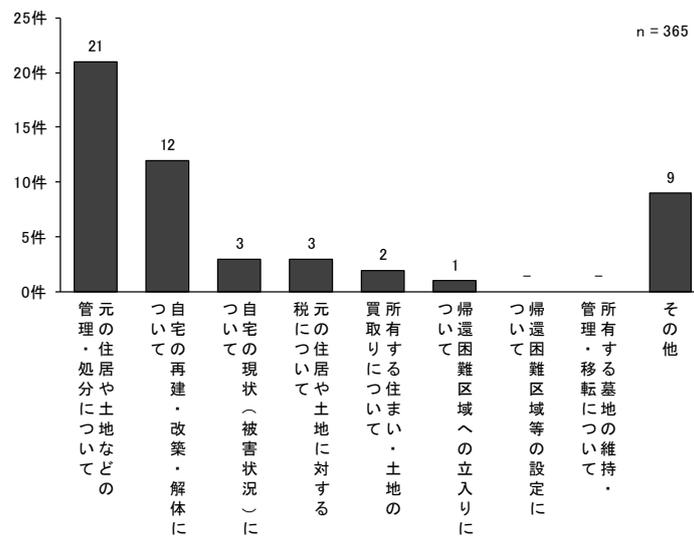
[将来の生活に関する考えについて]

- 作物を作っても売れないと思うので農業をやりたいとは考えていない。除染物が田畑にあるので当分作付けは出来ないと思う。(50代)
- 展望は全く見えませんが、自分の土地を守るのは自分だと考えています。生業として農業が成り立つ不安はありますが、少しでも進む為には、何かを作って売る事がまず大切だと思うので、作って販売します。(60代)
- 深谷地区はまだ線量が高いので、下げてもらい、帰村して園芸野菜を作付けしたい。(60代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が21件と最も多く、次いで「自宅の再建・改築・解体について」が12件、「自宅の現状（被害状況）について」「元の住居や土地に対する税について」が3件などとなっている。

＜図表3-5-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 戻れないのは分かっているが、家・土地をどうするのが良いのか決断しかねる。(30代)
- 私たち夫婦もこれから高齢になり、現在の飯館の家や農地・山林等をどのように管理していくか不安である。(60代)
- 高齢の為、農地（牧草地など）はその内ほったらかしになると思う。(70代以上)

【自宅の再建・改築・解体について】

- 早く自宅を解体してほしい。解体しないと何も出来ないと思います。(50代)
- 大工さんが不足してるため、即リフォーム、新築が難しいので、この事についてはもっと長い時間が欲しいです。(60代)
- 壊れかけた建物を早く取り壊してほしいです。跡地に機械の格納庫をつくりたいのです。(70代以上)

【自宅の現状（被害状況）について】

- 飯館が故郷なので失いたくない気持ちがあるし、家も失くせないと思っています。しかし、目の前にフレコンバッグが山積みになっている現状を見たり、家の周りが草ボーボーの状態を見るとがっかりしてしまいます。(50代)
- 二年前の大雪で、作業小屋は壊れたし、大変困っております。手を掛けて修繕しなければ、すぐの入居は無理です。(70代以上)

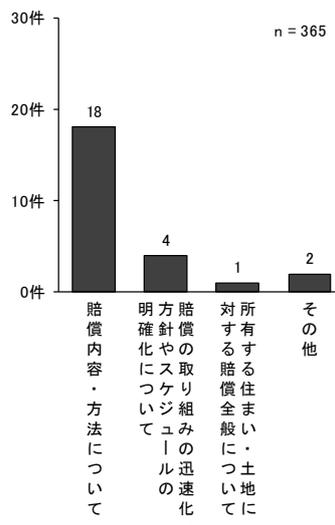
【元の住居や土地に対する税について】

- 家屋、農地など先代の名義になっていますが、親族が名義変更の手続きに協力的でなくハンコを押してくれません。税金の支払いはすべてこちらでしています。(40代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が18件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が4件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が1件などとなっている。

<図表3-5-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 同じ避難民として、原発近くの人たちと同じ補償をしてほしいです。(10~20代)
- 個人事業主なので仕事が継続していける支援と売上の減少率の補償をして欲しい。(50代)
- 放射線の心配がある限り補償の継続をして欲しい。(70代以上)

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について】

- 賠償額の確定をしっかりと行なってほしい(家族、家、精神面も含め)。(30代)
- 未だに、本賠償や、家屋、土地賠償が決まってない。(50代)

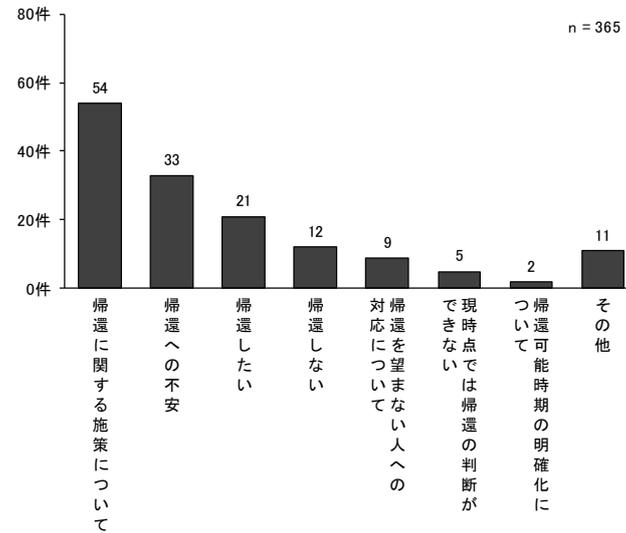
【所有する住まい・土地に対する賠償全般について】

- 所有地や建物等の維持管理は長期にわたるため、多額の維持管理費が予想されるので、この対策に行政的にこれを補う方策を考えて頂きたい。(70代以上)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が54件と最も多く、次いで「帰還への不安」が33件、「帰還したい」が21件などとなっている。

<図表3-5-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[帰還に関する施策について]

- 飯舘村は平成29年4月に避難解除となっているが本当にその決断は正しいのですか？国、県、村の為の解除にしか思えません。命を一番に、健康を一番に考えるのが自治体の役割ではないですか？（30代）
- 帰村宣言がされているが、時期尚早と思う。結果が出れば、いつでも帰れるのでは。線量、体への影響等、慎重な判断を望む。（50代）
- 飯舘村に帰村する人はほとんどが高齢者と思われる。そのため、村の運営、各種事業にはその高齢者の働きが不可欠である。「高齢者が生き生きと活躍できる飯舘村」等のキャッチフレーズで帰還を進めて行ってはどうか。（70代以上）

[帰還への不安]

- 帰村者は高齢者が多く若者は戻らないと聞いている。高齢者の村となった時交通機関はどうなる。自分で車を運転出来なくなった時が不安である。（60代）
- 医療環境に不安がある。避難先の方が生活利便性や設備が良い。（70代以上）
- 村に戻る事にはしているけれど、その時自分達が健康なのかまだ保障がないので大変不安です。あまり、贅沢は考えないけれど医者、買い物などが心配です。（70代以上）

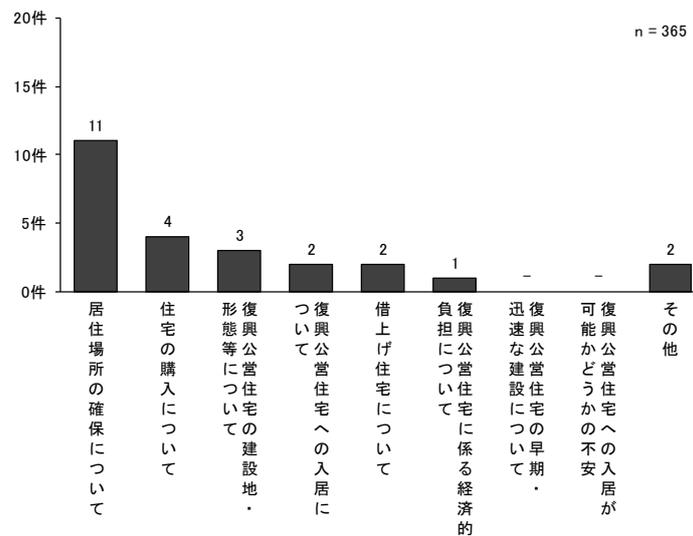
[帰還したい]

- 動ける内に戻って家を守りたい。（60代）
- 私自身は戻りたいが高齢のためどうにもならない。（70代以上）
- 年老いた母がいますので、一日も早い帰村を願っています。（50代）

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が11件と最も多く、次いで「住宅の購入について」が4件、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が3件などとなっている。

<図表3-5-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 飯舘の家へ帰りたくとも、帰れる家がありません。住める状態でなく、家の中で座る事もできません。私は、家へ帰りたいです。(30代)
- 現在は応急仮設住宅(公営住宅)に入居しているが、提供して頂いている自治体からは、避難解除後はそのまま有償となることもなく、またそのまま継続して入居することは出来ないので必ず退居しなければならないとの事で大変困惑している。新しい入居先を探してはいるが大変難しい状況である。(50代)
- 他の市町村に、行政区ごとに自宅を再建できる土地の確保をしてほしい。(50代)

【住宅の購入について】

- 私は、飯舘村に住む計画はありません。県外への住宅の建設の保証金がほしいです。(50代)
- いつまでも狭いアパート暮らしはしたくないが、一戸建を建てたくても工面がつかない。(70代以上)

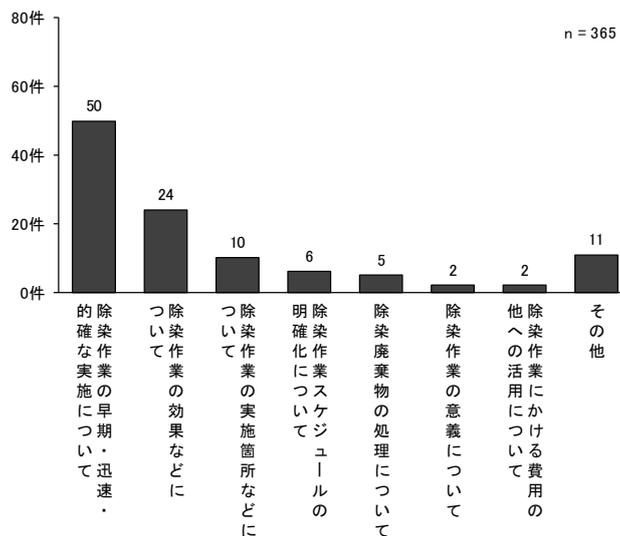
【復興公営住宅の建設地・形態等について】

- 復興住宅を福島市南部(南福島周辺)に建設して欲しい。また、双葉郡との共通入居ではなく、村単独の復興住宅を建設して欲しい。(30代)
- 復興住宅の建設が進められている中、空室も見受けられますが、希望する地域に希望のある数だけの建設で良いのではと思います。(60代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が50件と最も多く、次いで「除染作業の効果などについて」が24件、「除染作業の実施箇所などについて」が10件などとなっている。

<図表3-5-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 除染した後も、宅地回りの線量が高い所があり、下がるまで除染してほしい。山林に囲まれている家なのでなかなか下がらないと思うので、国では除染しないと言うが、いずれはしてほしい。(50代)
- 除染後の放射線の低下の状況にもよりますが、事故前の環境でまた農業が出来る様に努力して下さい。農地の水路、河川、道路、法面、除染すべき所だけです。(60代)
- 形だけの除染でなく、実際に放射能が下がって安心して住めるような状態にしていただくことを望む。(70代以上)

【除染作業の効果などについて】

- 除染が終わっても、住宅周りの線量が他の地域（飯館村以外の）より高い。他の地域と同じ線量になるまでは、考えてほしい。(40代)
- 除染が終了しても以前と同じになったわけではない。やはり時間が過ぎないと線量は下がらないのかなと思う。(50代)
- 除染完了した宅地、農地ですが、ちょっと日数が経つと線量が元に戻るのはどういうことですか。表土の剥ぎ取りが不十分のように私には見えました。(60代)

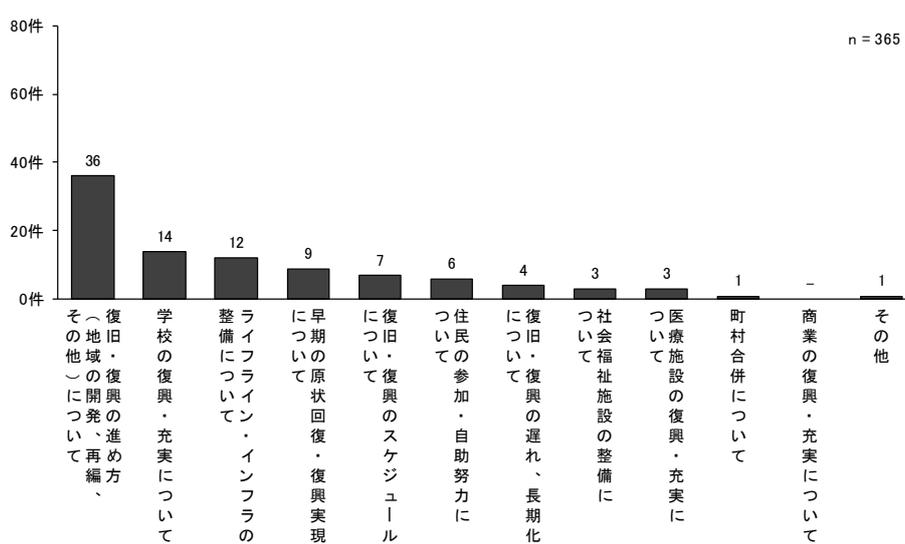
【除染作業の実施箇所などについて】

- 除染について。農地の中の畦、土手等なぜ除染しないのか（周辺20mまで除染しているのに）。営農再開にとって非常に迷惑、再開しづらくしている。早期に除染すべき。(60代)
- 今、除染を行っていますが、山を除染しなければ無意味だと思います（雨等で山から田、畑、宅地に放射能が来るため）。(50代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが36件と最も多く、次いで「学校の復興・充実について」が14件、「ライフライン・インフラの整備について」が12件などとなっている。

<図表3-5-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について]

- 国のデータセンターの誘致、村のクラウド化による高度情報処理立村を目差し、新たな村づくりとその発展の起爆剤にしてみたい。(50代)
- 若い人達が戻って来なければ村は消滅する可能性がある一方で、若い人達が来てみたいと思うような事を検討する。(60代)
- どう行政が、良くしようと動いても、村民がその気でなければ決して変わらない。村の一人歩きにすぎない。村民調査の結果と現状を、よく政策と照らし合わせ、現実を受け入れるほかない。(50代)

[学校の復興・充実について]

- 現在飯舘村は、避難解除後に小、中学校を今の場所から飯舘村に帰校させるとのことであるが、現在の飯舘村の現況を鑑みればもう少し様子を見てから帰校させてもよいのではないと思われる。(40代)
- 学校（小、中）は、飯舘へ戻った場合、何人戻るのか。子供は戻りたくないの、転校させるしかないと思っています。(50代)
- 放射線がとて心配です。復興公営住宅を村外に整備をしている中で、学校を村内に戻すのは反対です。(40代)

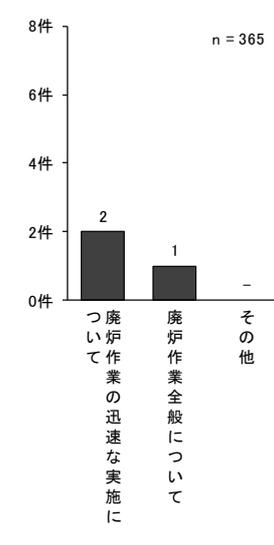
[ライフライン・インフラの整備について]

- 実家の入り道には鉄板が引いてあり、村の簡易水道を引く事が出来ません。早く何とかしてほしいです。(50代)
- 帰村後は高齢者が多くなり、現在は車の運転も自由に出来ていても、他人を乗せて移動する「自信がない」という人達の声を耳にします。移動手段等も考えてほしい。(60代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が2件と最も多く、次いで「廃炉作業全般について」が1件となっている。

<図表3-5-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[廃炉作業の迅速な実施について]

- 除染の徹底（安心・安全で生活）、原発の最終処分。（50代）

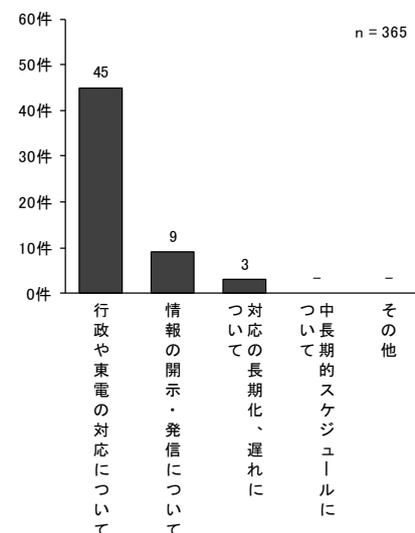
[廃炉作業全般について]

- 除染の徹底や社会基盤の復旧、働く場の確保、原子力発電所の確かな安全性など、山積み。（60代）

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が45件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が9件、「対応の長期化、遅れについて」が3件となっている。

<図表3-5-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 戻る、戻らないに関係なく、各個人に対しての対応を希望します。(40代)
- 国、自治体の考えばかりが先走っていると思う。もっと住民の考え、思いも受け入れて、住民が戻るには何がいいのか、どうすればいいのか目に見えるようにしてほしい。(50代)
- 全ての住民要望を広く集め住民の声を行政に反映させる。(70代以上)

【情報の開示・発信について】

- 除染をしても下がらないことを、国、県等は知っているのに、正しい情報を出していないのではないかと思います。不安しかありません。(50代)
- 安全な放射線量とは、いくつと数値で提示し継続して開示すべき。(50代)
- ストロンチウムに関する情報発信が無い事が、村民の健康をしっかりと考えていないと考える。(40代)

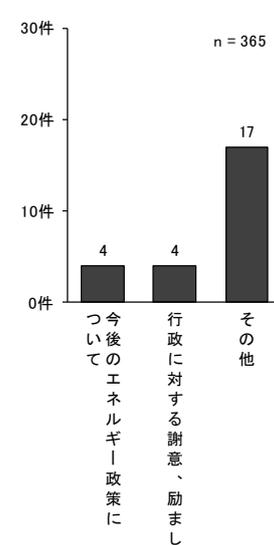
【対応の長期化、遅れについて】

- 村の対応が遅すぎる。他の市町は復興住宅の申し込みが早く、そちらの方へ申し込んだ後に、村に復興住宅の予定があると言われてもどうすることも出来ない。(60代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「今後のエネルギー政策について」、「行政に対する謝意、励まし」が4件などとなっている。

＜図表3-5-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【今後のエネルギー政策について】

- 今後、原発を再開するなら、原発のある地域内で放射性廃棄物を処分すべき。(10～20代)
- 未開発な科学の利用を即辞めるべき。人間が疎外され、儲け本位の方向を改めるべき。(60代)

【行政に対する謝意、励まし】

- 村の役場の方々は、色々と助けてくれているので本当にありがとうございます。自分の小さな子供にも、色々と気にかけてもらいうれしいです。(30代)
- 私は震災後体調を悪くしました。役場職員の方々も大変苦勞されていると思っています。体調にはくれぐれも注意して下さい。表面に見えない心勞、激務に心から感謝をしております。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

飯舘村住民意向調査

—この調査は、国・福島県・飯舘村が共同で行う調査です。—

記入上の注意

● 調査の目的

この調査は、皆様の避難生活の現状や、将来への意向、そして原発避難者向け復興公営住宅への入居意向等、避難に関わる一般的な事項について国・県・村が共同で調査を行い、その結果を今後の避難者支援や復興の取り組みに活かしていくことを目的としています。つきましては、避難生活でお疲れのところ大変恐縮ですが、調査の目的・趣旨をご理解の上、よろしくご協力をお願いいたします。

※復興公営住宅への入居意向確認にかかるご連絡の関係から、調査は記名式でお願いしております。さしつかえなければ最後のページに「氏名」、「住所」、「連絡先」のご記入をお願いいたします。

● 調査をお願いする方

震災発生時、飯舘村に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。

現在、世帯が何ヶ所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票の送付されたお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

□ の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

➤ 個人情報について

- ・調査票にご記入いただいた個人情報は、飯舘村、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、目的以外には使用いたしません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、**個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。**

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**12月21日（月）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-901-845

[設置期間：12月8日（火）～12月21日（月）10時～17時]
土・日・祝を除く

復興公営住宅について

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

避難地域復興局 生活拠点課 Tel 024-521-8617

飯舘村に関することについて

飯舘村

〒960-1301 福島県福島市飯野町字後川10番地の2

飯野出張所 総務課企画係 Tel 024-562-4246

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 あなたの性別(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

【すべての方にうかがいます。】

問 3 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|--|--|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済)
2. 自営業・会社経営者(休業中)
3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)
4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)
5. 団体職員
6. 公務員
7. パート・アルバイト | 8. 見守り隊
9. 学生
10. 無職(職を探していない)
11. 無職(職を探している)
12. その他 (具体的に) |
|--|--|
- } ⇒問 4 へ



【仕事に就いている方(問3(1)で「1」から「7」、「12」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に) |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | |

東日本大震災発生当時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-----------------------|
| 1. 草野 | 9. 宮内 | 17. 関根・松塚 |
| 2. 深谷 | 10. 飯樋町 | 18. 白石 |
| 3. 伊丹沢 | 11. 前田・八和木 | 19. 前田 |
| 4. 関沢 | 12. 大久保・外内 | 20. 二枚橋・須萱 |
| 5. 小宮 | 13. 上飯樋 | 21. その他 |
| 6. 八木沢・芦原 | 14. 比曾 | (わからない場合は住所を記載してください) |
| 7. 大倉 | 15. 長泥 | |
| 8. 佐須 | 16. 蕨平 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 (具体的に |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 6-1 あなた(もしくはあなたのご家族)は、避難後に、避難前のご自宅へどの程度戻られていますか(一時帰宅の形も含めます)。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 一度も自宅には戻っていない | ⇒問 7 へ |
| 2. 何度か自宅に戻ったが、現在はほとんど戻らない | ⇒問 7 へ |
| 3. 何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている | ⇒ (毎月: 回数) (年: 回数) |
| 4. 定期的に自宅に戻っている | ⇒ (毎月: 回数) (年: 回数) |
| 5. その他(具体的に: |) ⇒問 7 へ |

▶【問 6-1 で「3. 何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」「4. 定期的に自宅に戻っている」と回答した方にうかがいます。】

問 6-2 避難前のご自宅へ定期的に戻られる理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 自宅を管理するため | |
| 2. お墓を管理するため | |
| 3. 村民・地域のコミュニティ、交流を維持するため | |
| 4. ペットの世話をするため | |
| 5. 心身のリフレッシュのため | |
| 6. その他(具体的に |) |

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在のご自宅の状況についてうかがいます。わかる範囲でお答えください。
(○はいくつでも)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 特に被害はない 2. 建物や設備の損傷やカビ、ネズミ等の被害が発生している 3. 建物や設備の損傷やカビ、ネズミ等の被害で住めなくなっている 4. イノシシやサルにより家屋や庭が荒らされている 5. 不審者による侵入、盗難があった 6. 家屋が荒廃したまま放置している 7. 国による家屋の解体事業より解体済み(又は予定)である 8. 今後新築又は修繕・リフォームをする予定である 9. 新築又は修繕・リフォーム済み(又はまたは工事が進行中)である 10. 家を売却済みである 11. 自宅の状況はわからない 12. その他(具体的に: _____)
--

【すべての方にうかがいます。】

問 8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。
なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 自営業・会社経営者 2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) 3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) 4. 団体職員 5. 公務員 6. パート・アルバイト 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 学生 8. 無職(職を探していなかった) 9. 無職(職を探していた) 	} ⇒問 9 へ
10. その他 (具体的に _____)		



【問 8 (1) で「1. 自営業・会社経営者」～「6. パート・アルバイト」、「10. その他」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 農・林・漁・畜産業 2. 建設業 3. 製造業 4. 電気・ガス・水道業 5. 運輸業 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 金融・保険業 8. 医療・福祉 9. 教育 10. 公務 11. その他 (具体的に _____)
---	---



【問 8 (1) で「1. 自営業・会社経営者」～「6. パート・アルバイト」、「10. その他」と回答した方にうかがいます。】

(3) 就業先の所在市区町村

(都・道・府・県)

(市・区・町・村)

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 9 あなたが現在避難されている市区町村を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 川内村 7. 新地町 	<p>【 中 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 福島市 9. 郡山市 10. 白河市 11. 須賀川市 12. 二本松市 13. 田村市 14. 伊達市 15. 本宮市 16. 桑折町 17. 川俣町 18. 大玉村 19. 西郷村 20. 三春町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 21. 会津若松市 22. 喜多方市 23. 会津美里町 <p>【 福島県内のその他の市町村(1から23以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> (市・町・村) <p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> (都・道・府・県) <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> (市・区・町・村)
---	--	---

【すべての方にうかがいます。】

問 10-1 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

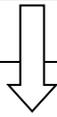
あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

IV 参考資料

問 10-2 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1. 世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む) | ⇒問 11 へ |
| 2. 合計2か所に分散 | } ⇒問 10-3 へ |
| 3. 合計3か所に分散 | |
| 4. 合計4か所以上に分散 | |



【問 10-2 で「2」「3」「4」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 分散して住んでいる理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 住居が狭いため | 5. 放射線の影響を考えて |
| 2. 家族の仕事のことで | 6. その他 (具体的に |
| 3. 子どもの学校のことで |) |
| 4. 家族の健康上のことで | |

【すべての方にうかがいます。】

問 11 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

復興公営住宅など今後の避難期間中の居留意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 12 現在、福島県は「別紙2 福島県における原発避難者向け復興公営住宅について」に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。

あなたの世帯は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(○は1つ)

※この質問で、入居申し込みや入居の確約を行うものではありません。

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1. 既に当選または入居が決定している(入居している) | } ⇒問 12-1 へ |
| 2. 入居の申し込み中である | |
| 3. 今後、入居申し込みしたい | |
| 4. 現時点では判断できない ⇒問 12-4 へ | |
| 5. 入居を希望しない ⇒問 12-5 へ | |

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している(入居している)方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方(問12で「1」、「2」、「3」と回答した方)にうかがいます。】

問 12-1 入居が決定している(入居している)、入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域(市町村名)、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

(1) 市町村名を教えてください。

	復興公営住宅(生活拠点)を整備済み または整備中の市町村				その他の市町村 ()にご希望の市 町村名を記入して ください。	分散して 入居しない
	福島市	南相馬市	二本松市	川俣町		
<1世帯目> (○は1つ)	1	2	3	4	(5)	
<2世帯目> (○は1つ)	1	2	3	4	(5)	6

※家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方(希望も含む。)は、<2世帯目>の列にもお答えください。

(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

※分散してお住まいのご家族についてはご記入いただかなくて結構です。

	ア) 未就学児 (小学校入学前)	イ) 小学生	ウ) 中学生	エ) 15歳以上 18歳未満 (中学生を除く)	オ) 18歳以上 65歳未満	カ) 65歳以上
<1世帯目>	人	人	人	人	人	人
<2世帯目>	人	人	人	人	人	人

IV 参考資料

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している（入居している）方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問12で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問12-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 避難住民同士の交流会等の開催 | 4. 子どもの学習支援 |
| 2. 地元住民との交流会等の開催 | 5. 健康相談員の設置 |
| 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) | 6. その他〔具体的に〕 |

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している（入居している）方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問12で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問12-3 現在、ペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 室内で犬を飼っている | |
| 2. 室外で犬を飼っている | |
| 3. 猫を飼っている | |
| 4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に:) | |
| 5. ペットは飼っていない | |

└─→ 問13へ

【問12で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問12-4 復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。

（〇はいくつでも）

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. 持ち家の購入を検討しているから | 6. 復興公営住宅の周辺環境がわからないから |
| 2. できれば応急仮設住宅(プレハブ型・借上げ型)に住み続けたいから | 7. 近所にどのような人が住むかわからないから |
| 3. 集合住宅ではなく一戸建に住みたいから(希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから) | 8. 自身の生活の見通しがたっていないから |
| 4. 希望する復興公営住宅でペットを飼えない(飼えるかわからない)から | 9. 賠償の状況がわからないから |
| 5. 高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから | 10. 家賃を支払うことになるから |
| | 11. その他〔具体的に〕 |

└─→ 問13へ

【問 12 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-5 入居を希望しない場合に、居住を希望する(既に居住している場合を含む)市区町村はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1から23以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・区・町・村)

【 その他 】

26. 決めかねている

【問 12 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます】

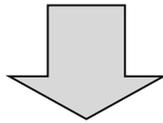
問 12-6 今後のお住まいとして、希望する(既に居住している場合を含む)住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他(具体的に) |
| 5. 公営住宅 | 10. 現在のお住まい |
| | 11. 現時点では判断できない |

【すべての方にかがいます。】

問 13 将来、飯館村の避難指示が解除された後の飯館村への帰還について、現時点でどのようにお考えで

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)
2. まだ判断がつかない



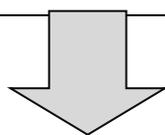
「1」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

問 13-1-1 飯館村へ戻る時期についてどうお考えですか。(○は1つ)

1. 解除後すぐに戻りたい
2. 解除後3年以内に戻りたい
3. 解除後5年以内に戻りたい
4. 解除後10年以内に戻りたい
5. 時期は決めていないがいずれ戻りたい

問 13-1-2 飯館村へ戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. まだわからない



問 14-1 へ

問 13-2 飯館村へ戻ることを判(○はいくつでも)

1. 避難指示解除となる時期の目安
2. 道路、バス、病院などの社会基
3. 村内での学校再開(幼稚園、小
4. どの程度の住民が戻るかの状況
5. 放射線量の低下の目途、除染
6. 中間貯蔵施設の情報
7. 原子力発電所の安全性に関する
8. 放射線の人体への影響に関する
9. 働く場の確保の目途
10. 農・林・畜産業再開の目途
11. 賠償額の確定
12. 住宅確保への支援に関する情
13. 自宅のリフォーム、建て替えの
14. 商店再開の目途
15. その他(具体的
16. 現時点で家族間の意見が分か
17. 現時点ではどのような情報があ

問 13-3 今後も行政参加や住民“つながり”を保ちたいと

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない

いてお聞かせください。

すか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(○は1つ)

3. 戻らないと決めている

「2」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

「3」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

断するために必要なことを教えてください。

に関する情報
盤(インフラ)の復旧時期の目途
・中学校)の目途

成果の状況

る情報(事故収束や廃炉の状況)
る情報

報
目途

れており、帰還意向について回答できない
れば判断できるかわからない

同士のコミュニティ等、飯舘村との
思いますか。(○は1つ)

問 13-3 今後も行政参加や住民同士のコミュニティ等、
飯舘村との“つながり”を保ちたいと思いますか。
(○は1つ)

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない

問 15 へ

問 16-1 へ

IV 参考資料

【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 14-1 飯舘村に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。
(特に重要と思うものに3つまで○)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 被ばく低減対策 | 10. 公共交通機関の再開 |
| 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | 11. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 |
| 3. 商業施設の再開や新設 | 12. 村内への復興住宅建設 |
| 4. 農・林・畜産業の再開支援 | 13. 放射線量の測定・公表(空間線量・水) |
| 5. 村内での営農支援 | 14. 道路や農地、農業用施設の整備 |
| 6. 雇用確保・就業支援 | 15. 生活が安定するまでの補償の継続 |
| 7. 医療、介護福祉施設の再開や新設 | 16. その他(具体的に:) |
| 8. 村内での保育所・預かり保育の再開 | 17. 特にない |
| 9. 村内での学校や教育施設の再開や新設 | |

【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 14-2 帰還した場合のお住まいに、一緒に住む予定の人数を教えてください。(○は1つ)

- | |
|---------|
| 1. 1人 |
| 2. 2人 |
| 3. 3人 |
| 4. 4人 |
| 5. 5人 |
| 6. 6人 |
| 7. 7人以上 |

【問 13 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 14-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | ⇒問 17 へ |
| 2. 自宅とは別の場所(村内)に新たに一戸建の持ち家を建てたい | ⇒問 14-4 へ |
| 3. 村の公営住宅 | ⇒問 14-5 へ |
| 4. 賃貸アパート | } ⇒問 17 へ |
| 5. 家族のどなたかのお住まい・実家 | |
| 6. 親戚・知人宅 | |
| 7. その他(具体的に) | |
| 8. 現時点では判断できない | |

【問 14-3 で「2. 自宅とは別の場所（村内）に新たに一戸建の持ち家を建てたい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-4 自宅とは別の場所を希望される理由は、何ですか。（○はいくつでも）

1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから
2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから
3. 飯館村内の新たな場所で生活を開始したいから
4. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから
5. その他(具体的に)

 問 17 へお進みください

【問 14-3 で「3. 村の公営住宅」と回答した方にうかがいます。】

問 14-5 村では、復興計画(第4、5版)において、自宅に戻っても一人暮らしが難しい高齢者や、村内で働く方などのための村営住宅(復興住宅)を村内復興拠点エリア(深谷地区)に建設する計画です。また、この他にも、草野大谷地地区にも新しく村営住宅を建設します。村営住宅が建設された場合、入居を希望しますか。（○は1つ）

- | | |
|---|---------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 村内復興拠点(深谷地区)の村営住宅に入居したい 2. 大谷地住宅に入居したい 3. 既存の村営住宅に入居したい（場所等：) | } ⇒ <u>問 14-6 へ</u> |
| |) ⇒ <u>問 17 へ</u> |

問 14-5 で「1. 村内復興拠点（深谷地区）の村営住宅に入居したい」「2. 大谷地住宅に入居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-6 新しく整備を計画している村営住宅について、どのような建て方を希望しますか。（○は1つ）

1. 集合住宅
2. 長屋建て(平屋もしくは2階建て)
3. 一戸建て
4. 特にこだわらない



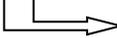
問 14-7 新しく整備を計画している村営住宅について、どのような施設があればよいと考えますか。（○は1つ）

1. 住民や地域住民が交流できる集会所
2. 住民や地域住民が利用できる地域食堂・コミュニティカフェ
3. 住民や地域住民が交流できるコミュニティ農園
4. 介護サービス等が受けられる高齢者施設
5. 避難されている家族が一時宿泊できる施設
6. その他(具体的に:)



問 14-8 新しく整備を計画している村営住宅について、どのようなサービスがあればよいと考えますか。(○は1つ)

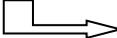
1. 安否確認や見守りのサービス
2. 健康相談・生活相談のサービス
3. 健康増進・介護予防サービス
4. 配食サービス
5. 移動販売サービス
6. その他(具体的に: _____)

 問 17 へお進みください

【問 13 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 15 今後、どのような支援を望みますか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. 県借上げ住宅制度の継続 | 8. 村民同士の交流の場の確保 |
| 2. 村外への2世代・3世代が同居できる復興住宅の確保 | 9. 放射線被ばくを軽減するための勉強会 |
| 3. 子育て支援(母親同士のつながりづくりなど) | 10. 行政情報の継続的な発信 |
| 4. 要介護者への支援 | 11. 原発災害に関する補償の継続 |
| 5. 就労先の紹介・あっせん | 12. その他(具体的に _____) |
| 6. 運動・レクリエーション・スポーツ活動への支援 | |
| 7. 趣味などを通じた生きがいづくり支援 | |

 問 17 へお進みください

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 16-1 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから
2. 放射線量が低下せず不安だから
3. 仮置き場の片づけが終わらないから
4. 原子力発電所の安全性に不安があるから
5. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【村内の復旧状況に関わるもの】

6. 飯舘村に戻っても仕事がなさそうだから
7. 飯舘村での事業の再開が難しいから
8. 営農などができそうにないから
9. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
10. 飯舘村外への移動交通が不便だから
11. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
12. 医療環境に不安があるから
13. 介護・福祉サービスに不安があるから
14. 教育環境に不安があるから
15. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

16. 一人暮らしなので生活が不安だから
17. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
18. 他の住民も戻りそうにないから
19. 帰還までに時間がかかるから
20. 避難先で仕事を見つけているから
21. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
22. 避難先の方が生活利便性が高いから
23. その他(具体的に: _____)

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 16-2 帰還しない場合に、今後、居住を希望する(既に居住している場合を含む)市区町村はどこですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 川内村 7. 新地町 	<p>【 中 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 福島市 9. 郡山市 10. 白河市 11. 須賀川市 12. 二本松市 13. 田村市 14. 伊達市 15. 本宮市 16. 桑折町 17. 川俣町 18. 大玉村 19. 西郷村 20. 三春町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 21. 会津若松市 22. 喜多方市 23. 会津美里町 <p>【 福島県内のその他の市町村(1から23以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> <p style="text-align: right;">(市・町・村)</p> <p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> <p style="text-align: right;">(都・道・府・県)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> <p style="text-align: right;">(市・区・町・村)</p> <p>【 その他 】</p> <p>26. 決めかねている</p>
---	--	---

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 16-3 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する(既に居住している場合を含む)住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(集合住宅) 3. 民間賃貸住宅(一戸建) 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) 5. 公営住宅 6. 給与住宅(社宅など) 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 8. 親戚・知人宅 9. その他(具体的に 10. 現在のお住まい 11. 現時点では判断できない)
--	---

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

問 16-4 今後、どのような支援を望みますか。(○は3つまで)

1. 復興公営住宅に関する情報提供
2. 借上げ住宅制度(家賃補助)の延長
3. 原発災害に関する補償の継続
4. 移転先での農林業、商工業再開への支援
5. 健康管理への支援(総合健診、放射線に関する健診)
6. 情報提供の継続(広報誌・お知らせ版等)
7. 村イベント等への継続招待
8. 村民との交流に関する支援
9. 自宅・土地等財産の維持管理に関する支援
10. その他(具体的に:)

現在のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 17 避難後のご家族(ご自身を含む)の食生活・栄養状態などについて、近頃変化はありましたか。(〇はいくつでも)

1. 以前と変わらない
2. 外食やコンビニ弁当などが増えた
3. 食事を作るのが大変になった
4. 油っぽいものを食べるが増えた
5. お菓子など、糖分の多いものを食べるが増えた
6. 塩分の多いものを食べるが増えた
7. 食が細くなった
8. 食べ過ぎることが多くなった
9. 物が噛めなくなったり、飲み込みにくくなった
10. その他(具体的に:)

【すべての方にうかがいます。】

問 18 避難生活が続く中で、ご家族(ご自身を含む)の生活や体調などに近頃変化はありますか。(〇はいくつでも)

1. 農作業や園芸など、身体を動かす機会が少なくなった
2. 何もすることがなく、ぼんやり過ごすようになった
3. 周辺に友人・知人が少なく、話し相手がいない
4. 隣近所の人との交流がうまくいかない
5. タバコやアルコールを飲む回数や飲む量が増えた
6. 睡眠があまりとれていない
7. 体重が急に増えた・減った
8. 血圧の変化や、不整脈などが起こるようになった
9. イライラすることが増えた
10. 出歩く機会が減り、部屋に引きこもりがちになった
11. その他(具体的に:)

【すべての方にうかがいます。】

問 19 ご自身及びご家族の健康状態(病気など)はいかがですか。(○はいくつでも)

【ご自身の健康に関わるもの】

1. 以前と変わらない
2. 少し健康状態が悪くなった
3. 非常に健康状態が悪くなった
4. 介護が必要になって、家族の負担が増えている
5. 健康状態が比較的改善した
6. その他(具体的に: _____)

【ご家族の健康に関わるもの】

7. 以前と変わらない
8. 少し健康状態が悪くなった家族がいる
9. 非常に健康状態が悪くなった家族がいる
10. 介護が必要になった家族がいる
11. 避難後、健康状態の悪化により亡くなった家族がいる
12. 家族の健康状態が比較的改善した
13. その他(具体的に: _____)

【すべての方にうかがいます。】

問 20 現在村では各家庭を訪問し健康相談や生活支援相談などを行っていますが、どのような感想をお持ちですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 訪問してもらって助かっている | 5. 来ているのかわからない |
| 2. もう少し多く来てもらえれば助かる | 6. その他(具体的に _____) |
| 3. もう少し訪問回数を減らしてもよい | |
| 4. いらぬ | |

【すべての方にうかがいます。】

問 21 これまでのご近所づきあいなど、友人・知人とお付き合いや地域コミュニティの面で、お困りのことはありますか。(○はいくつでも)

1. 友人・知人の連絡先、行政区長の連絡先がわからない
2. 友人・知人と集まる機会がない
3. 元の行政区単位で集まる機会がない
4. 遠隔地に避難しているため、友人・知人に会うことが難しい
5. 現在の住まいの周りには村民同士が集まる機会がない
6. 避難先の地元の人やボランティアと交流する機会がない
7. 近くに情報交換や相談、書類記入をお願いできるような人がいない
8. その他(具体的に: _____)

【すべての方にうかがいます。】

問 22 村の将来を担う子どもたちの教育について、今後心配な事がありますか。(○は3つまで)

1. 学習環境が激変したことによる学力の低下
2. 子どもの数が減ることによる学校再編・複式学級化
3. 遠方からのスクールバス通学による時間的・体力的負担
4. 体育や部活動等が制限されることによる体力の低下
5. 避難生活による精神的な疲れ、こころの不安定化
6. 教育費を賄うことができないのではないかと不安
7. その他(具体的に:)
8. 特に心配はない

【すべての方にうかがいます。】

問 23 村では、村外に仮設校舎や園舎を建て、教育環境を整備しています。今後一層教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。(○は3つまで)

1. 奨学金など就学援助制度の充実
2. 仮設校舎・園舎近くへの復興住宅の建設
3. 学童保育、預かり保育などの保育施設の整備
4. スクールバスの一層の充実
5. 国内外研修など感動体験プログラムの充実
6. 他の学校に転校した子どもたちとの交流プログラム
7. 教育環境の整備に満足している
8. その他(具体的に:)

【すべての方にうかがいます。】

問 24 放射線に関しては、村では情報誌「かわら版みちるべ」を中心に情報提供を行っておりますが、この他、放射線に対しての勉強会等を開催する場合、どのように実施すると参加しやすいですか。(○はいくつでも)

1. 学校や幼稚園、保育園、PTA の行事として実施して欲しい
2. 行政区や、仮設住宅などの自治会で実施して欲しい
3. 健康教室と一緒に実施して欲しい
4. 住民懇談会の中で一緒に実施して欲しい
5. 専門家による講演会の場で実施して欲しい
6. 放射能について非常に心配なので、個別に相談を実施してほしい
7. 広報やチラシ、新聞などで特集を組み、知らせて欲しい
8. その他(具体的に:)

【すべての方にうかがいます。】

問 25 除染が終了した後の家屋及び家屋周辺の維持管理についてはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

1. 自分で管理する
2. 管理を知人や親せきに任せたい
3. 管理を行政区に任せたい
4. 管理を民間の会社等に任せたい
5. その他(具体的に: _____)

【農地を所有するすべての方にうかがいます。】

問 26 除染が終了した後の農地の維持管理についてはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

1. 全て自分で管理する
2. 自分で耕作できる面積以外は、他の農家に任せたい
3. 管理を知人や親せきに任せたい
4. 管理を行政区に任せたい
5. 管理を農地管理組合(仮称)等の公的団体に任せたい
6. その他(具体的に: _____)

【すべての方にうかがいます。】

問 27 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移り頂くことが重要と考えております。

入居を迷っている方などに今後の居住についてご意向をお聞きしたり、復興公営住宅の進捗に応じて、復興公営住宅への入居希望をお持ちの方に希望の状況について改めてお聞きしたりする場合がありますので、あなたの氏名と現在のご住所、ご連絡先をご記入いただけますと幸いです。

なお、本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見やご要望などをお伺いすることを目的として実施しております。当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1 あなたの氏名を教えてください

F2 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
12月21日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**飯館村 住民意向調査
報告書**

平成28年3月

復興庁 福島県 飯館村

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター